

殊に薄やかなる絹の裳を曳きたる遊の色どり、手を觸れなば動きやせんと思ふ許り、流石に大理石彫刻の本場だけはありけりと孰も感に打たれぬ。  
晝近くなりて暑さ漸く甚し。十一時過ホテルに歸り、暑くるしき午餐を喫したる後は終日遂にホテルの外に出ず。

夜に入て、ポリテアナ、レヂナ、マルゲリタ座にて、伊國の逸品と稱せらるゝフレゴリの妙伎を見に行く。フレゴリは早變りの名人にて、唯一人にて様々の人物に扮し、芝居を見せ、獨唱を聴かせ、舞踏をやり、假色を使ひ、手品を演じ、樂隊を指揮し、奏樂を行ふ。目にも留らぬ早業なり。殊に様々の人物に早變りしつゝ、各種の假色を使ひ分けて、一人にて芝居を演ずるが如き最も珍とすべし。白髮雪の如き老人の皺枯れたる聲を振り絞りつゝ、幕の横間に入るよと見る間に、中より優しき女の聲の之に應對しつゝ立ち出づるを誰ぞと見れば、彼が早くも年若き美人に扮して女の聲を真似居たるなりき。又口をのみ自在に動かす人形を三つ四つ立たせおきて、之が身振に應じて己と諸種の臺詞を語り交す時の如き、左ながら人形自身の語り居るに異ならず。間説く、彼の今日迄に扮し得たる假裝の數凡そ四百に及び、彼が唯一人のみの興行にて一舉に幾千金を儲け得べしといふ。彼れ金を得れば得るに隨つて之を散じ、其間遊手無職

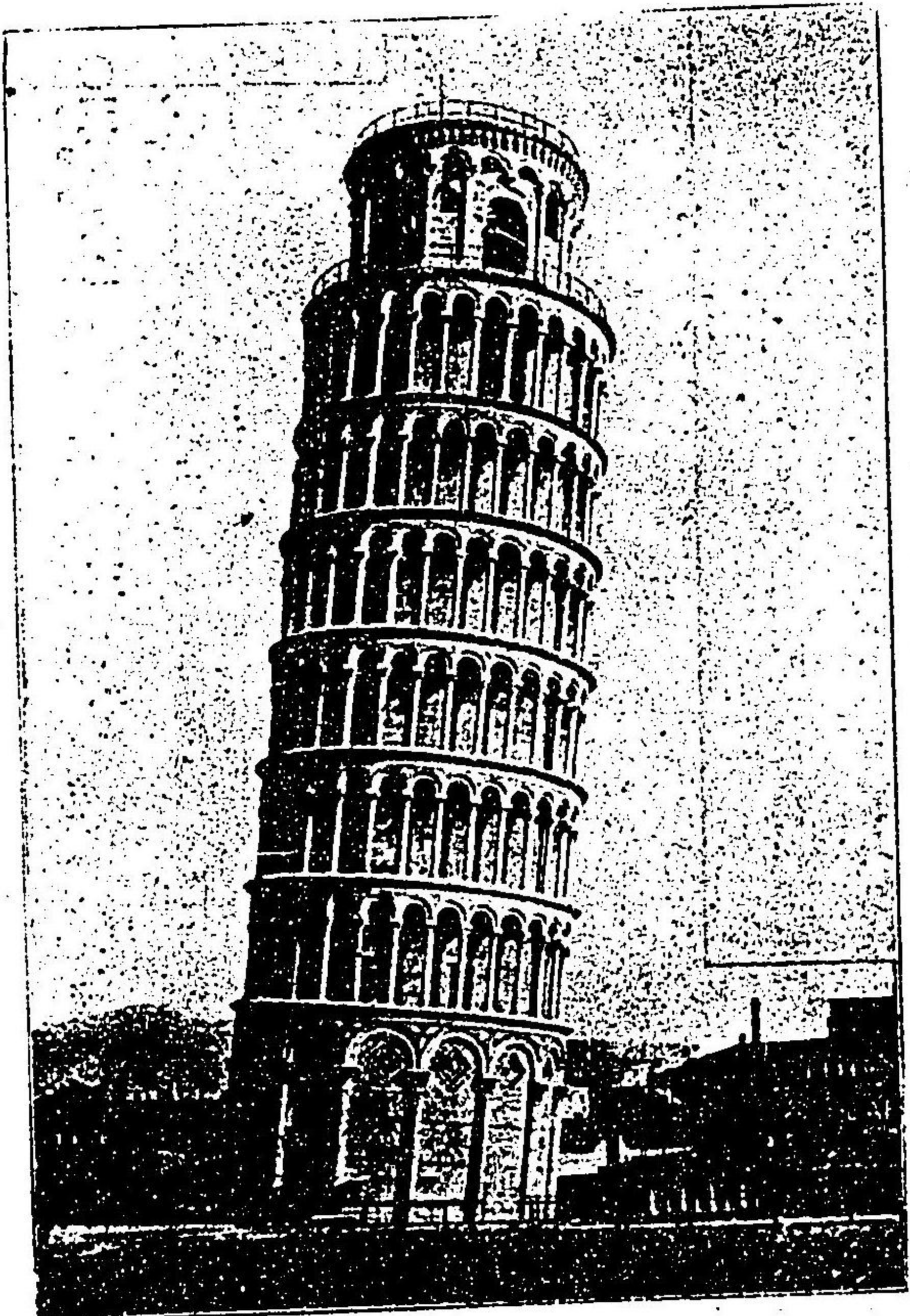
登澤三味に日を送り、金がなくなれば又出て来りて其の妙伎を演ず。天才といふは困つた男に多きものなり。彼も亦其の一なるべきか。十一時過一同大に感心してホテルに歸る。

### ▲羅馬に向ふ

地中海岸ーピサの斜塔

○五月二十日 午前十一時三十分ゼノアを發して羅馬に向ふに、暑さ左ながら蒸すが如く、殊に伊太利名物の砂塵汽車の走ると共に窓硝子の隙より飛び入りて、不快言ふべからず。伊太利の列車には食堂車といふものなきを以て、ホテルにて用意したる辨當を開きて午餐に代ふ。左ながら遊山にでも出かけたる心地なり。ゼノアを出で、より、道は地中海の岸に沿ひ、右には萬頭の碧波を眺め、左の方橄欖生ひ茂りたるアペナインの山脈を見る。風景頗る我邦の北陸沿岸に似たるものあり。

午後三時四十五分ピサを過ぎ、遙に有名なるピサの斜塔を觀る。塔は十二世紀の末に成りたる鐘樓にして、高さ百七十九呎。其頂點は基礎より横に曲れること十四呎なり。會員中此の斜塔が初より斜に建てたるものなりや否やの議論起りて頗る喧し。大久保不二君、之は故さらに



サピの斜塔

て故意説と偶成説との二つあり、兩者相争うて互に一歩をも譲らざりしが、今日一般の信する所にては、全く建築工事中南手の地盤に陥落を生じたる爲め、急に設計を變じて三層以上を北に傾けたるものなるべしとの説なりとあり。

初より斜に造れるなりとて、固く執つて動かす。ベデカーの案内記を案するに、昔より之に關し

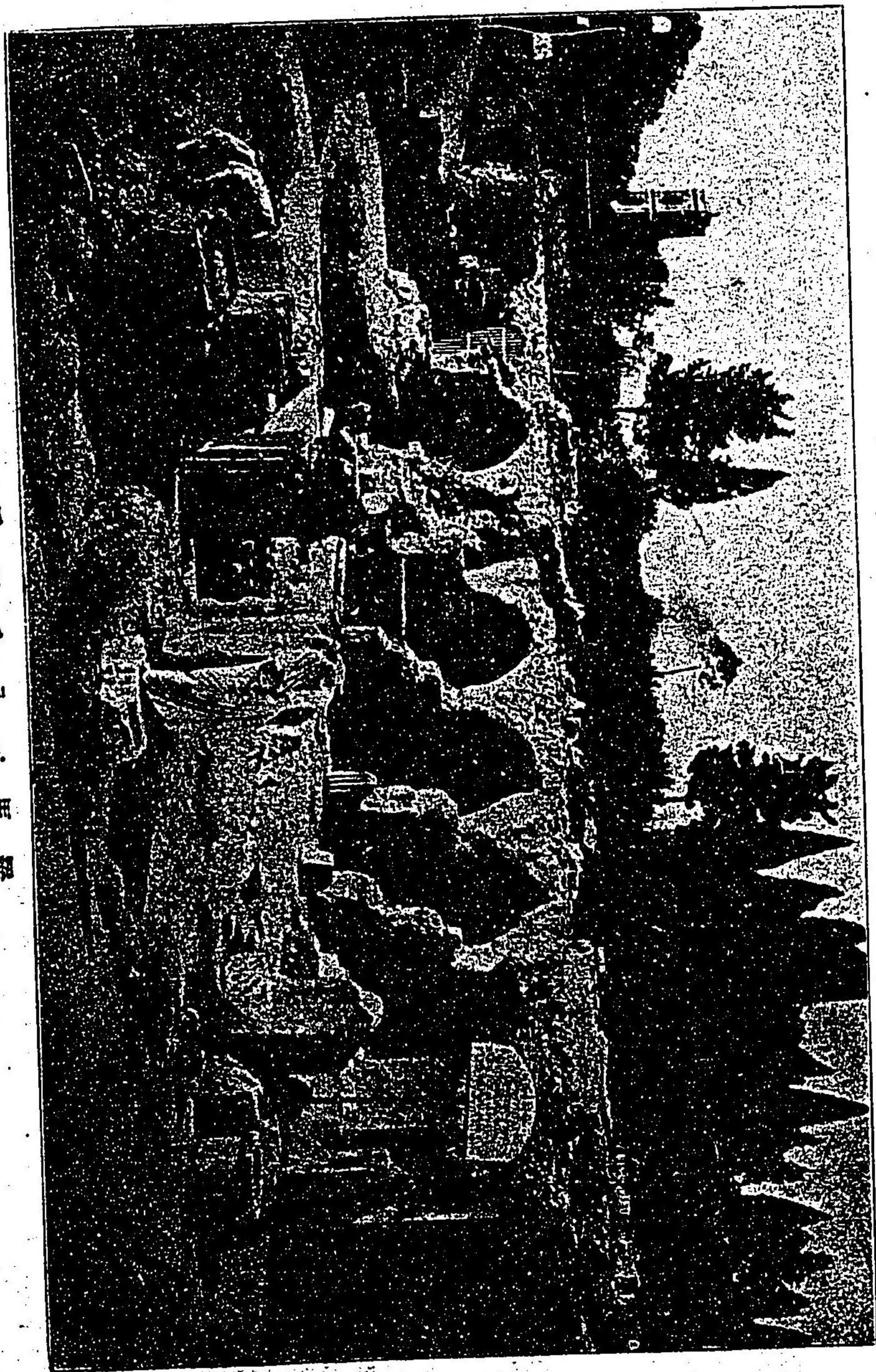
暑氣と塵埃とにて具さに伊太利旅行の苦を嘗めたる我等は、夜十時三十五分初めて羅馬に着したり。我等の搭じたるは停車場前のコンチンタル、ホテルとて、之も壯大なるホテルなり。

### ▲羅馬の古跡

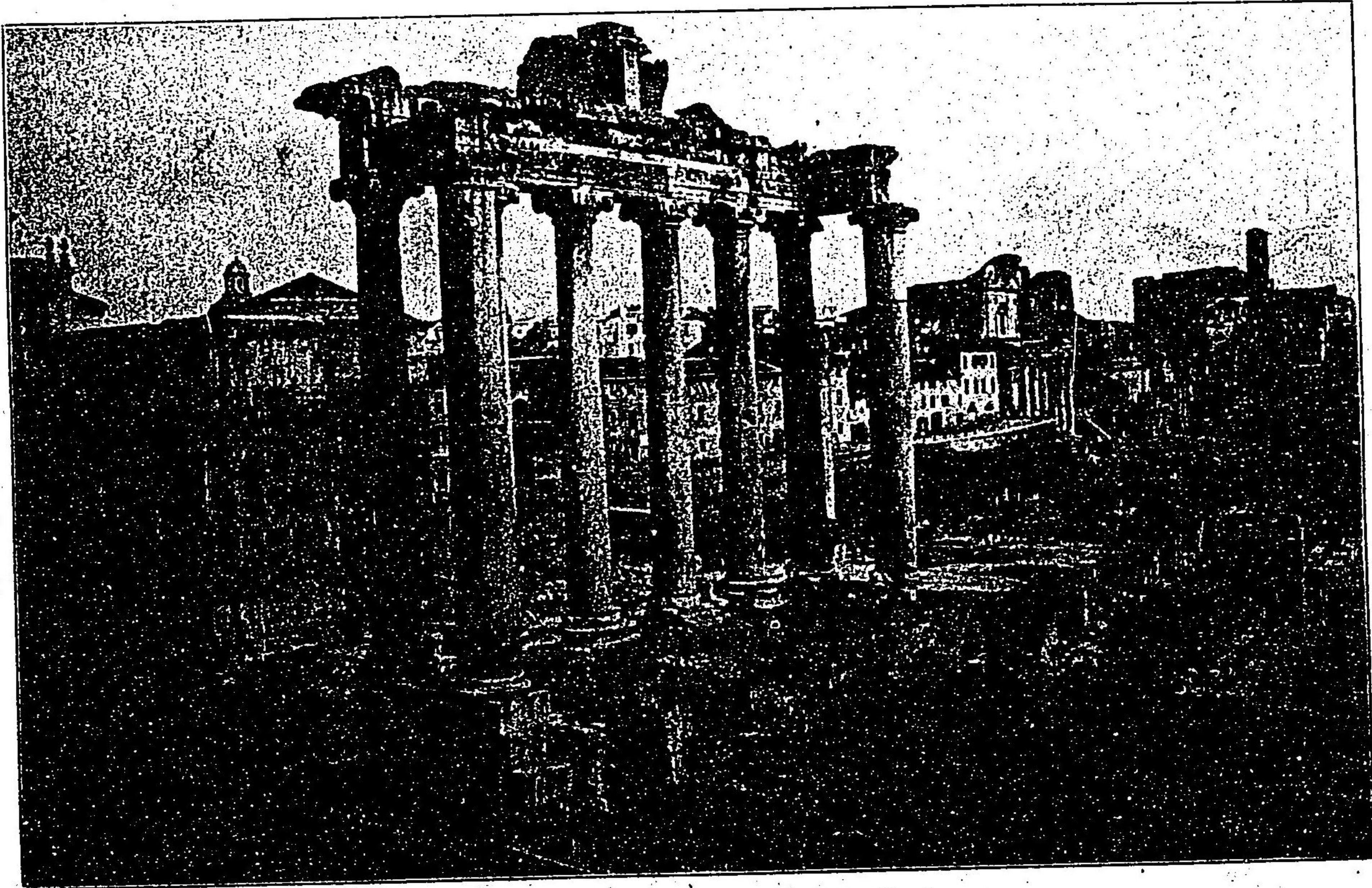
○五月二十一日 朝九時三十分十餘臺の馬車に分乗してホテルを發し、羅馬の古跡を巡覽せり。羅馬は其昔に於て世界の首府たり、中世に在りては法政の首府となり、千八百七十一年伊太利統一以來伊太利國の首府となる。人口四十二萬許、タイパー河を挟みて左岸に有名なる七丘を見る。其の歴史上最も重要なものをカピトリン丘とし、其の最も故跡の見るべきものを存するをバラチン丘となす。我等は先づ馬車を

#### △バラチン丘

に飛ばせたり。バラチン丘はフォラムの南に位し、共和時代に在りてはカチリン、シセロ、クローチアス等の住する所たり、帝政時代に在りてはオーガスタス先づ宮城を營み、カリギエラ、チロ、ドミシアンより下つてセプティマス、セベラス等次第に之に改造修補を加へて、世界の首府たるに恥ぢざる大夏高樓を此に築けり。其後年を経ると千五百餘年、昔の宮殿樓閣は全く地中



五ノチアラバ馬羅



ムラーオフの馬羅

に埋没して跡を止めざるに至りしが、千八百六十一年より之が發掘を始め、爾後伊太利政府の手にて之を繼續して、今日迄に既に世に顯はれたる名勝其の數を知らざるに至れり。我等の訪へる時尙盛に發掘し居たるを見たり。

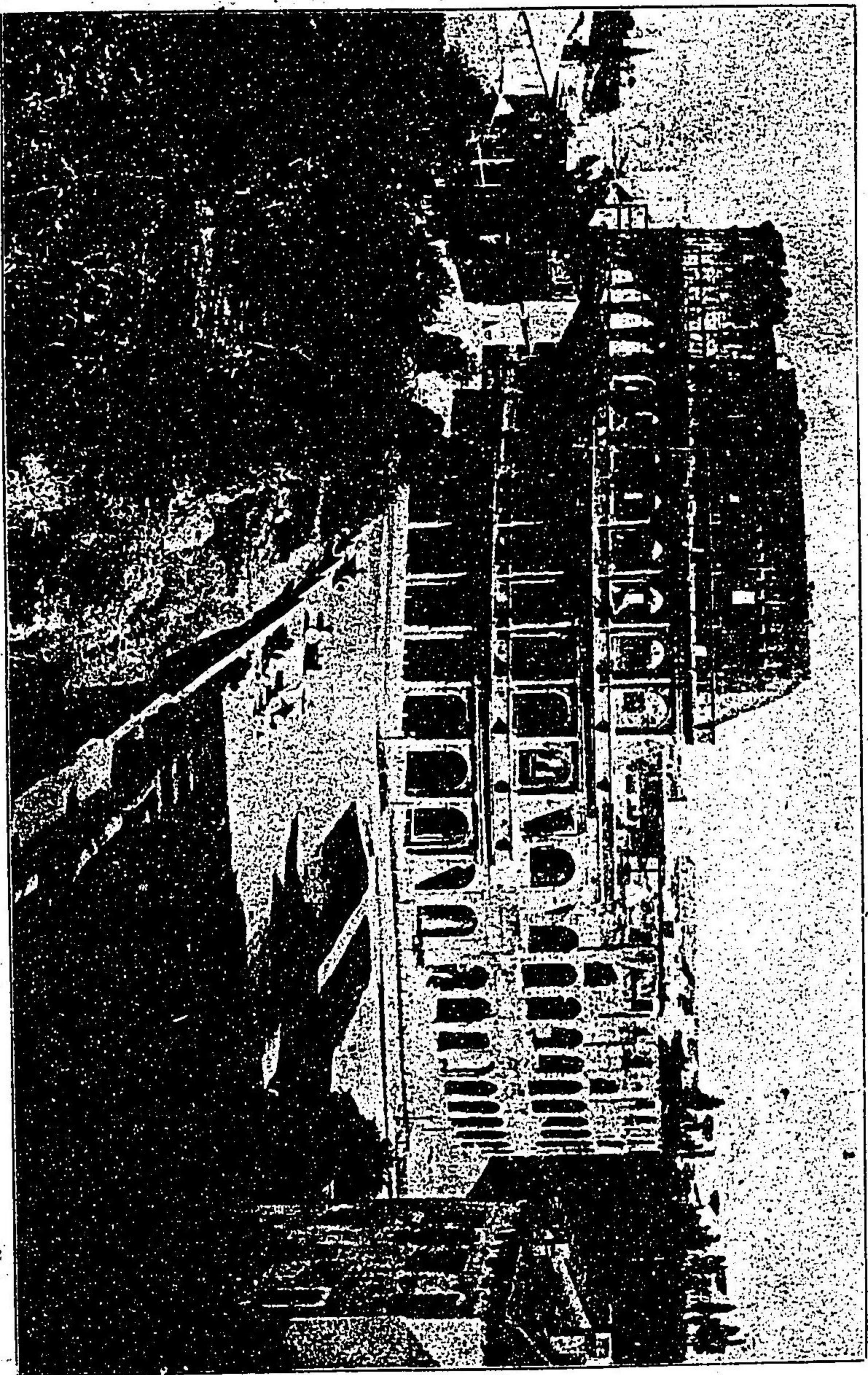
國祖ロミユラス、リーマスを狼の哺乳したりと誤り傳へられたる洞窟の邊より見初めて、オーガスタスが宮殿の跡、チペリアスが母リビアの家、カリギユラが弑殺を怖れて作れりと傳ふる間道、使徒ポロが死に就ける跡など、敗垣殘橋の間に或はモザイクの美しき細工を遺し、或は鍍畫の巧なるを存し、往事を回顧し來れば殆ど旅客をして低回去るに忍びざらしむるものあり。オーガスタスが宮殿に、謁見室政務處及四角形の庭園を隔て、食堂の三大室あり。食堂の傍に狹き細道ありて、此處をポームトリウムといふ。大宴會の折宴に陪したる者の滿腹酣醉したる時此處に來りて、其の飲食せるものを吐き出して再び食卓に着くの勇氣を養はしめし所なりきとぞ。羅馬の盛時に於ける饗宴の如何に山海の珍味に充ち、如何に之を食り啖へるかを知らしむるに足る。我等一行中の猩々連は日本にも斯る所のあらましかばなど言ひて打笑ひぬ。此處より眼下にフオーラムを見下し、フオーカス圓柱、十二神柱列セベラスの凱旋門シーザーの寺院などを觀、プルータスが演説したるは彼處、アントニオがシーザーの骸を示



セベラス帝の凱旋門

(二四八)  
し、は此處など、指し合ひたる後、帝政初年時代の四名君の一と稱せられしトラジャン帝の記念碑に至る。碑は高さ百尺の圓柱にして、周圍に帝の繪傳を刻し、頂上に帝の像を安せり。畫中の人物總數二千五百に及び、精巧を極めたり。此處より更に上りてカピトリン丘に出で博物館の邊を巡覽したる後、伊國の名士を葬れるパンテオン及ジェジュ寺院に詣して、晝前ホテルに歸れり。何處に至りても帝政初年の羅馬最盛時代の偉を存せざるはなし。感興頗る深きを覺ゆ。

△コロシム演武場



コロシム演武場の遺跡

日中は暑氣甚しき爲め午餐の後暫時はホテルを出でず。四時頃日影のやゝ傾くを待ちて、

又馬車に分乗して出でぬ。初に訪るは有名な

演武場コロシアムの敗墟なり。コロシアムは圓形の廣庭に、煉瓦造りの四層樓を環らして之を覽觀席とし、劔客罪囚野獸を其中に放て格闘せしめたる所。

紀元八十年チタス帝の時工事竣工してより、

此處に幾萬無辜の民が屠られけん、思ひ出るだに人をして悚然たらしむるものあり。周圍凡そ五丁、觀衆五萬を容るゝに足るといふ。此のコロシアムこそ是れ暴戾なるチロ、ドミシアン



— ザーシ、スアリユジ

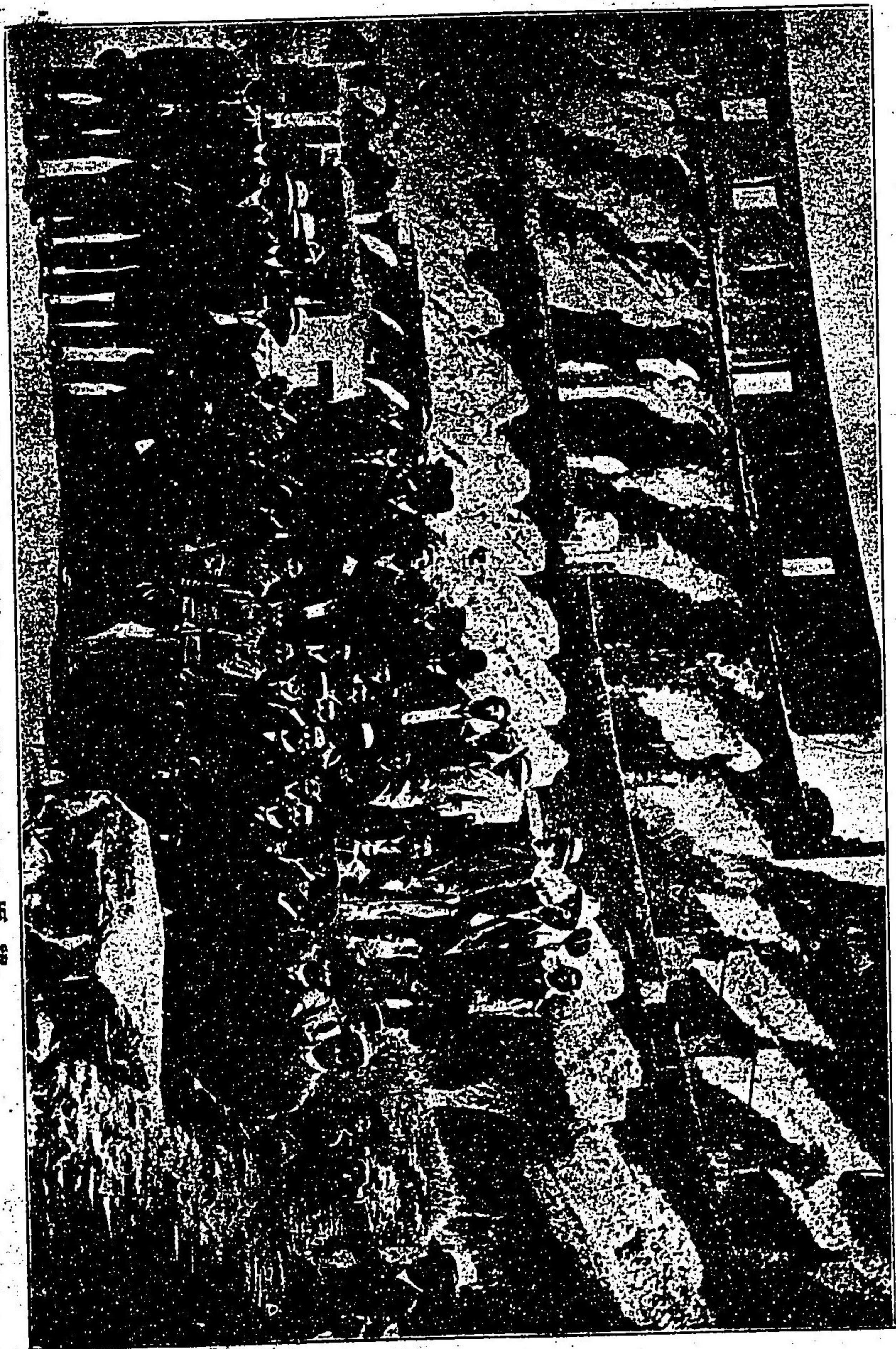
伊太利日記

(二四九)

諸帝が愚民の歡心を買はんが爲に幾多の人命を瓦礫の如く遇したる遺跡なれ。紀元八百年代には「コロシアムあらん限りは羅馬榮ゆべく、コロシアム倒れん時羅馬も亦倒れん」と歌はれしが、今や羅馬倒れて千四百年、コロシアム獨り千四百年の風露を凌ぎて立てるを見る。

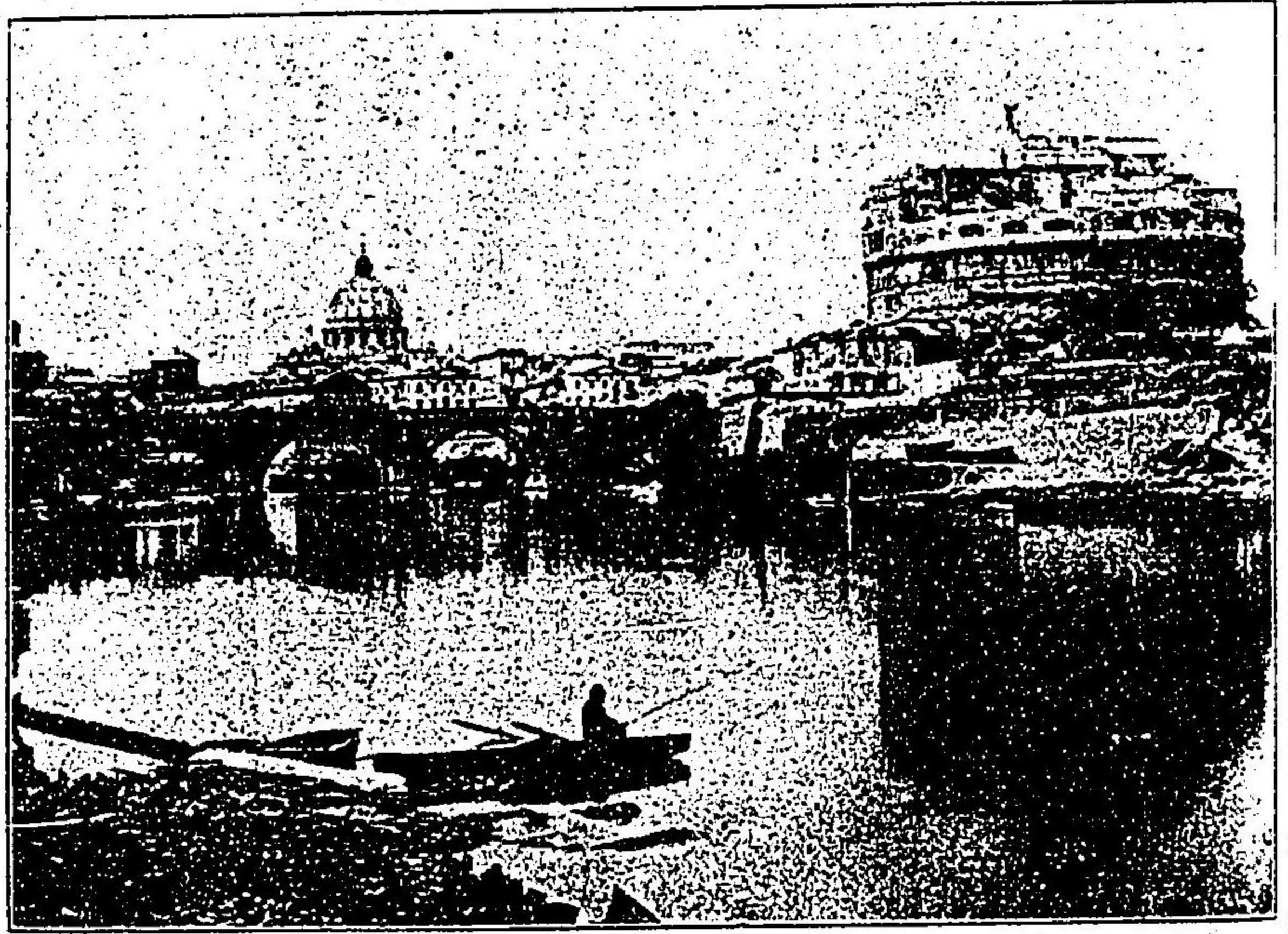
### △暴主の跡

此處を出で、ネロ帝の宮殿の跡といふを訪ふ。彼はオーガスタスのパラチン丘上の宮居を小さしとして、此處に宮城を造營したるなり。彼が火を羅馬の市中に放ちて之を焼き拂ひ、己は其の火焰の炎々と立ち騰るに興じて、ギターを取つて歌へりといふは即ち此處のことなるべし。轉じてカラカラの浴場といふに至る。之も亦彼が愚民を慰撫して其の地位を固うせんが爲に設けたるもの、今は壊敗して殆ど昔日の態を存せずと雖も、昔は數々の彫像モザイクを飾り、食堂あり、圖書室あり、庭園あり、談話室あり、休憩所ありて惰弱に身を持ち崩したる羅馬市民は此處に來りて先づ蒸風呂に入り、次で温浴を取り、更に冷水に浴し、最後にシャンプーを行ひ、浴了りて後のらりくらりと終日を此處に遊び暮らしたるなり。羅馬極盛の時代がや、傾き初めて、人皆豪奢を極めたる様目睹するが如し。



羅馬會場に於ける圓





ハドリアン皇帝の陵

此よりカルタゴを破りし共和時代の英雄シビオが墓を見、使徒ペテロが羅馬を逃れ出でんとして「何處に行くぞ」と問はれて立ち戻りしクラー、パチスの小寺及其の附近の死體埋葬所なるカタコムを見る。古羅馬の城壁を見巡りたる後、踵を旋らしてボルゲーゼ公園に上り、車中より羅馬全市を一目に眺めたる後、夕七時ホテルに歸りぬ。

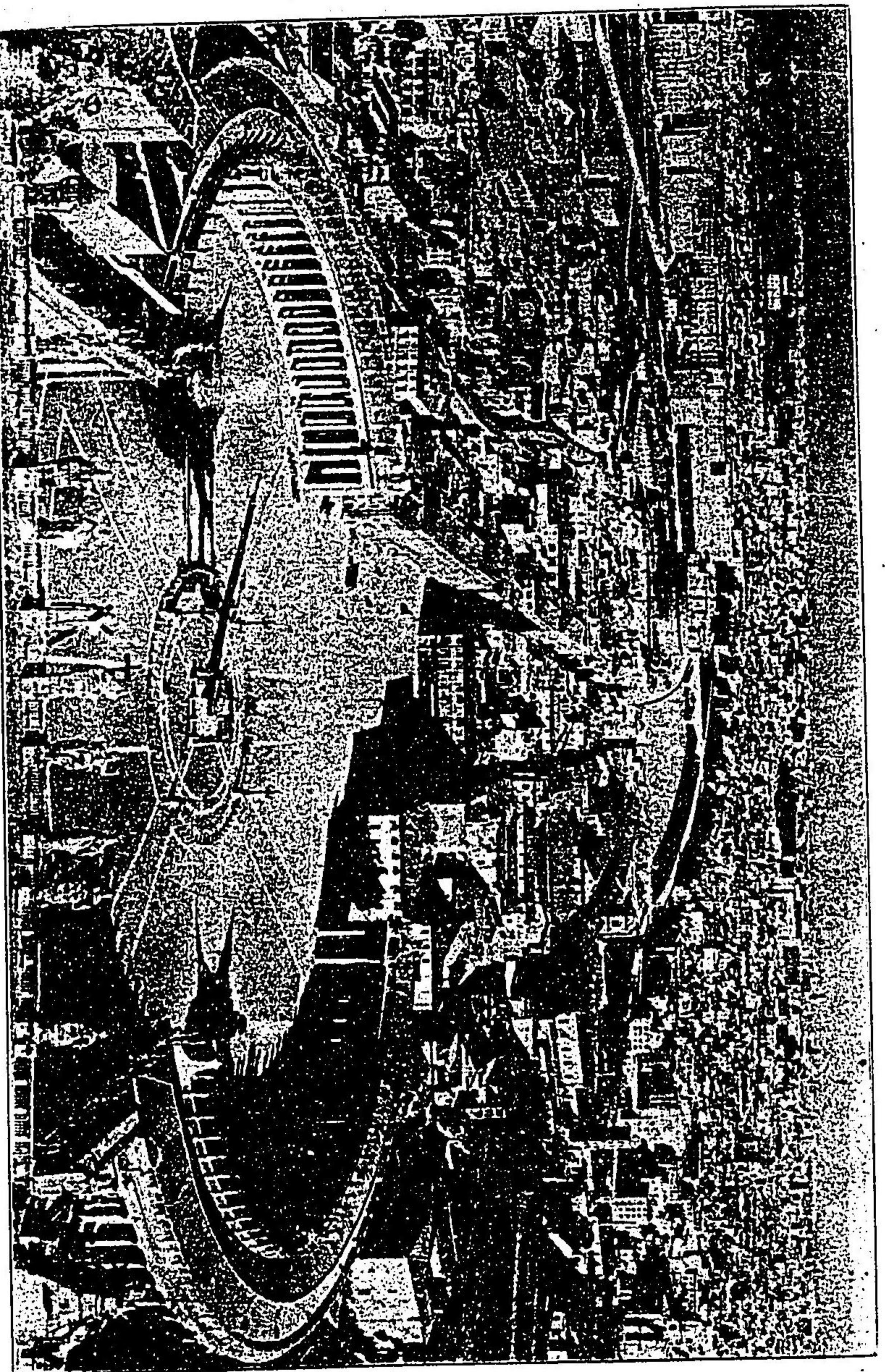
### ▲聖彼得寺院

○五月二十二日 午前九時半一同ホテルを發す。伊太利國會の議事堂前を通過してタイバー河を渉り、對岸なるハドリ

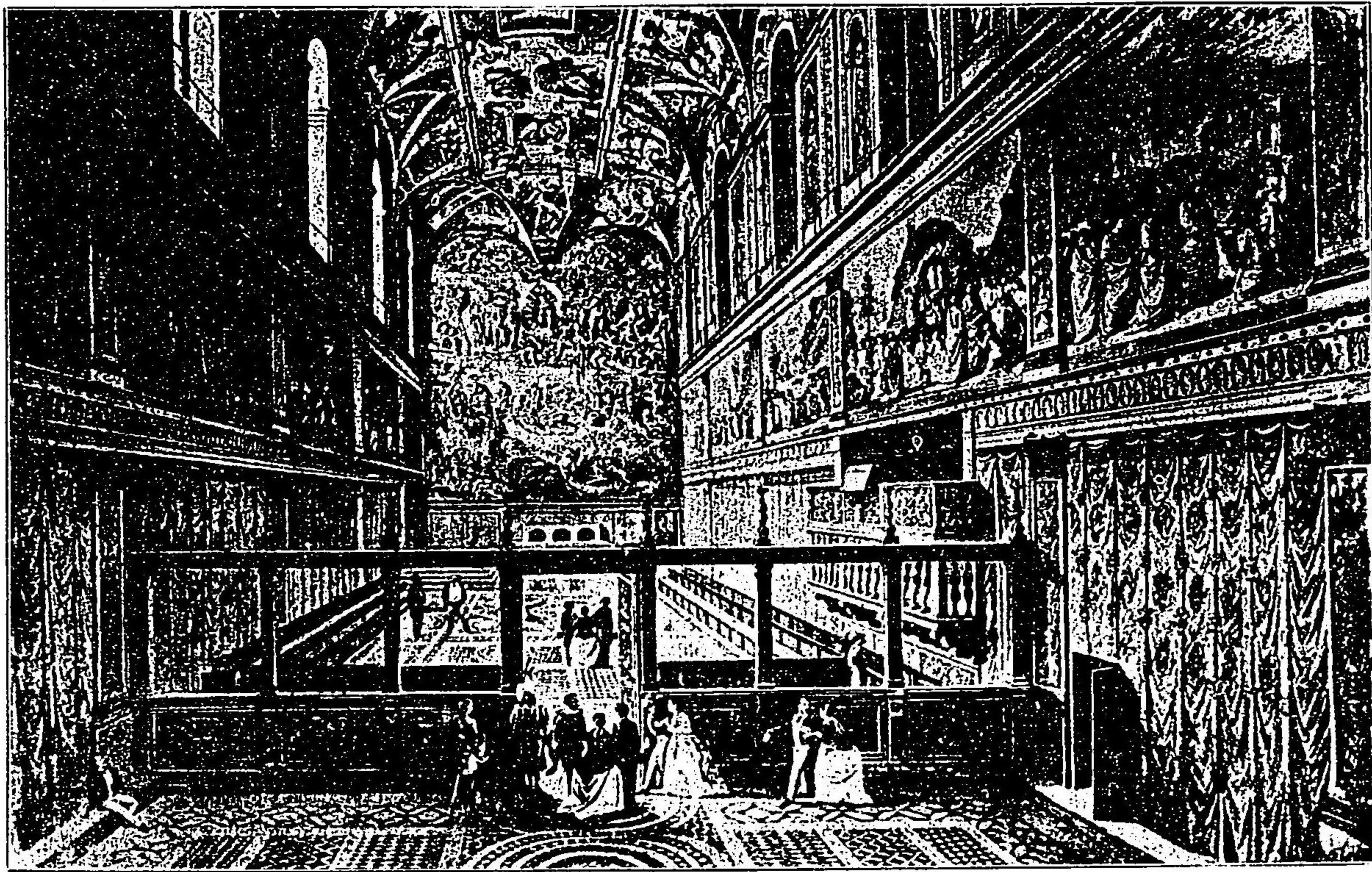
アン帝以降カラカラ迄の諸帝を埋めたるハドリアン陵の側を過ぎ、進んで世界第一の大と美とを以て聞えたるセント、ペートル寺院に参詣したり。同寺院はコンスタンチン大帝の時に創建せられたるものなるが、現在の建物は千五百六年に工を起し、千六百二十六年初めて献堂の式を挙げたるなり。建築工費は十七世紀の末年迄に約一億圓を投じ、今日の維持費のみにても年額七萬五千餘圓に上るといふ。堂の面積凡そ一萬八千方碼、之を倫敦のセントポール寺院が九千三方方碼なるに對すれば、殆ど其二倍に位すと見るを得べし。當寺院は常に廣さに於て天下に冠たるのみならず、金銀珠玉の類を盡して莊嚴の美を極めたるも、亦遠く自餘の寺院が及ばざる所なり。セント、ポールに一驚を喫したる我等も、流石に基督教の本場なりけりと感嘆斜ならず。

### ▲法王宮

セント、ペートル寺院に詣りて後、更に其の西隣なる羅馬法王が宮城ワチカンに至る。ミカエル、アンゼロが意匠に成れりといふ物々しき制服着けたる警固の兵宮城を護れり、いと仰々し。我等と同じく法王宮に詣りて、來り集れる各國舊教徒の巡禮甚多し。此等と共に宮



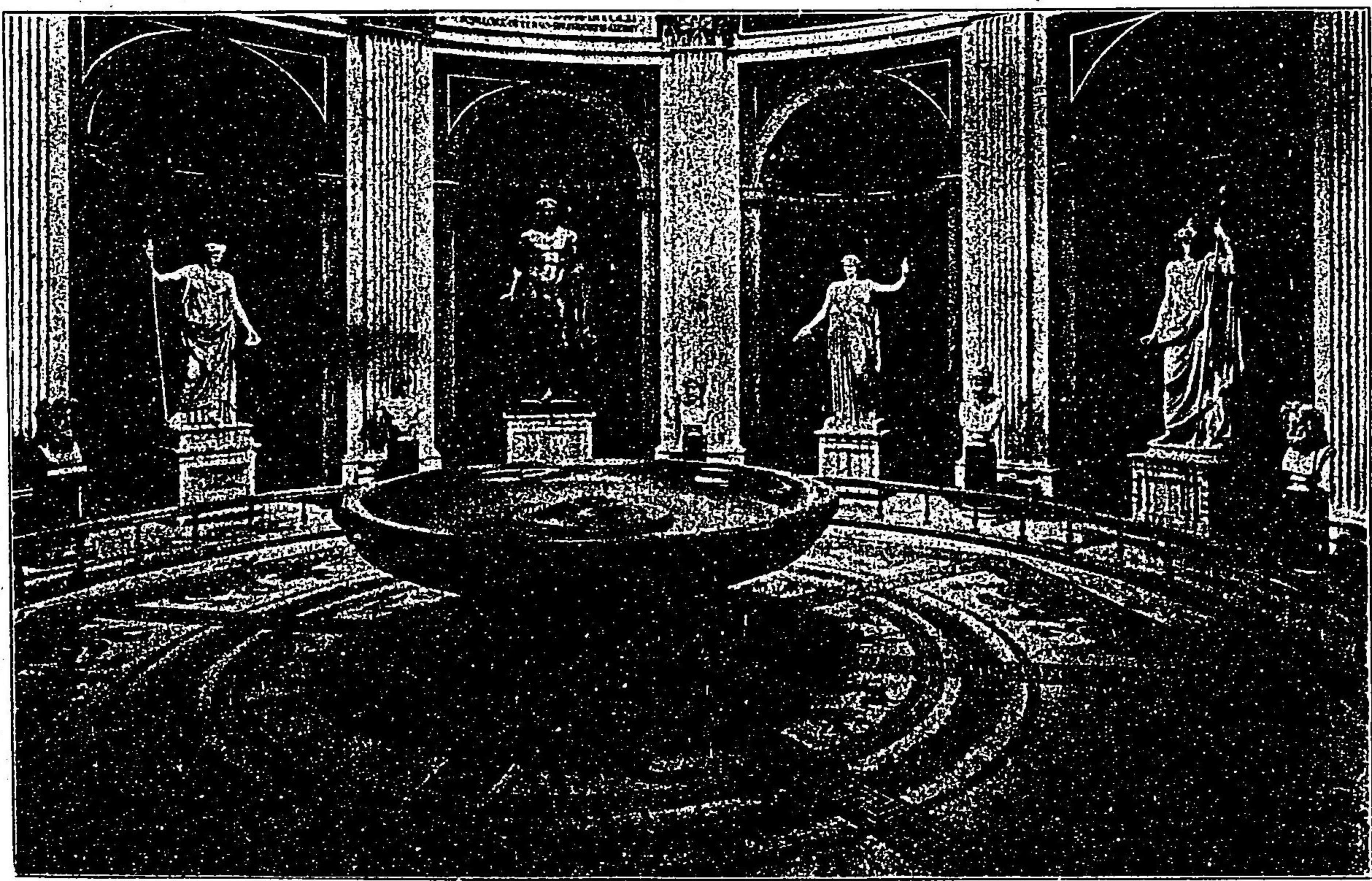
ワチカンの中を遊ぶ



室畫繪の宮ンカチワ



畫名のルエワフたるな宮ンカチゾ



館物博シカチワ

内に入り、先づモザイクの工場より見物し初めて、ラフエル其他の名工の手に成れる繪畫類等を巡覽し、法王殿の側を通過して此處を出でぬ。此處より歸途マルゲリタ公園に出で、伊國統一の祖ガリバルヂが碑を見て、十二時半ホテルに歸りぬ。  
之にて羅馬の見物は豫定の如く進行せるを以て、愈明日此處を出發することとなり、午後は一同出發用意の荷物整理に忙しかりき。

### ▲大使館の饗應

此の夕七時より龜山代理大使の案内にて、大使館にて一同に日本食の饗應あり。此處の大使館は某皇族の宮殿を借り用ひたるものとして、結構頗る壯麗なり。冷し索麵の御馳走など最も一同の氣に入りて、孰も大喜びなりき。代理大使の挨拶土屋の答辭あり、日暮れんとする頃辭して歸る。

### ▲子ープルスに向ふ

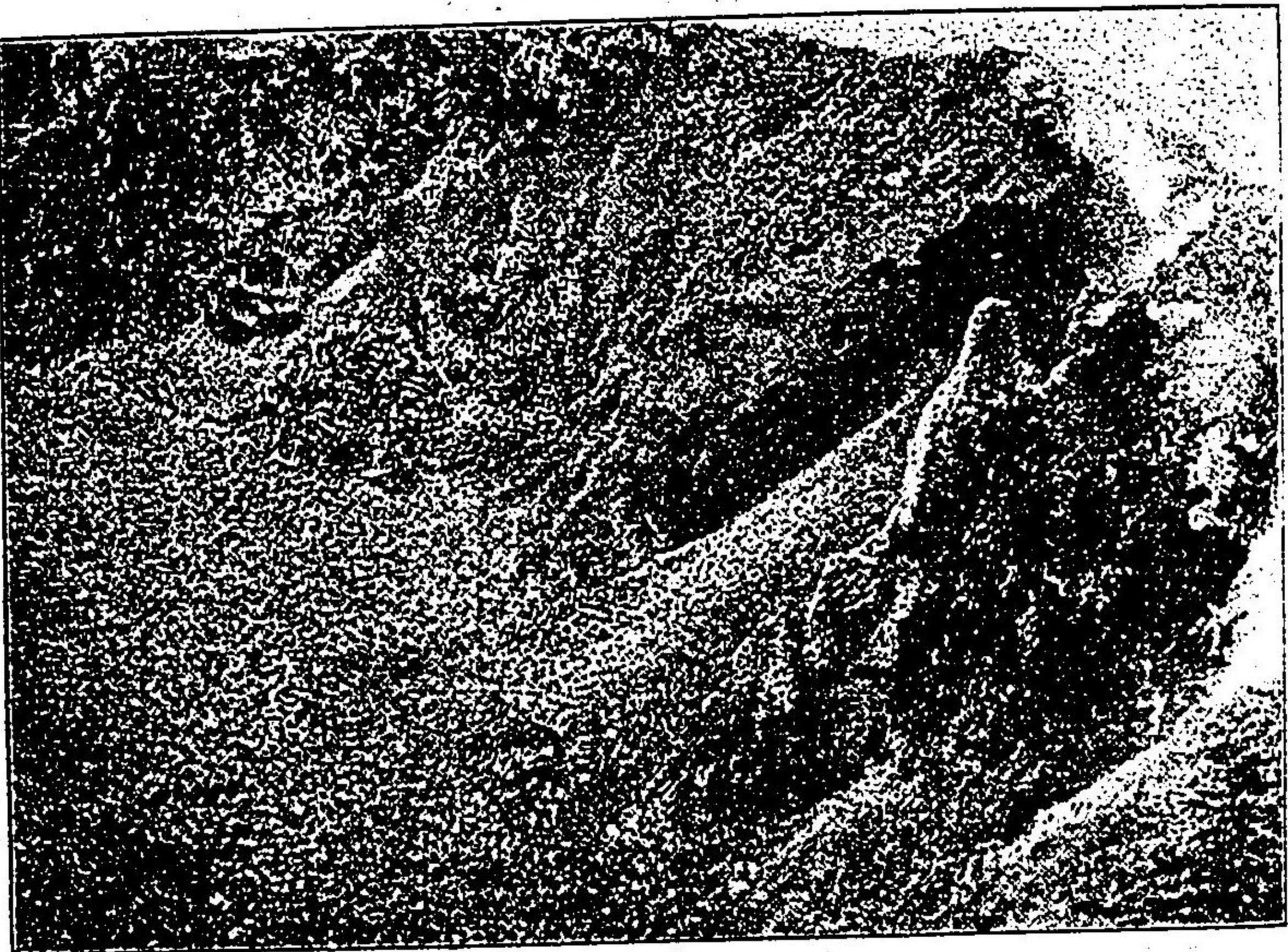
○五月二十三日 朝の内に萬づ出發の用意を整へ、午後一時半羅馬を發す。暑さと塵と例の

如く甚しく、一同大に閉口す。六時三十分チープルスに着し、直に市中を横きりて、チープルス灣沿岸のベズブ、ホテルといふに入る。チープルスは人氣の悪き所なれば、夜中は漫りに外出すべからずとのことに、疲れ居たる折のにもあり、此夜は一同早くより臥床に入りぬ。當ホテルは海岸に面し、前にスワビア王フレデリック二世が建てたる一古城の海に突き出でたるを見る。風をよくと吹き入りて、遙に羅馬よりも涼し。

▲ベスピアス火山

○五月二十四日 今日一日の中にベスピアス火山に上り、更に下りてボムベイの遺跡を訪ふべき豫定なりければ、時後れては詮なかるべしとして、午前五時頭より起き出で、六時といふに早くも一同朝食をしたためりぬ。是れ今日迄になき所なり。七時出發電車にてベスピアス火山の麓に到り、停車場より灰の如き塵を浴びて登山鐵道に到る。元來ベスピアス火山は全山クック社の借地區域にして、此の登山鐵道も亦同社の經營にかゝる。此處にてや、暫く待ち合せたる後、車輛不足の爲一行を二組に分ちて、順々に山に上り行きぬ。八合目位の處に至るに熔岩磊々として小砂利の礫に異ならず。之より上は一昨年の噴火に埋没して鐵道全く絶えられた

ベスピアス火山の口



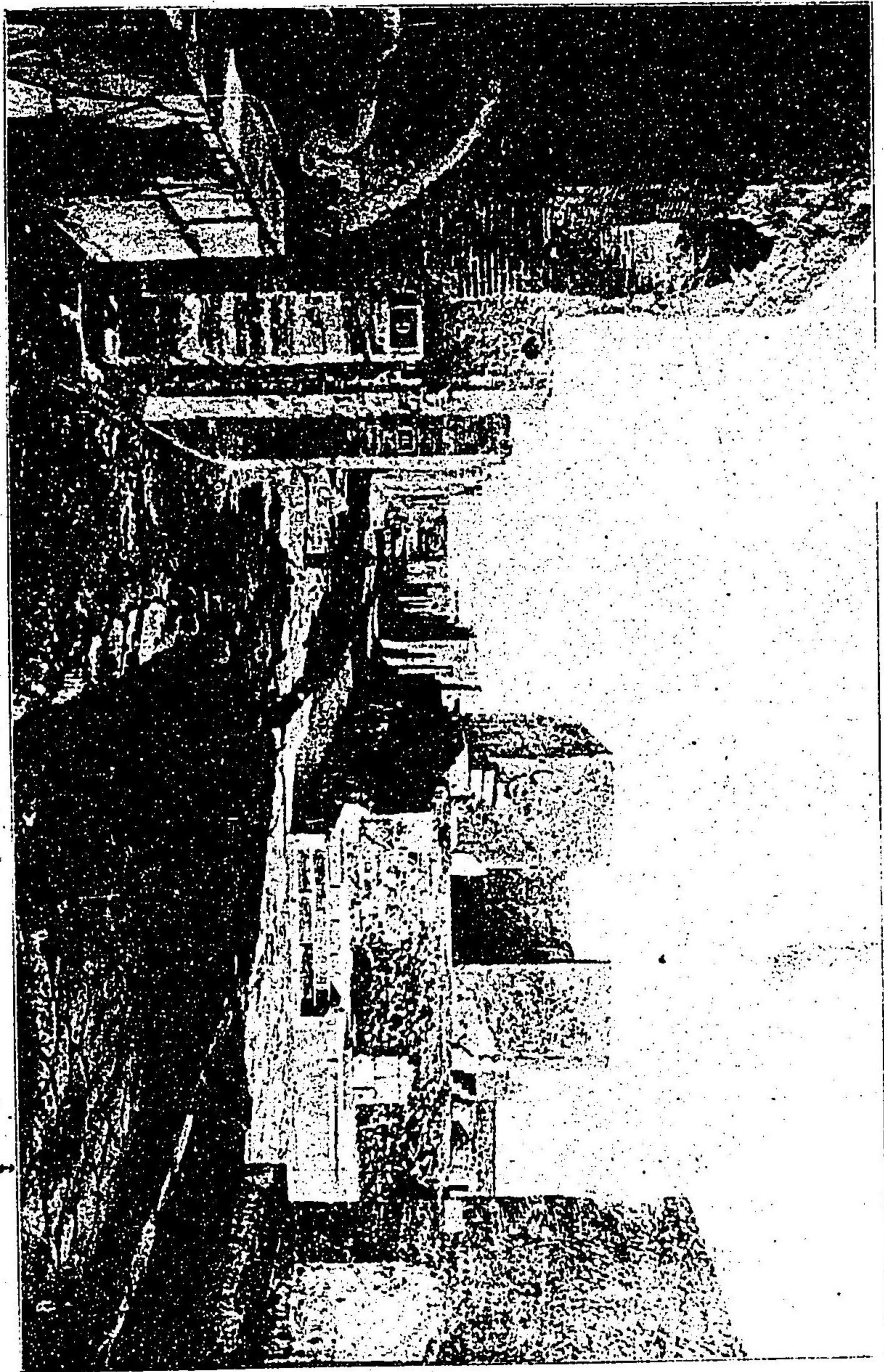
ば、噴火口間近迄乗り續くことを得ず、已むなく此處に下車して、遙かにチープルス灣の絶景を見下し、此の罪もなげなる山の頂よりボムベイを亡し、エルクラユニアムを埋めたる毒々しき火焰を噴き出しつるぞなど打語らひつゝ、山を下りぬ。山の半腹にエルモ・ホテルとて瀟洒なるホテルあり。風景極めてよし。此處にて一同中食を喫し、風涼しき食堂に山海の景色を眺めやりて、や、暫し休憩したる後十一時又山を下りぬ。

▲ボムベイの遺跡

山を下りて後更に電車を乗り代へて、

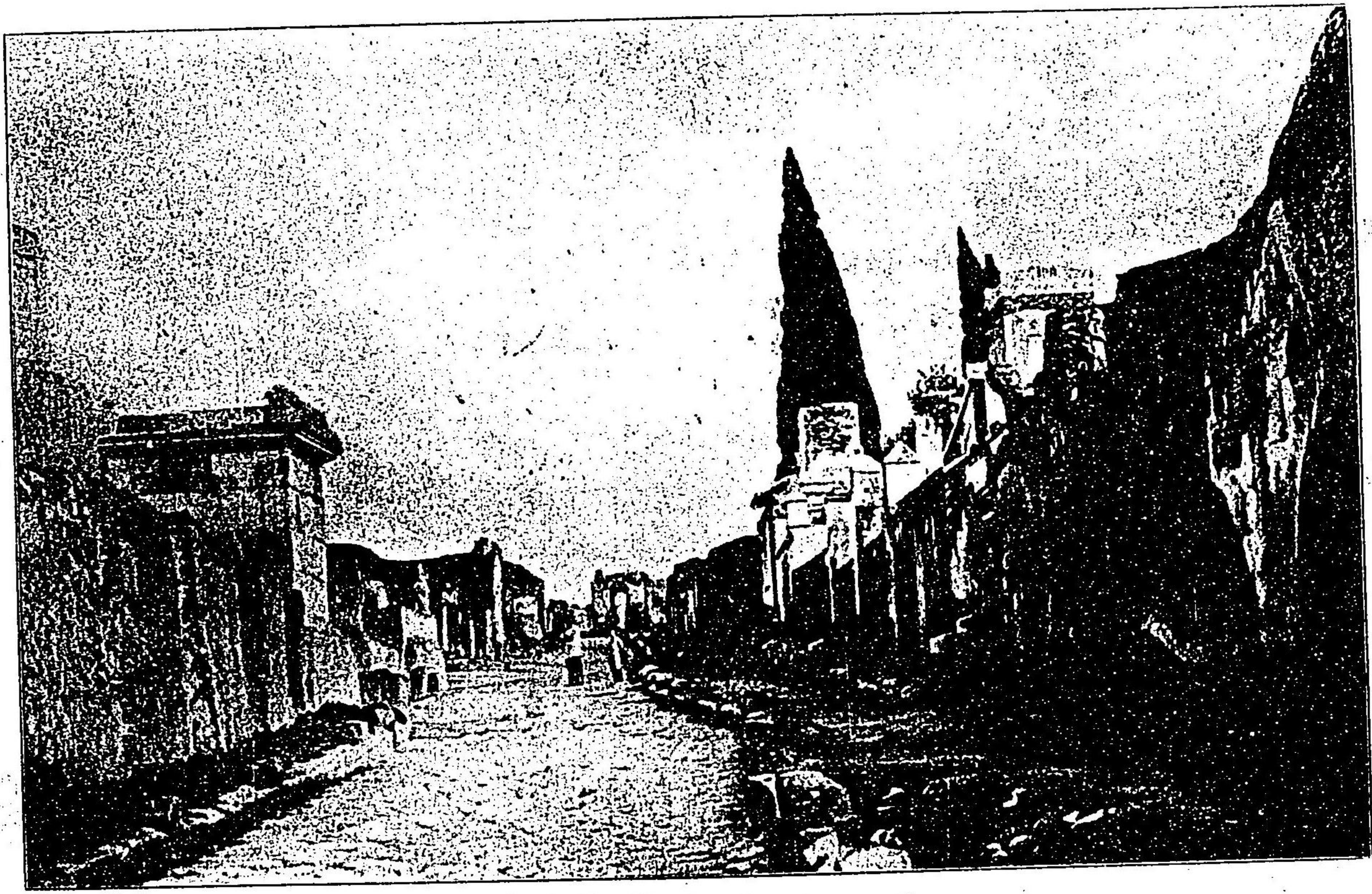
さしも世に開えたるボムベイに向ふ。ボムベイは、ペスピアス山の東麓に位し、羅馬の盛時は保  
 發地として貴紳富豪の邸宅を列ねたる繁盛の地なりしが、紀元六十二年一たび大震災に罹り  
 て全市殆ど倒壊し、其の創痕や、癒えんとせる紀元七十九年の夏ペスピアスの大噴火に會して  
 其の熱灰の中に埋没し去りたるなり。其後ボムベイの名は久しく聞え居たるも、久しく地中に  
 埋まりて誰しも其の所在を知る者なかりしが、前世紀に至りて初めて之を發見し、爾來熱心銳  
 意之が發掘に従うて、遂に今日の如く全市の約三分の二を掘り出すに至れり。

道ボスコトリカセの全村が一昨年の噴火に埋没したる跡を見る、全村熔岩の下に埋まりたる  
 中に、僅に處々白堊の存するあり。惨いふべからず。聞く所によれば噴火の當時死者二百餘名  
 に及びるといふ。ボムベイに着して後二千年前の噴火に埋没し、近年漸く掘出したる市街を殘  
 りなく巡覽す。道路家屋の整然たる、水道浴場の行き届きたる、法廷の跡、劇場の跡其のまゝ、  
 に残りて、人をしてボムベイ全盛の昔に立ち歸りたる心地せしむ。兩側唯家のみ立ち列びて行  
 人全く絶えたるボムベイの町を、五十の日本人がぞろ／＼と歩き行く様、丸でアラビアン、ナ  
 イト中の光景なり。紀元七十九年八月二十四日に埋まりし風流華奢のボムベイ市民が跡を、紀  
 元千九百八年五月二十四日の午後四十七名の武骨なる日本人が踏み歩くといふは嗚呼是れ何等



(一) 埋没のイペソ





(二) 墟敗のイペムボ

の奇縁ぞや。斯くて其處等限なく見終りて後、夕チーブルスに歸りぬ。

### ▲チーブルス出發

○五月二十五日 朝の内は、チーブルス博物館にて、ボムベイ市より掘り出したる彫刻繪畫の類を見る。此處に秘密室といふがありて、男子のみ入場を許さる。我等は十人宛入れ代りて此の中に入り、數々不思議の物を見せられたれども憚る所ありて今は言はず。之はわが一周會に加はりたる者のみが享受し得べき一種特別の權利(?)として、永く胸の中に珍藏すべし。午後チーブルス出發、列に依て例の如き暑さと塵とを凌ぎて、夜の九時半又もや羅馬に立ち歸る。

### ▲ベニス到着

○五月二十六日 午前九時羅馬を發し、アペニン山脈を横斷して、午後十時ベニスに着す。ベニスは水上に浮べる珍無類の町にて、街路の往來は船を以てすること人の知る所の如し。停車場より小蒸氣にて大運河を通りてホテルに至る。我等が搭じたるグニエリ、ホテルは、八百餘

年前に建てたる王宮なりとて、結構莊嚴真に宮殿に入れる心地せり。  
 我等が船より上りてホテルに入らんとせる時、恰も運河とホテルの間なる電燈眩ゆき大通りに二十餘人より成れる一隊の樂手盛に樂を奏し居たり。唳院の聲水を涉りて快いふべからず。之を取り圍みて、或は椅子に凭り、或は河岸に立ちて聴き居る男女其數幾百といふを知らず。ふり願りて我等が今しも通り來しホテル前の大運河を見れば、梭の如く往き交ふゴンドラの中に、マンドリンに合せて若き女の聲高らかに伊太利の國振を歌へるが聞ゆ。龍宮城の歌舞の様も斯くやとばかり樂しげなり。

▲ベニス見物

○五月二十七日 朝より十餘艘のゴンドラ船を仕立て、市中を巡覽す。ベニスの市街は本州と一大鐵道橋を以て連絡したるのみにて、遠く海上二哩の地に離れて存したり。市内の運河百五十、橋梁三百七十八、運河に取り圍まれたる「島の内」百十七個ありといふ。市の中央をS字形に貫きたる大運河あり、停車場附近より初まりて舊王宮の側に出づ。是れベニスの大通なり。其外小路と見るべき小運河は網の目の如く市中縦横に通じたり。普通の街路は多く細く



運大のベニス



PONTE DEI SOSPIRI.

路小のスニベ



員會るけ於に河運大のスニベ

狭ければ車を通せず、市中の交通は一にゴンドラ船に依れり。我等はホテルの下より船に乗り、西の方王宮の下を過ぎて、大運河をリアルト橋の下迄漕ぎ上る。此邊兩岸の家々は流石に古色を帯びたる伊太利式の建築として、趣なきに非ず。リアルト橋の邊は市中の最も繁盛なる地區にて、沙翁が「ベニスの商人」中に見ゆるは此處なり。橋を過ぎて後右に小運河に入り、くると市内を一巡りして後、又ホテルに歸り來りぬ。伊太利に入りてより暑さと塵とに苦められたる揚句、今日しも潮風快き川水に船を浮べて遊び歩きたるとなれば、孰もベニスは宜き所と呼ばざるはなし。

之よりベニス名物の硝子細工製造場を見、午後は市中を歩いて買物をととのへたる上、午後四時ベニスを發したり。會員中にはベニスの美に浮かれて、寧ろミランの一日を引上げて、ベニスに今日留まりたしと求むる者多かりしが、今更豫定の變更し難きものありて、此説は打消となりぬ。

▲ミラン

ベニスを發したる汽車は、相變らず暑さと塵と甚しく、七時半ペロナを過ぎ、十一時に至

りてミランに到着したり。直にグラント、ホテルに投ず。總じて伊太利の市街は羅馬キープル  
ス等孰も塵まみれの所多かりしが、ミランは街衢清淨にして、如何にも大都會の面目を存した  
るを見る。

◎五月二十八日 朝一同してゴシック大寺院に詣つ。此邊の人々日本人珍らしとして、大勢ど  
やくと随ひ來り、甚しきは寺の中迄押し寄せ來りぬ。當寺院は基督教の寺院としては世界の  
第二位に位し、セント、ペートル寺院に次げる羅馬の大堂宇にして、大さ四萬人を容るゝに足  
るといふ。堂内を見たる後は銘々に市中を散歩し、十一時ホテルに歸れり。當地は汽車時間の  
都合にて一泊することとなりたる迄にて、初めより見物に重きを置かず、ゴシック寺院參詣の外  
は、全く人々銘々の勝手に任せたり。

午後十二時半愈ミランを發して、獨逸に向ふ。(五月三十一日伯林發、後大増補を加ふ)



景風の畔湖西瑞

りてミランに到着したり。直にグラランド、ホテルに投ず。總じて伊太利の市街は羅馬チーブルス等班も塵まみれの所多かりしが、ミランは街衢清浄にして、如何にも大都會の面目を存したるを見る。

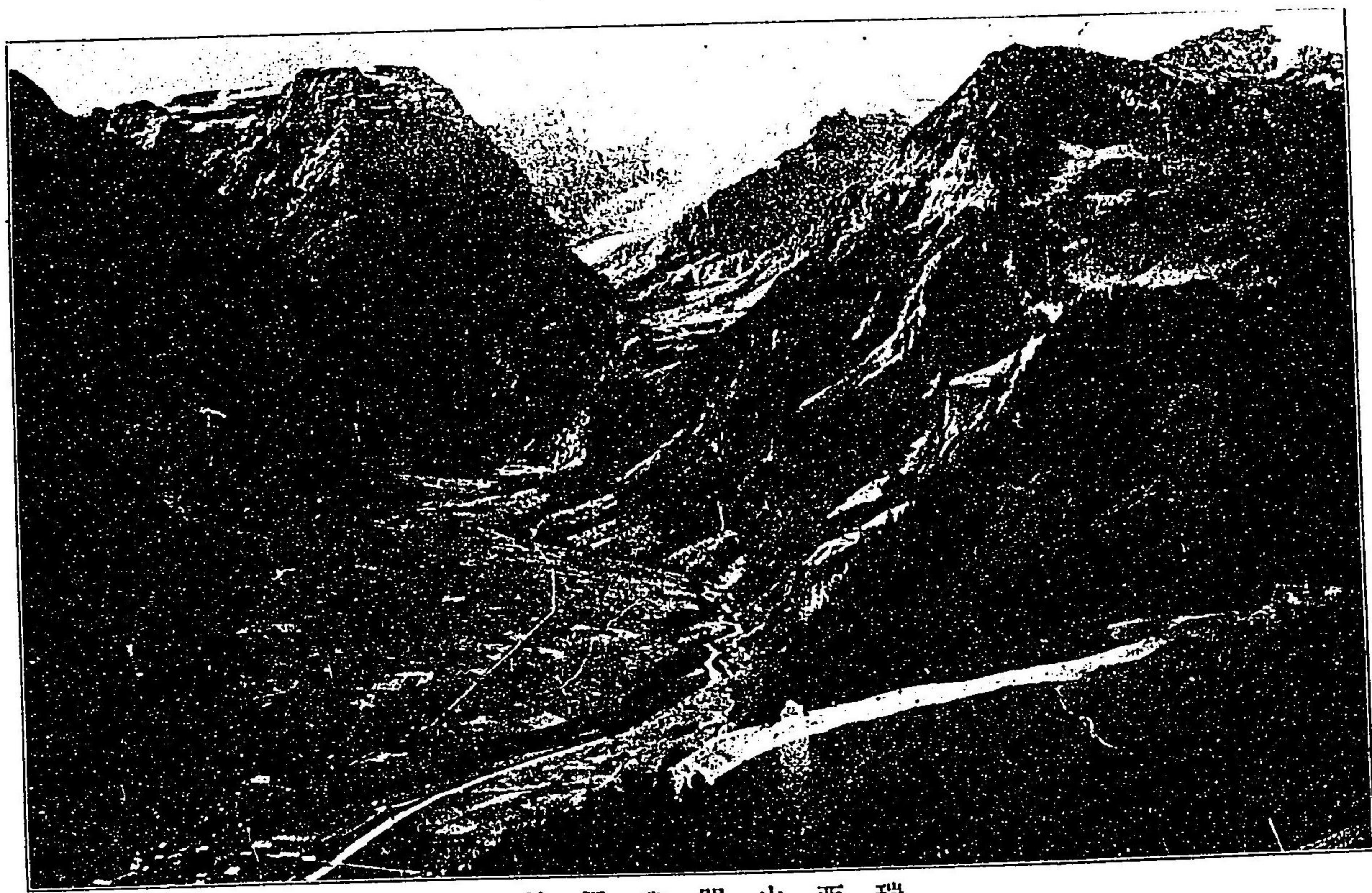
◎五月二十八日 朝一同してゴシック大寺院に詣つ。此邊の人々日本人珍らしとて、大勢どやくと随ひ來り、甚しきは寺の中迄押し寄せ來りぬ。當寺院は基督教の寺院としもは世界の第二位に位し、セント、ペートル寺院に次げる羅馬の大堂宇にして、大さ四萬人を容るゝに足るといふ。堂内を見たる後は銘々に市中を散歩し、十一時ホテルに歸れり。當地は汽車時間の都合にて一泊するとなりたる迄にて、初めより見物に重きを置かず、ゴシック寺院參詣の外は、全く人々銘々の勝手に任せたり。

午後十二時半愈ミランを發して、獨逸に向ふ。(五月三十一日伯林發、後大増補を加ふ)



湖風の時湖風景





景風の間山西瑞

## ●瑞西日記

### ▲セント・ゴタード鐵道通過

○五月二十八日(續) ミランより獨逸に出るの途、先づ瑞西に入り、其南端より全國を縦斷するととなる。斯くして半日の間に瑞西の明媚なる風光に接せしめんとを欲したるなり。

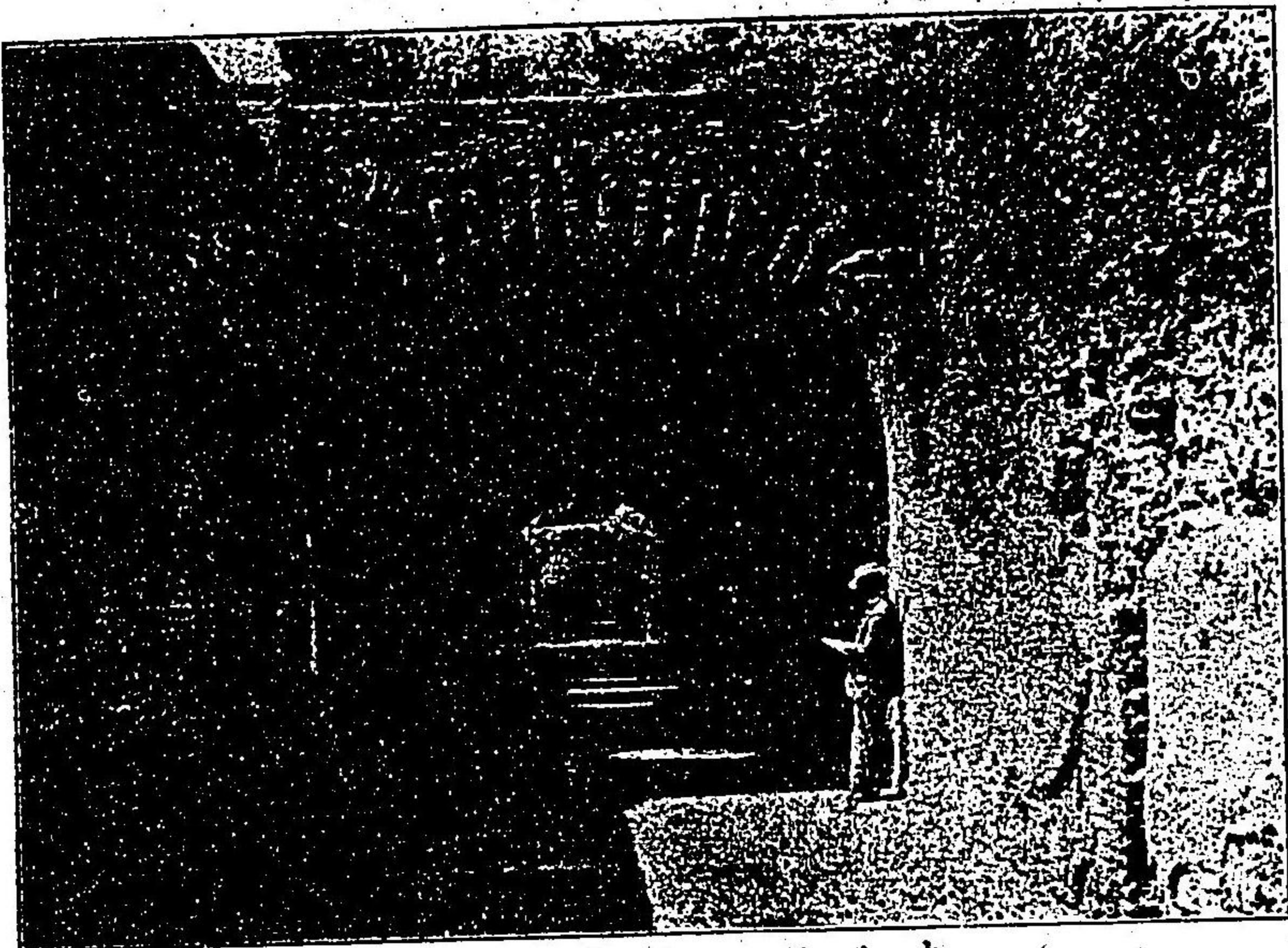
午後十二時三十五分ミラン停車場を發す。モンザ、セレンの諸驛を過ぎ、一時二十六分コモ驛に着す。右の方コモの湖遙に北に續くを見る。地山に入りてより、氣候漸く爽涼を加へ、風光亦や、山國の趣を傳へ來る。一時三十一分コモを發し、走ること十分にしてキヤツン驛に着す。是れ瑞西に入りて第一の停車場なり。此處に税關の設あり。荷物の検査行はるべき筈なりしが、我等は例に依りて全く其事なくして通過するを得たり。

二時二十六分ルガノ驛に着す。ルガノ湖に濱し、湖光頗る爽涼なり。ルガノを發して、三時十三分ペリンヅナ驛着。是れチシノ河のマジョーレ湖に注ぐ所なり。ペリンヅナよりルセルンに至る百餘哩の間は、有名なるセント・ゴタード鐵道とて、列車溪谷の間を通過し、山水の美

殆ど應接しに遑あらずらしむるものあり。巉峨たる萬仞の絶壁車窓を壓し、皚々たる白雪其高峰を覆ひ、糸の如き千條の飛瀑遙に絶頂より落下し來る。列車溪を潜る時は藪林車を埋め、一たび山背に出づれば、眼界頓に開けて、里や川や林や皆脚下に在り。屢雪の降るを見る、微雪の紛々として見上ぐる懸崖を吹き下る様凄まじ。時に鐵橋の雲際に架れるを渡る、眼下の奔湍激流泡沫飛散して花の如く雪に似たり。衆皆な手を拍つて歡呼の聲を擧げざるはなし。思へば一昨日ベニスの夏に、海上の樂園を觀たる我等は、今日しも瑞西の冬に、山間の天國に接したる思すなり。

途中屢ループ隧道と稱するものを過ぐ。峻峻なる山道を眞直に通過すること難ければ、線路は山の腹に螺旋を畫きて、ぐる／＼と隧道の中を舞ひ歩くなり。初め隧道に入る時は谷間深き山の麓より入りしに、出づる時はいつしか隧道の暗中に舞ひ上りしとて、車は既に遙けき高處を走り行くなり。窓より頭をつき出して、今通りしは彼なりしよなど眞下に見ゆる線路を指して、笑ひ興すると一再に止らす。

送り去り迎へ來る幾山河、倏忽の間に且つ現し且つ消ゆる山水の趣を賞しつゝ、我等の列車は午後七時畫の如きルセルン湖の畔を過ぎ、九時といふに瑞獨の界なるパーゼル驛に着した



(原註(七四二) 道間の帝ラユギリカ)

り。此處にて前日巴里に分れたる莊保、河瀬、小西の三君がアルサスより瑞西に行かんとするに會し、更に伯林に會せんことを約して分る。

一同パーゼルのオイレル、ホテルに入る。パーゼルは瑞西の南端なり。ラインの大河を隔て、近く獨逸と相對す。

(伯林にて認む、後大増補を加ふ)

# ● 獨逸日記

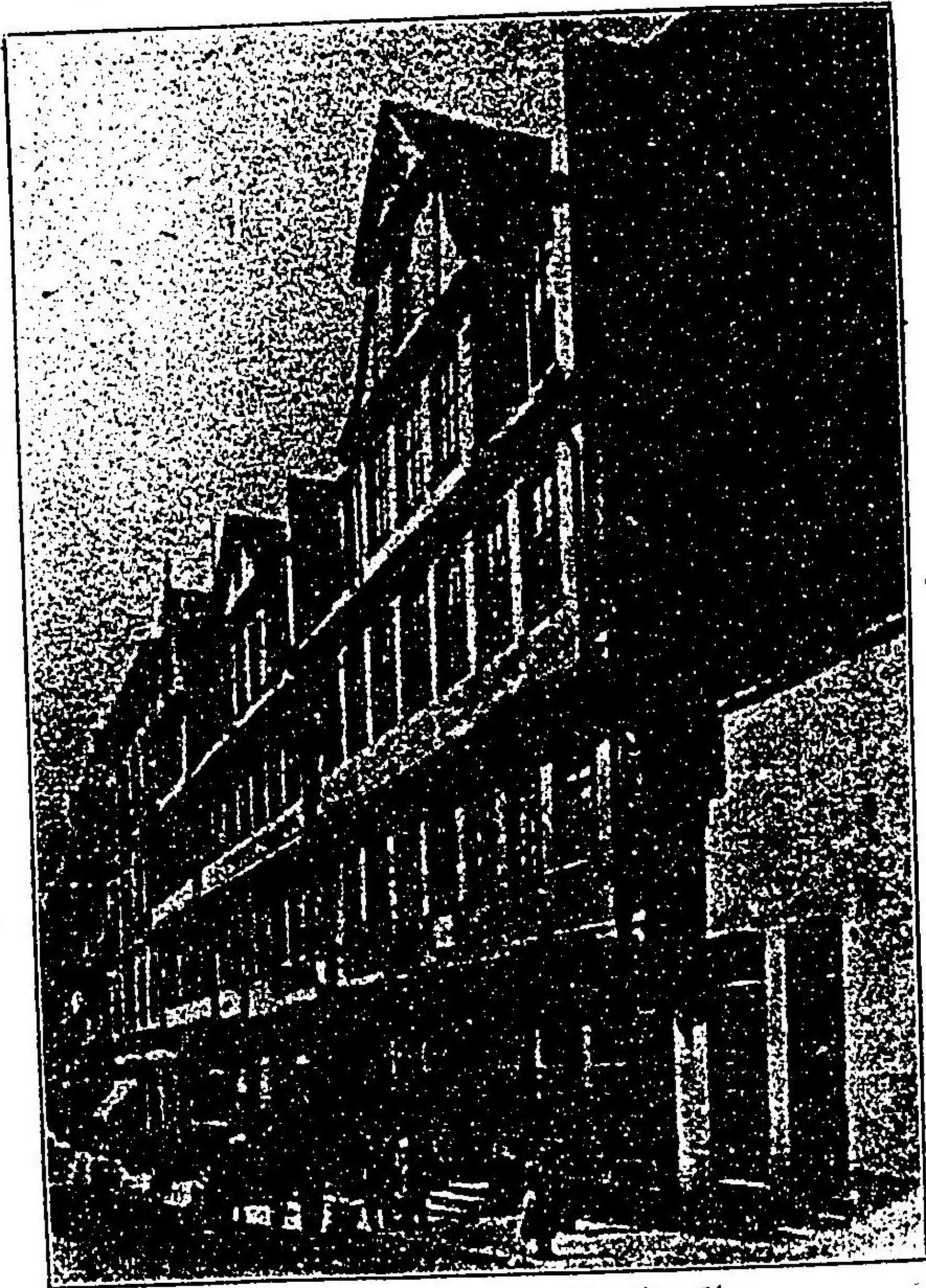
(二六四)

## ▲ バールゼル出發

○五月二十九日 昨夜來瑞西の國境バールセルに在り。朝早くよりホテルを出で、ライン河畔を散歩するもの多し。思へば二箇月前我等の桑港に着きし頃は、ホテルに着くと其のまゝ之に立て籠りて、一步を屋外に踏み出す者さへ稀なりしに、今日此の頃は流石に亞米利加歐羅巴を一跨ぎにして來た程あつて、不案内の土地に言語の通せぬをも構はず、ホテルに着くや否飛び出して、買物に行く、公園に出かける、氣早の人々は早くも電車などに飛び乗つて、市中を八方に駆け廻りなどすなり。旅行の人を大膽ならしむること之にても知らるべし。

午前九時三十分バールセルを發し、ライン河を越えて獨逸のバールセルに入る、此處にても國境の荷物検査は全く行はれず、之も亦東京駐劄獨逸大使とわが駐獨代理大使との盡力に依る。瑞西を出で、より、氣候再び暑く、午に近づくに及びて、車中左ながら蒸すが如し。午後三時フランクフルトに着す。

## ▲ フランクフルト



詩聖ゲテの生家

此處にて八時間休息すべき豫定なりければ、一先ホテル、オイレルといふに入りて足を休め、有志の面々は馬車を雇ひて詩聖ゲテの生家、マルチン、ルーテルが舊居、其の外市内の公園大通等乗り廻したり。此の地にては日本人の來ること稀

(二六五)

なる上に、斯ばかりの大勢を見たることも珍らしければにや、我等の行く先々へはぞろ／＼と

獨逸日記

従ひ来る者其の数を知らず、之も亦一興なり。

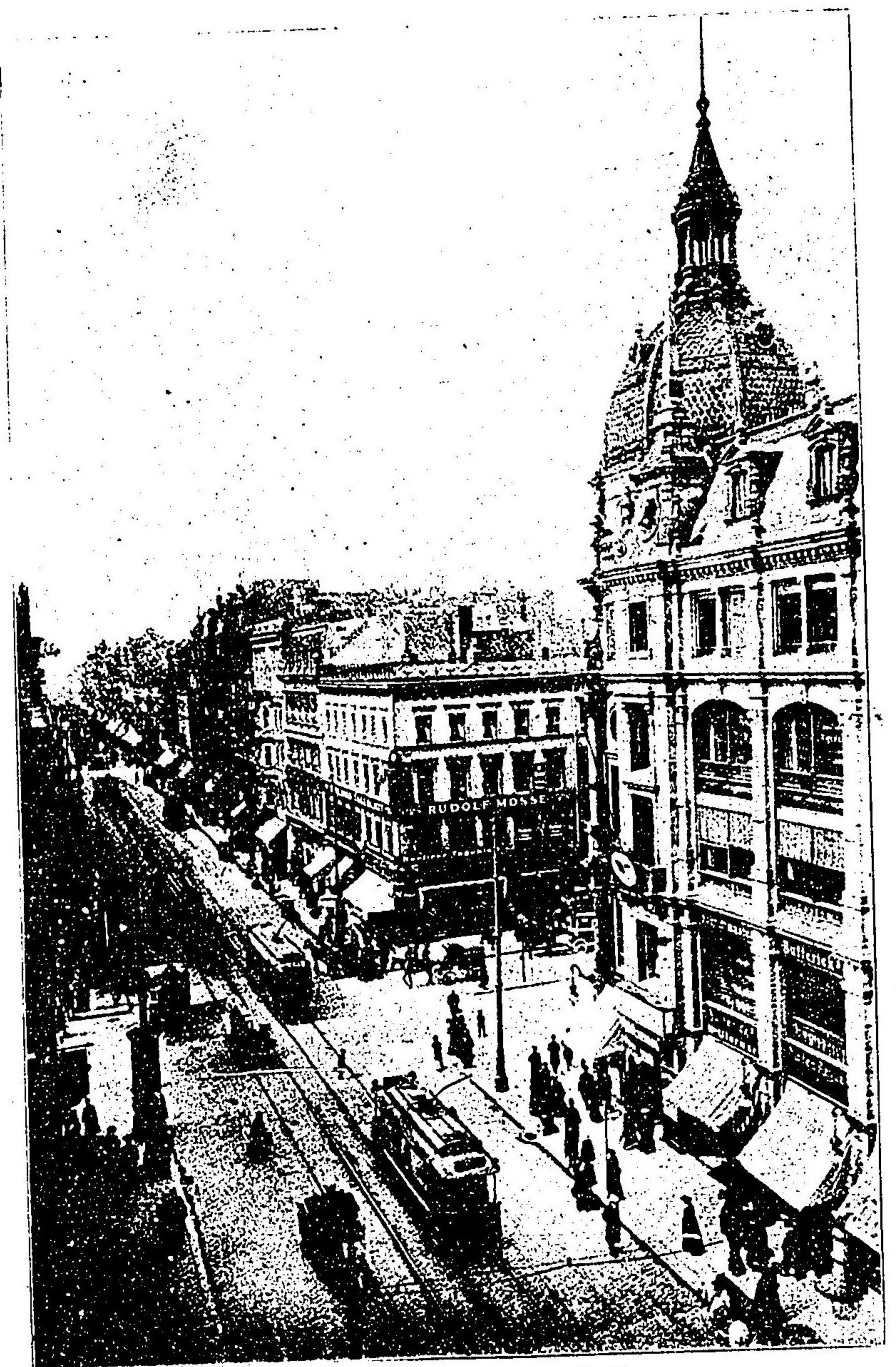
午後八時此處にて晚餐を喫し、十時二十三分發夜行列車にて伯林に向ふ。

### ▲伯林到着

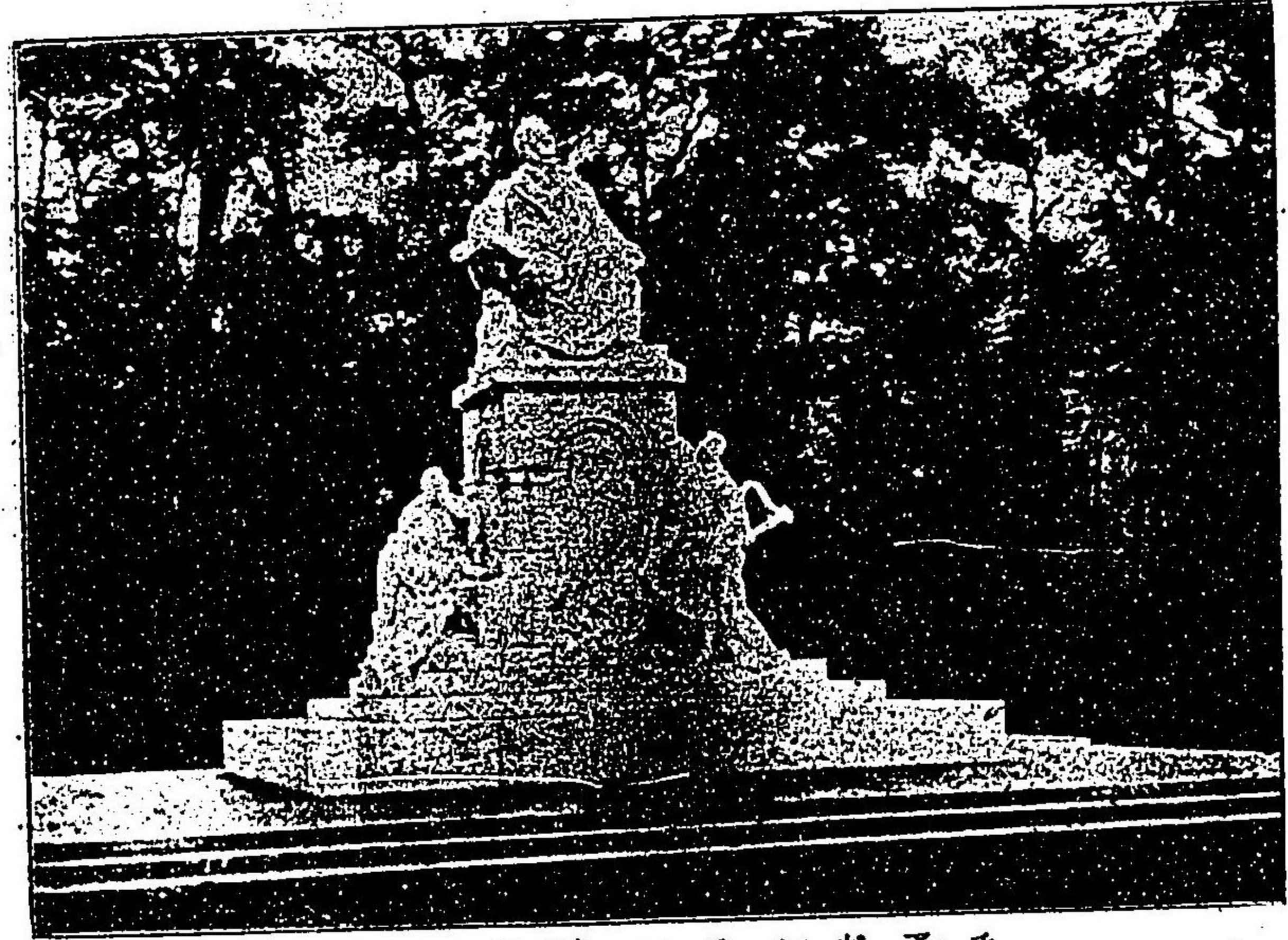
○五月三十日 昨夜フランクフルトを發したる我等の列車は今朝午前八時三十分伯林アンハルト停車場に着す。大使館の船越書記官上村書記生、日本俱樂部の東勝熊、小川郷太郎、「東亞」の老川茂信其他日本人十數氏停車場に出迎へらる。停車場前なるハーゾングルヒ、ホテルに搭じて朝發。

午前中は休息し、午後は市中見物に出かくべき筈なりしが、生憎大雷雨となりしかば、其まホテルに籠りて外出を見合せ。思へば柔港上陸以來天氣の都合極めて好く、未だ曾て一たびも雨雪の爲に見物を見合せたることなし。其の之あるは實に今日を以て初とす。以て我等の如何に好運なりしかを知るに足る。

### ▲日本俱樂部の饗宴

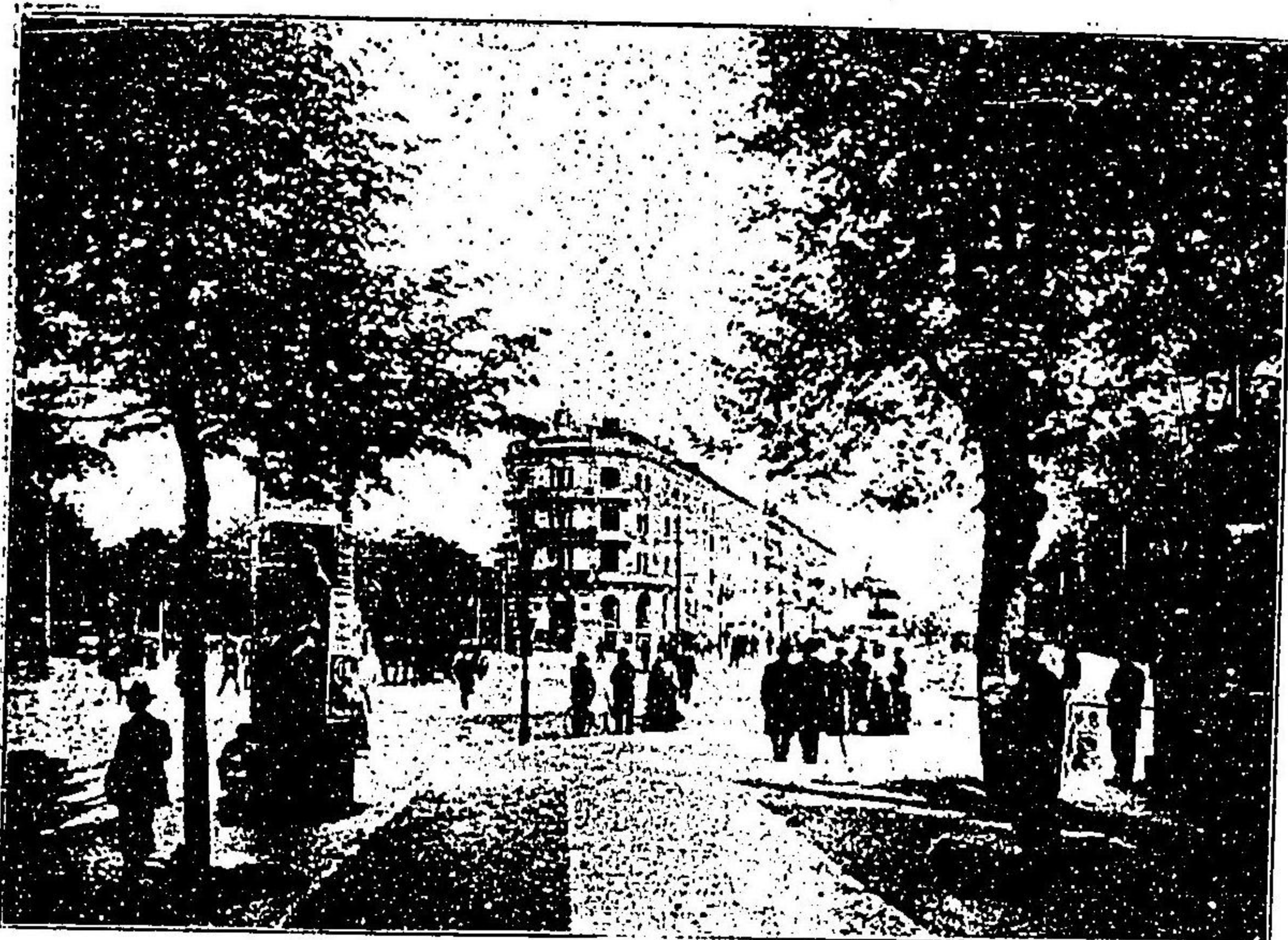


街ヒツチピラ林伯



(像のルチアラ) シテ ルガアチ

此日夕方よりシエーターベルヒ河岸なる日本俱樂部に招かれ、一同日本食の饗應を受く。久々に牛肉の焼焼などを饗せられたるは珍なるものなり。席上奈良陸軍中佐俱樂部を代表して歓迎の挨拶あり、土屋元作は我が社を、井手三郎君は會員を代表して謝辭を述べ。此の日主人側の出席者は伯林の留學生大使館員留學の武官等三十餘名、盛に麥酒を舉げて快談湧くが如し。宴果て、後ホテルに歸れるは午後九時を過ぎたる頃なり。但し午後九時頃にもまだ日は暮れずと察せらるべし。



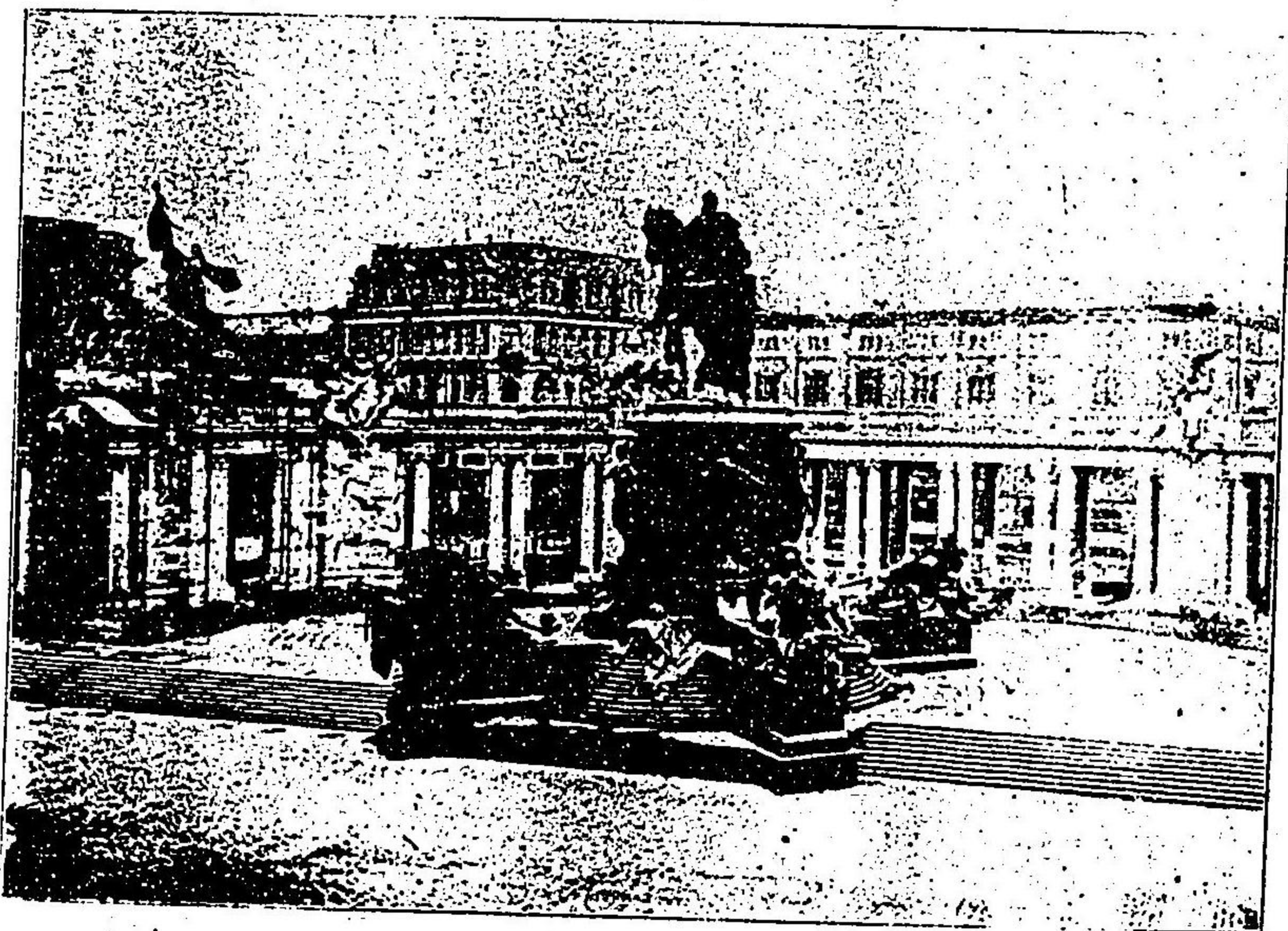
### ▲柏林市中見物

○五月三十一日 朝より二臺の自動車に分乗して、柏林の名ある町々を見廻る。チアガルテン(公園)の新緑満らんとするが如きを通りぬけて、戦勝記念碑皇城博物館の前を過ぎ、ウンテル、デン、リンデンの大道よりシャルロットンブルヒの皇陵に詣で、此處にウキルヘルム一世帝の墓を弔ひ十二時過ぎホテルに歸る。

### ▲久邇宮邸伺候

午後三時豫ての打合せに従ひ、一同し

て昨年来當地御留學中なる久邇宮殿下の御邸に伺候す。殿下は、快く一同を引見し給ひ、親しく會員一同に一々握手の禮を施されたる後、御自身一同を食堂に案内せられ、此處にて茶菓の饗を賜はれり。御附武官栗田陸軍歩兵大佐一同に殿下の思召を傳へ、朝日新聞社催しの世界一周會は豫てより新聞紙上にて御承知あらせられ、深く其の舉を壯として、一同伯林に來り着かん日は必ず之と相見んことを望ませらるゝ旨仰せ出されありしが、今斯く一人の病者もなく旅行の大半を終りて此に伺候し得たるは、殿下の深く御満足に思召さるゝ所なる由を演説し、一行の健康を祝せんが爲とて殿下が舉げ玉ふ杯に一同恭しく目禮して、就も三鞭の乾杯を行ふ。之より栗田大佐再び口を開きて、殿下が御着獨後の御近狀を演説し、土屋杉村等とりとくに今日の優渥なる御もてなしに對し御禮を申上げ、更に一同殿下を取り圍み參らせて杯を舉げて、殿下の萬歳を祝し奉る。殿下は金枝玉葉の御身を自ら卑うして、或は我が婦人會員に旅行中の事ども御尋ねさせられ、或は會員中殿下と同じく戦役に從へる者に御言葉を賜はり、或は自ら菓子サンドウキツチの類を取つて人々に侷め、或は杯を舉げて我等が杯と打交さるゝなど、甲斐々々しく座中を斡旋せらるゝこと一方ならず、我等は就も此の至らざるなき御優遇を且長み且喜びて此處を辭しぬ。



ウエステン商店の記念碑

(二七〇)

### ▲ウエステン商店

殿下邸を辭して後、我等は當市の大勲工場なるウエステン商店が遣はしたる自動車に打乗り、ウンテル、デン、リンデンなる同店に向ふ。同店にては一行の爲とて日曜にも拘らず其の店を開き、境内隈なく案内したる後樓上の食堂にて一同に茶菓を饗したり。

### ▲大使館の饗應

夕七時より我等は日置代理大使の案内を受け、我が大使館にて日本食の饗應を受く。會員の外大使館員同夫人等二十餘

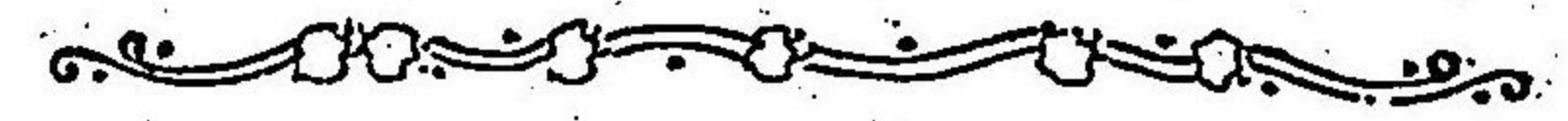
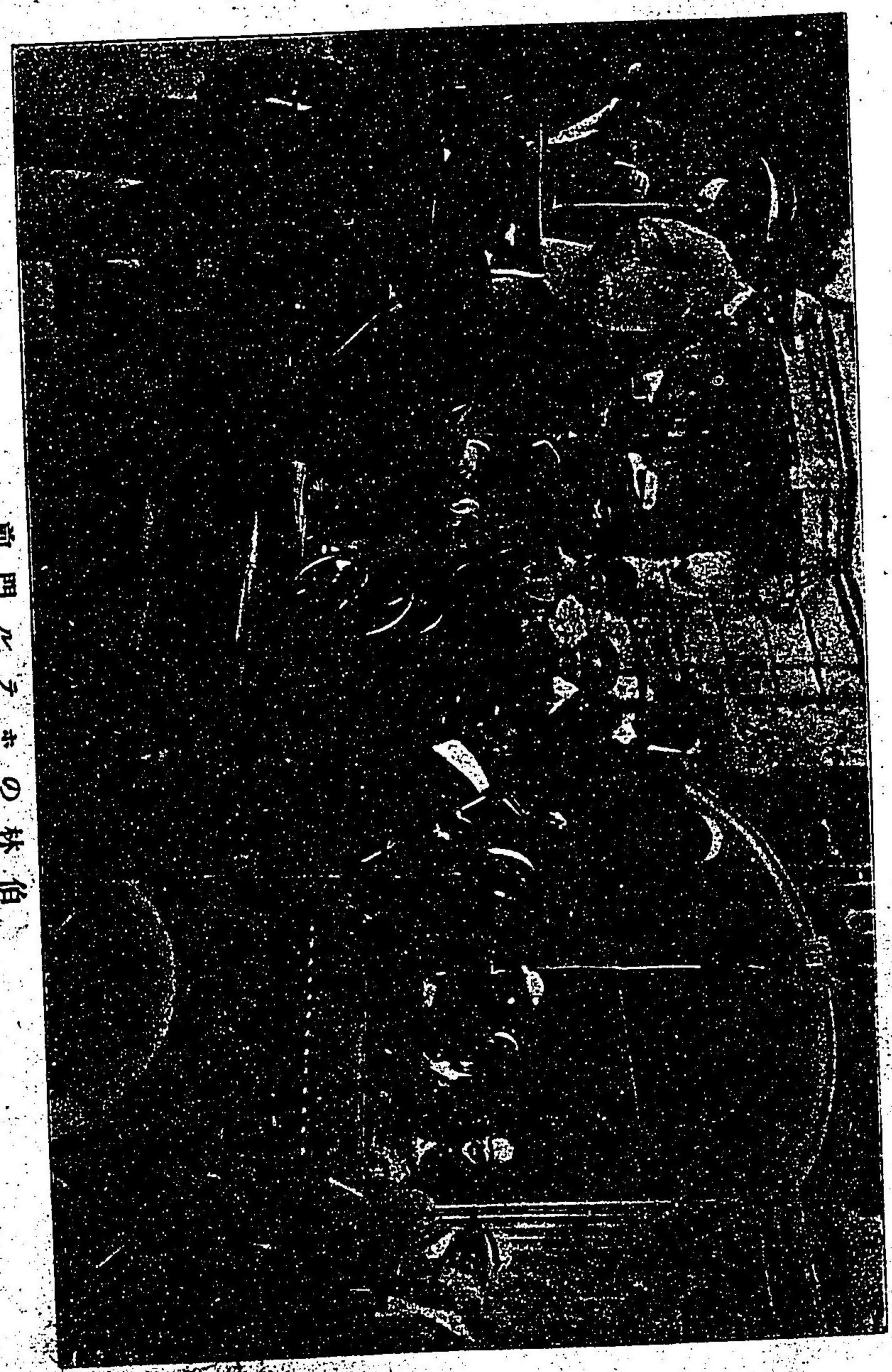
名の出席あり。席定つて後日置代理大使の發聲にて一同わが天皇陛下の萬歳と獨逸皇帝陛下の萬歳とを三唱して三鞭を擧げたり。日置氏は更に一行歡迎の辭を演説して曰く、

朝日新聞主催の今回の壯舉は誠に意味ある計畫として、余の深く同情を表せざる能はざる所也。從來外人の日本人を見るや、殆ど之を小兒視し萬事に愛撫を加ふるの傾きありしが、戦勝後日本が世界の八箇大國の中に入れて以來、外人の日本觀は復前日の如くならず、動もすれば一種猜疑の眼を以て之を視んとする者あり。此の際日本人の深く戒むべきは、漫りに傲岸不遜の態を學びて、他が感觸を損ねざらんとする事是なり。今回の世界一周に依りて諸君が遍ねく歐米の事物を目撃し、同勢五十餘人をして列國に對する態度如何なるべきかを知らしめたるは、慥に意味ある計畫なりと言はざるべからず。今夕は諸君の旅情を慰め且無事の旅行を祝せん爲、此の小集を催したり。當大使館は全く治外法權の地なれば、何卒遠慮なく十分に歡を盡されんことを希望す。云々。

土屋元作一同に代りて謝辭を述べ、代理大使の爲に萬歳を祝せり。之より歡語談笑數刻に渡りて十時頃散會したり。



前門の林伯



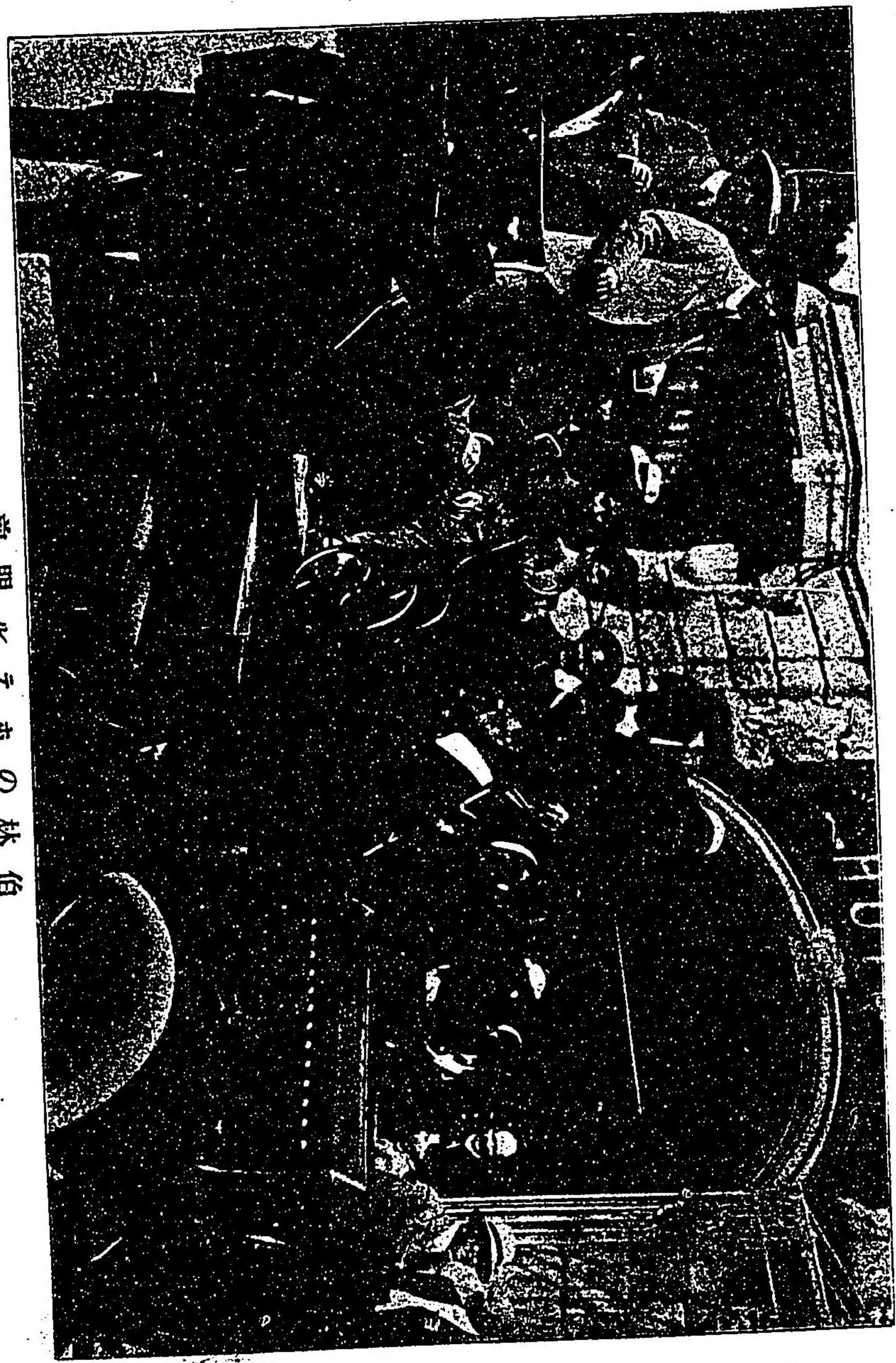
世界一周電報

(二七二)

### ▲春期大觀兵式

伯林の觀兵式

○六月一日、此の日は伯林テムベルホフにて獨逸近衛兵の春期大觀兵式あり。前日大使館の盡力にて特別陪觀券二十四人分を得たるを以て、更に普通參觀券を購求し、會員を二手に分ちて、此の世界に聞えたる獨逸陸軍の觀兵式を拜觀することを得たり。此の日朝七時ホテルを發して式場に向ひ、特別券の者は皇帝陛下の直ぐ御後に馬車を列ね、普通券の者は正面の棧敷にて見物したるが、獨逸皇帝皇后兩陛下を始め御來遊中の瑞典皇帝其の外皇族方、或は騎馬にて或は馬車にて



前門ルテホの林伯



世界一周奮報

伯林の観兵式

### ▲春期大観兵式

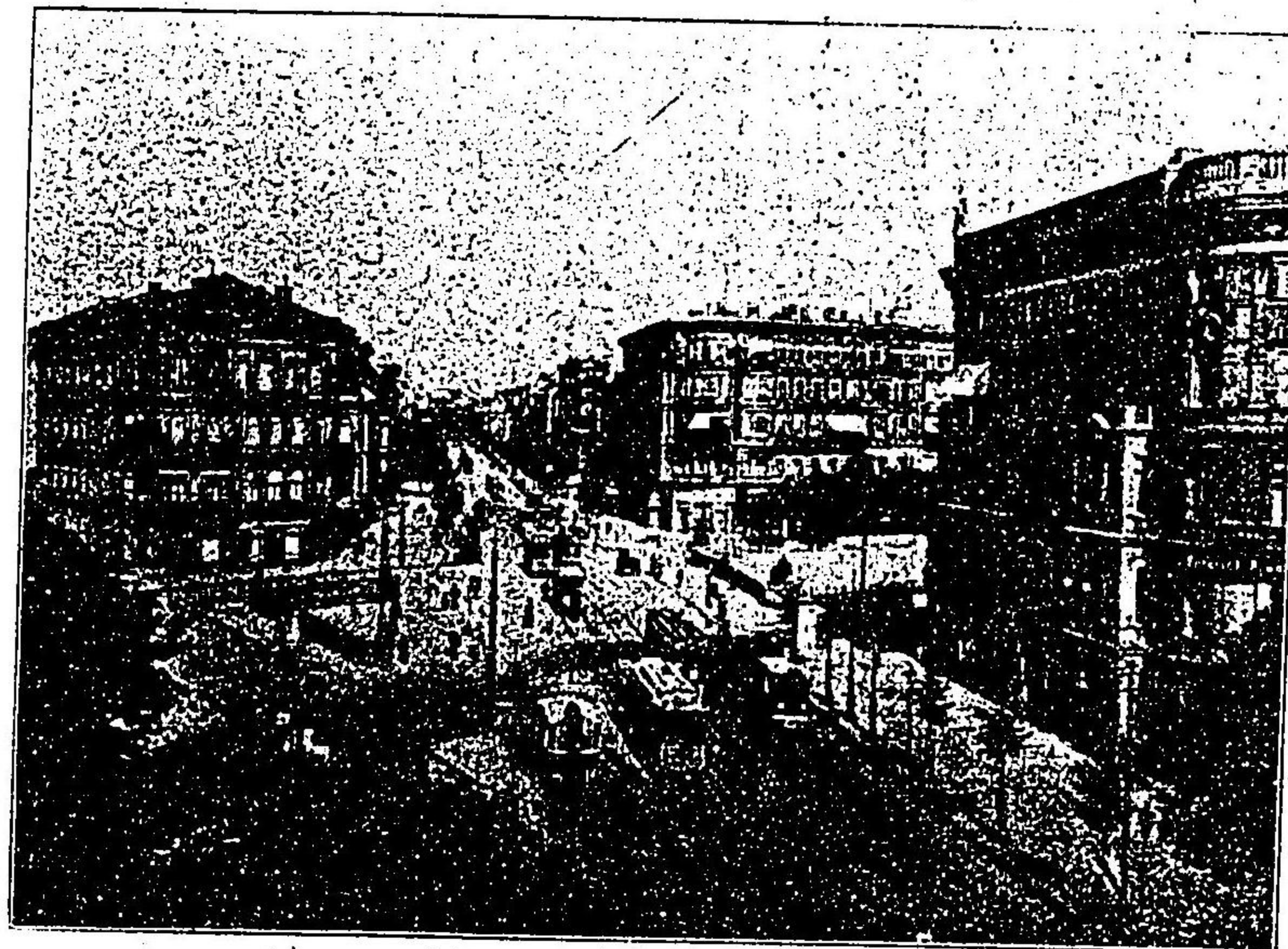
(二七二)

○六月一日 此の日は伯林テムベルホフにて獨逸近衛兵の春期大観兵式あり。前日大使館の盡力にて特別陪観券二十四人分を得たるを以て、更に普通參観券を購求し、會員を二手に分ちて、此の世界に聞えたる獨逸陸軍の観兵式を拜觀することを得たり。此の日期七時ホテルを發して式場に向ひ、特別券の者は皇帝陛下の直ぐ御後に馬車を列ね、普通券の者は正面の棧敷にて見物したるが、獨逸皇帝皇后兩陛下を始め御來遊中の瑞典皇帝其の外皇族方、或は騎馬にて或は馬車にて

此處に成らせられ、八時より愈々觀兵の式を擧げらる。皇帝を眞先にして一隊の車馬、目も通に打續きて立ち列べる幾萬雜衆の間を彼方此方巡視せられたる後、分列式を行ふ。歩兵の肅々として練り行く、騎兵の馬の足並正しく引き上ぐる、各隊の樂隊の様々に相異なるなど、壯觀言はん方なし。十時式全く終りてホテルに歸りぬ。沿道の士女我等を見て歡呼を擧ぐる者甚だ多し。此の日炎熱蒸すが如く、一行就れも大汗になりて歸り來る。

### ▲和獨會の歡迎

當地に和獨會として日獨兩國人より成れる團體あり。前年永く日本に在りて帝國大學の講師たりしリース博士之が會長たり。我等が巴里に在りし頃より、同會にて一行の大歡迎會を催すべき旨通知あり、今夕午後八時を以て愈々之をボツツダム、ブラツツなるラインゴールドに開けり。出席者は我會員の外に日獨兩國の人四十餘名。初にリース博士獨逸語にて歡迎の挨拶を述べて自ら之を日本語に譯し、宴開かれて後日置代理大使の演説(獨語)あり、日本の獨逸大使館參事官たりしエルケルト氏の演説あり、土屋元作謝辭を述べ、市川代治氏之を獨譯せり。又ライプツヒより態々來伯せる鹽谷温氏は自ら獨語にて演説し、自ら之を日本語に譯せり。

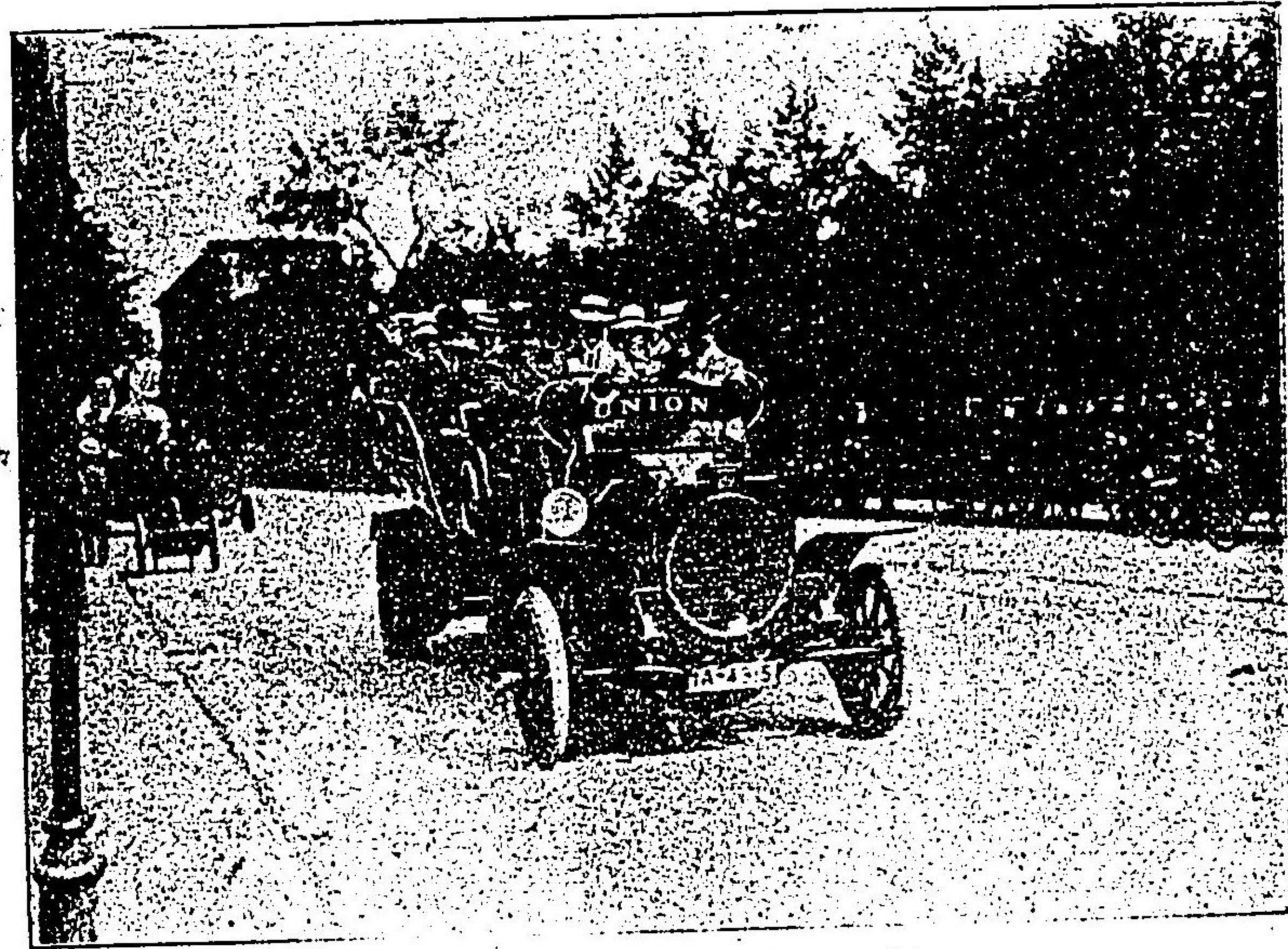


街 ム ダ ツ ム

之より卓上の笑語湧くが如く起り、八時半開宴して十一時半初て宴を閉ぢたり。斯の如き鄭重なる西洋式の歓迎晩餐會に接したるは誠にントレーキ市以來のことなりとす。宴果て、後別室にて幻燈の催しあり、唱歌あり、演説あり、此處にて又幾度かの乾杯行はれて、一同歡を盡してホテルに引上げしは午前一時を過ぎたる頃なりき。

### ▲伯林出發

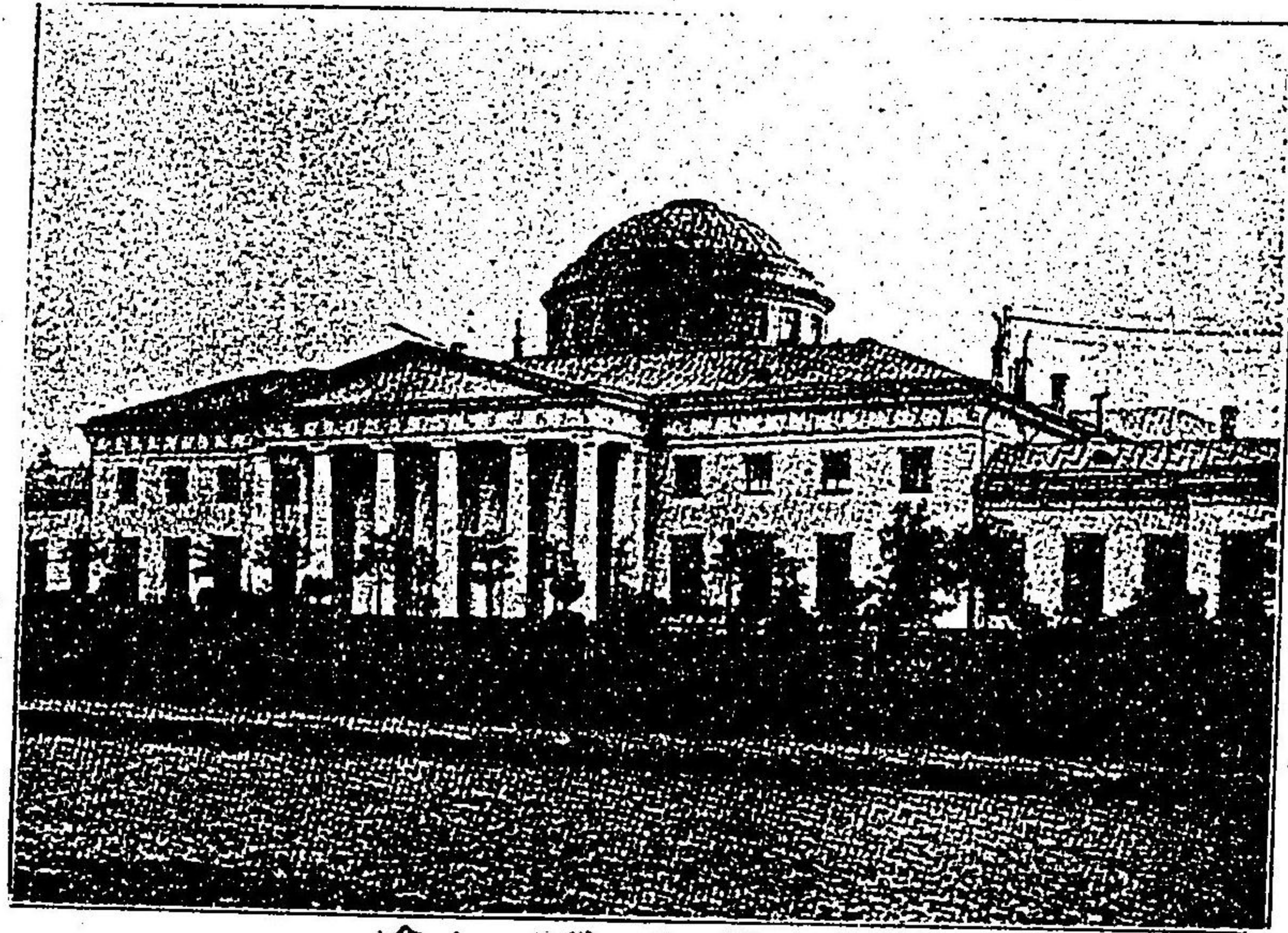
○六月二日 午前九時四十一分フリードリッヒ街停車場より露都に向つて出發す。大使館の出淵書記官上村書記生其他



物見中市林伯の員會周一

在留日本人十數名停車場迄見送らる。好意謝すべし。車中暑さ甚だしく、孰れも暑い／＼の弊を絶たず。唯伊太利の如き塵なきを、せめてもの心やりとするのみ。

(六月七日露都にて記す)



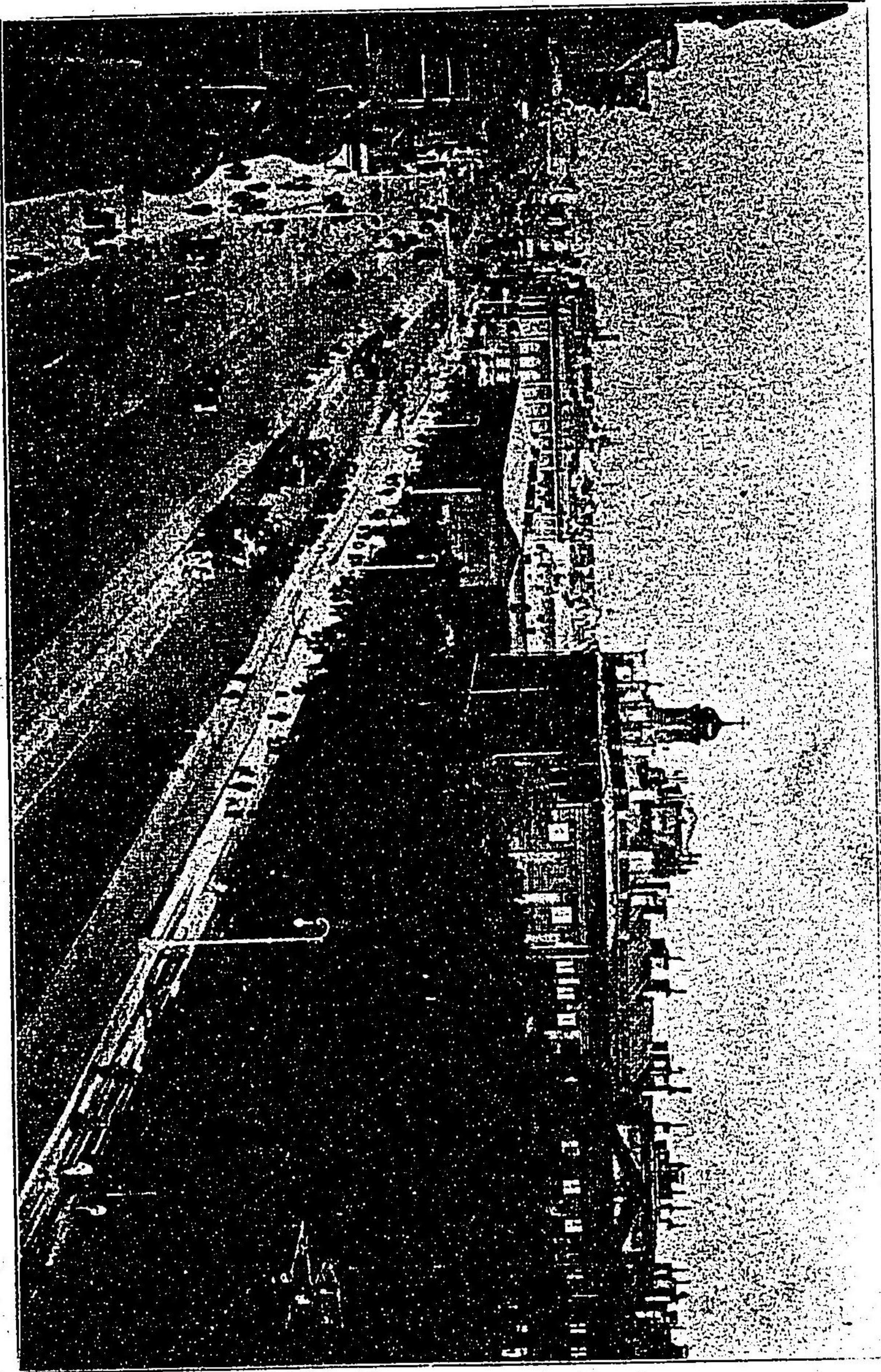
露國議會

二七〇

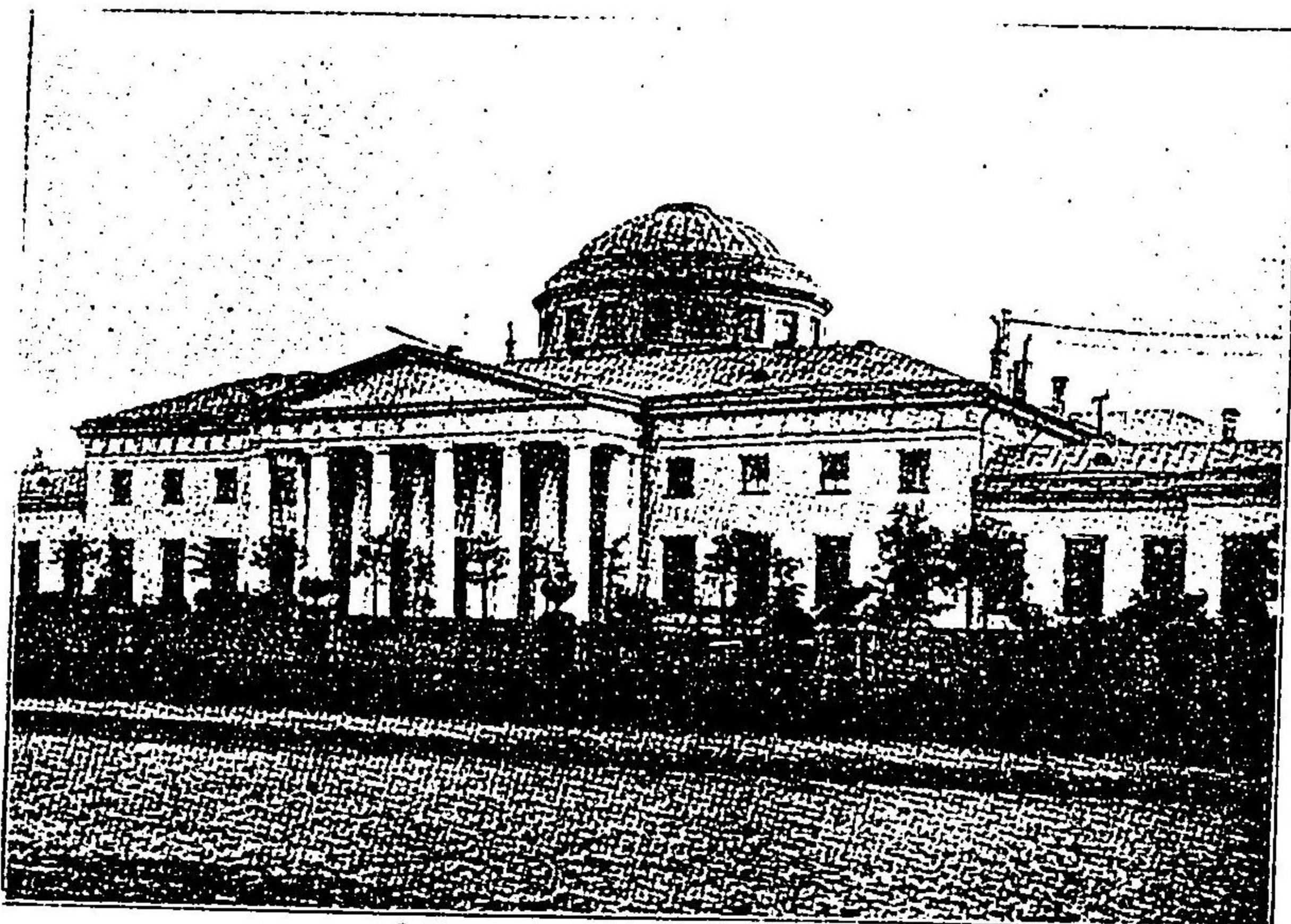
### ●露國日記

#### ▲露國に入る

○六月二日(續) 午前九時四十一分伯  
 林を發したる列車は、午後十時獨逸國境  
 アイトクーンを過て、露國のウキルバ  
 ルレン驛に到着せり。此處にて時間に一  
 時間の相違を生じて午後十一時となる。  
 當驛にて旅行券の取調へ及び税關の荷物  
 検査ありしが、豫て露國大使及びわが駐  
 露大使の照會ありたるを以て、極めて簡  
 單に相済み、さしも打案せられたる露國  
 國境の荷物検査は、僅々五六箇の大トラ



露都サンクトペテルブルグ街



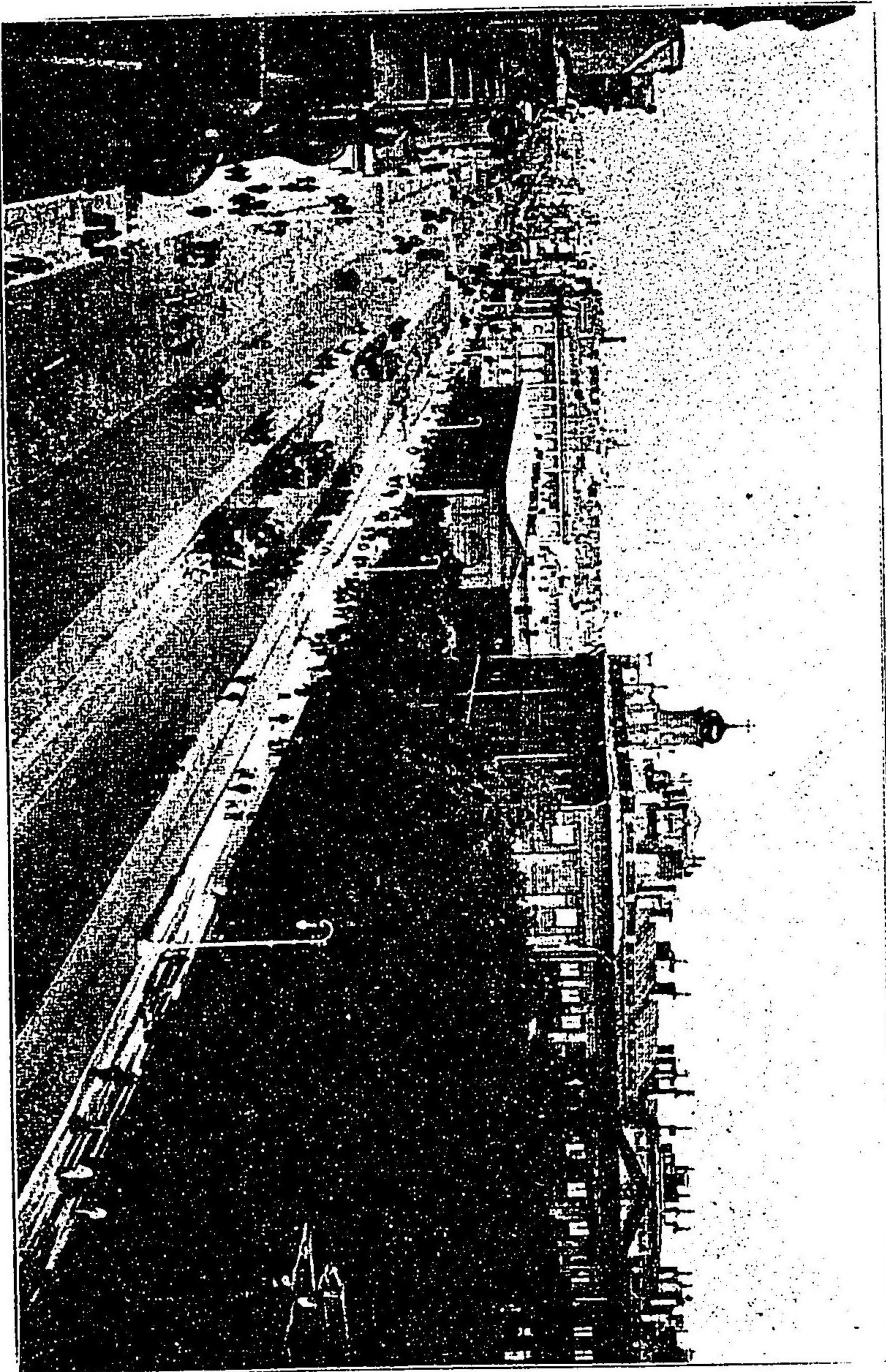
露國議會

### ●露國日記

(二七〇)

#### ▲露國に入る

○六月二日(續) 午前九時四十一分伯  
 林を發したる列車は、午後十時獨逸國境  
 アイトクレーチンを過て、露國のウキルバ  
 ルレン驛に到着せり。此處にて時間に一  
 時間の相違を生じて午後十一時となる。  
 當驛にて旅行券の取調べ及び税關の荷物  
 検査ありしが、豫て露國大使及びわが駐  
 露大使の照會ありたるを以て、極めて簡  
 單に相済み、さしも打案せられたる露國  
 國境の荷物検査は、僅々五六箇の大トラ



露都子ノキス街

シクを形式的に開かせたるのみにて、其のまゝ通過したり。  
午前一時蠟燭の光いと覺束なき露國の列車に乗替を終りて此處を發す。二時初めて臥床に入らんとするに、流石に北に來れることゝて、此時東方は早くも白みかゝれるを見る。

### ▲露都到着

○六月三日 追々に北に向へる爲氣候次第に涼しく、昨日迄炎熱に苦みしものも俄に外套を取り出して着用し初むるに至れり。此日終日汽車は露國の荒村寒落の間を走りて、午後七時三十分初めて聖得彼堡なるワルシヤウ停車場に着す。大使館の上田通譯官、日露貿易會社の中村祥太郎君等出で迎へらる。一同は着後直に十四輛の馬車に分乗して、フランス、ホテルに至り、同家と其前なるベルビユー、ホテルとに分宿す。目下露都には旅客群集して、ホテルの如きなか／＼空室を得ず、斯く相近き二節に分宿し得たるはなか／＼の大出来なり。此日停車場よりホテルに向ふ途中、道行く露人の我が一行に對して脱帽敬禮する者甚だ多し。露人の我等に對する感情の一斑を知るに足る。

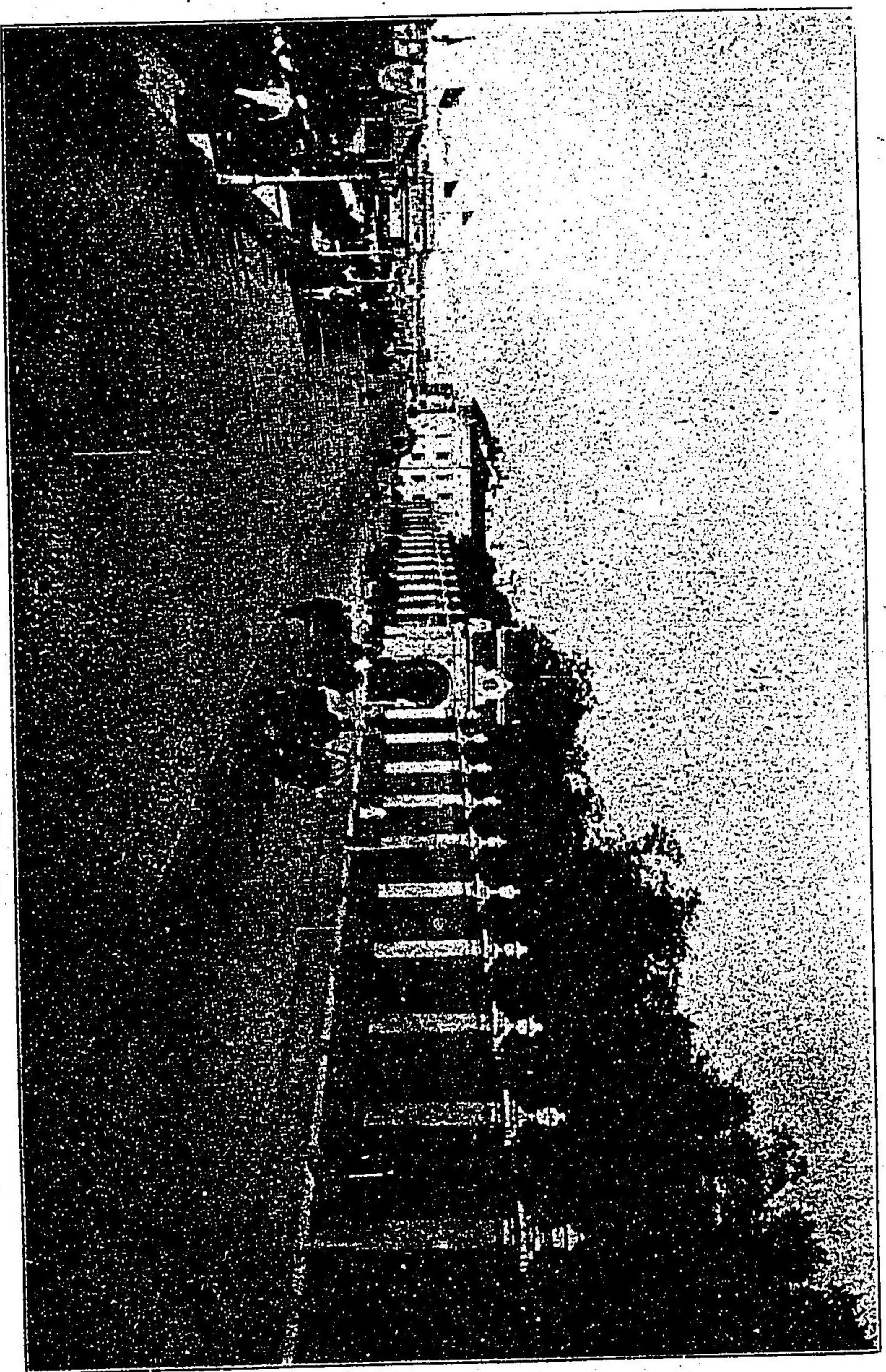


### ▲露都市中見物

(二七八)

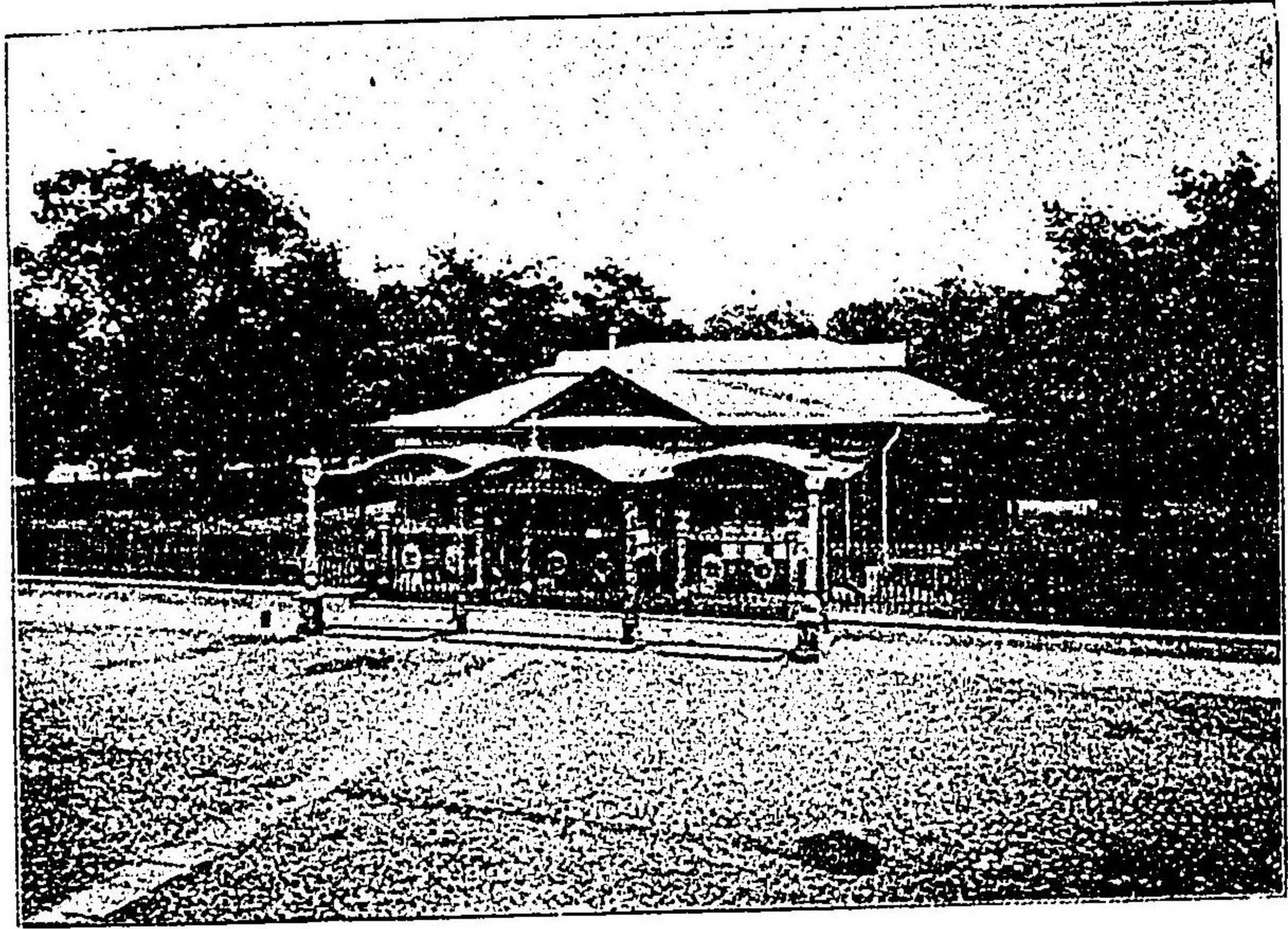
○六月四日 当地の諸新聞紙は孰れも一行に關する記事を掲げ、平生日本嫌ひなるノウオエ、ウレミヤの如きさへ簡短なる歓迎の辭を載せたるを見る。此の日午前、一同は二頭立の馬車十二輛に分乗して、ネワ河の右岸に列べる島々を巡り、島中の繁盛なる町々を見たり。午後是有名なる大寺院イサツク、サボルに詣し、更にアレキサンドル美術博物館にて陳列の繪畫を見、ニコラス二世寺院及びアレキサンドル、チフスキーなる大寺院、ペートル大帝の自ら造りし家などを巡覽

院 寺 ク ツ サ イ



岸河メソラン都露



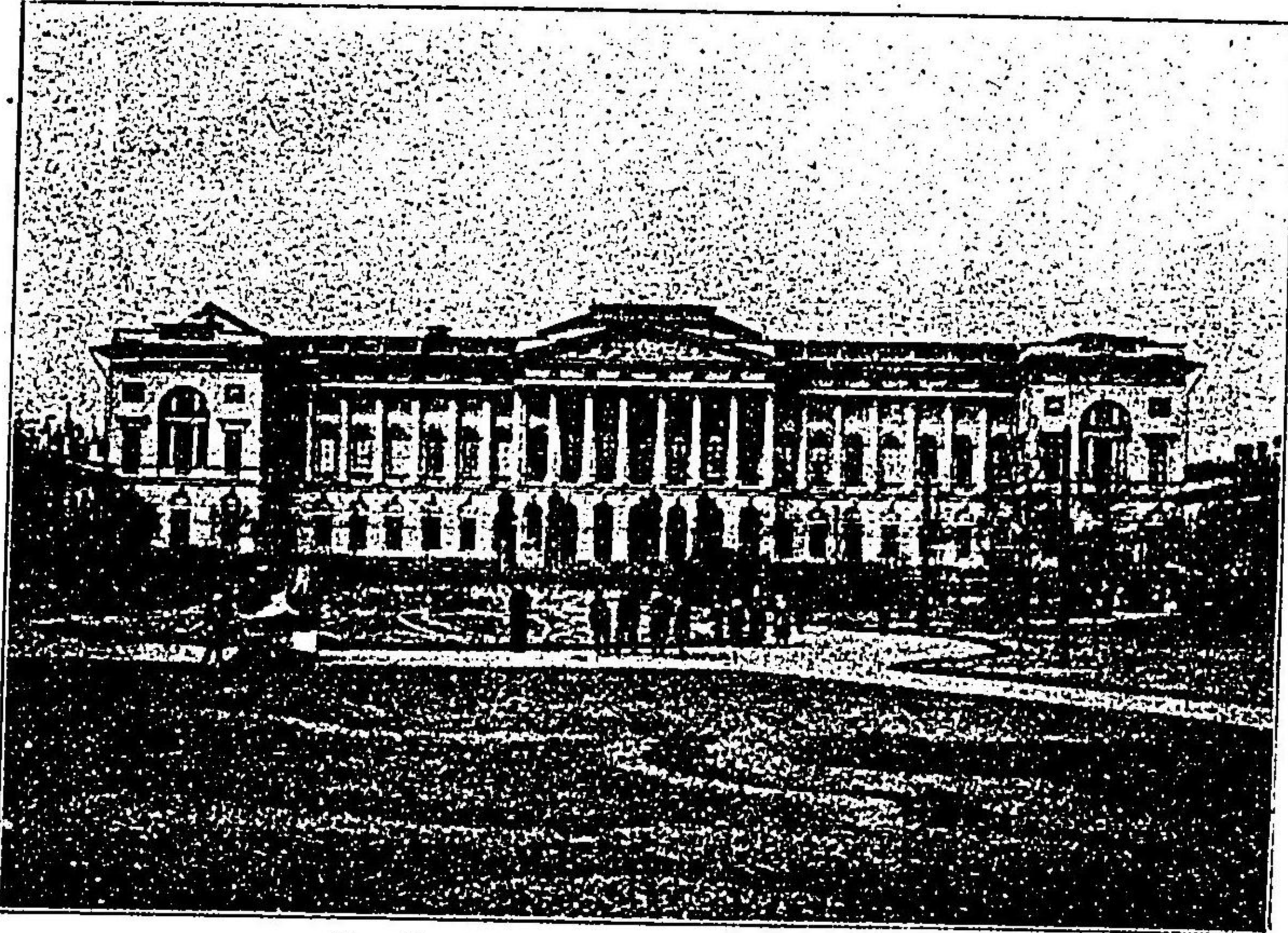


居 宿 の 帝 大 ル ト ー ス

す。寺院の壯麗は今更のやうに一同を驚かせぬ。

### ▲大使館の夜會

此日午後八時より、我本野大使は一周會員及び在留日本人數十名をテヲ河岸なる大使館に招きて、盛なる夜會を開けたり。我等は各地到る處に大使館の禮應を受けたるが、此處にて愈打留めの夜會にぞ接したる。先は目出度しといふべし。本野博士夫妻を始め、大使館員一同其の間を旋し、九時過ぐる頃より立食の饗應あり、一同三鞭を擧げて此處を辭したるは十時頃なりき。



館物博ルドンサキレア

### ▲不夜城

(二八〇)

彼得堡は昨日永の最中として、午後十一時半頃日僅に暮れ、午前一時早く東天の白み来るを見る。中夜と雖も往來の人の顔は明かに見分けつべし。街燈の如きは四五日前より全く點火せずとぞ。太平洋上二箇の三月二十四日に接したると、伊太利に二千年前のボンベイ市を見たと、此處に全く暮ることなき夏の一夜を見たる時は、我が一周旅行中の三大奇事として擧ぐるに足らんか。

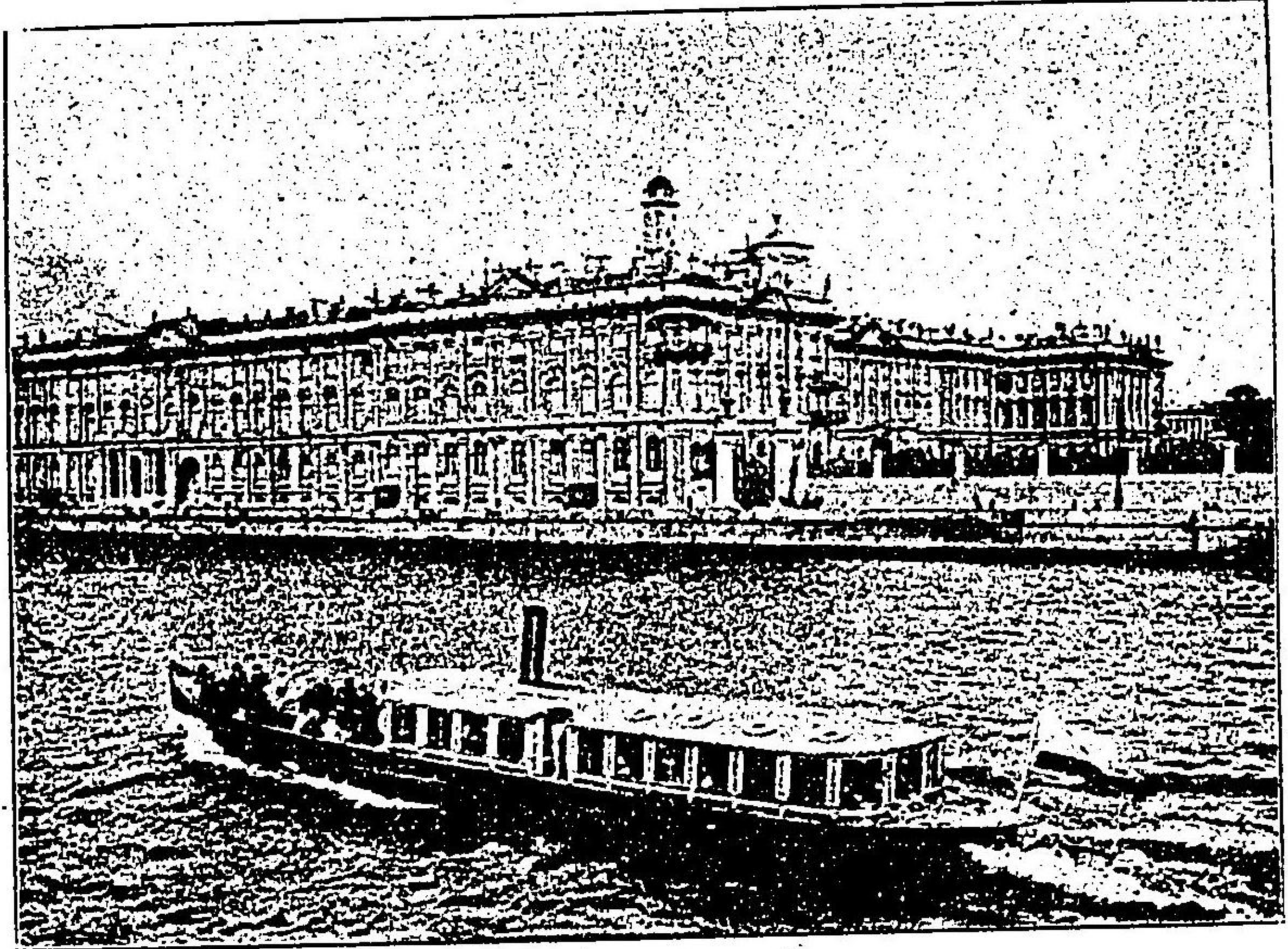
### ▲冬宮拜觀

○六月五日 午前中に手紙をすませたる後、午後一時より一同冬宮拜觀に出で、宮殿内の莊嚴美麗なる各室を案内せらる。英のウキンズル、佛のベルサイユなど數々の宮殿を見たる目にも、流石に露國の宮城は又一種の趣ありて美なり。

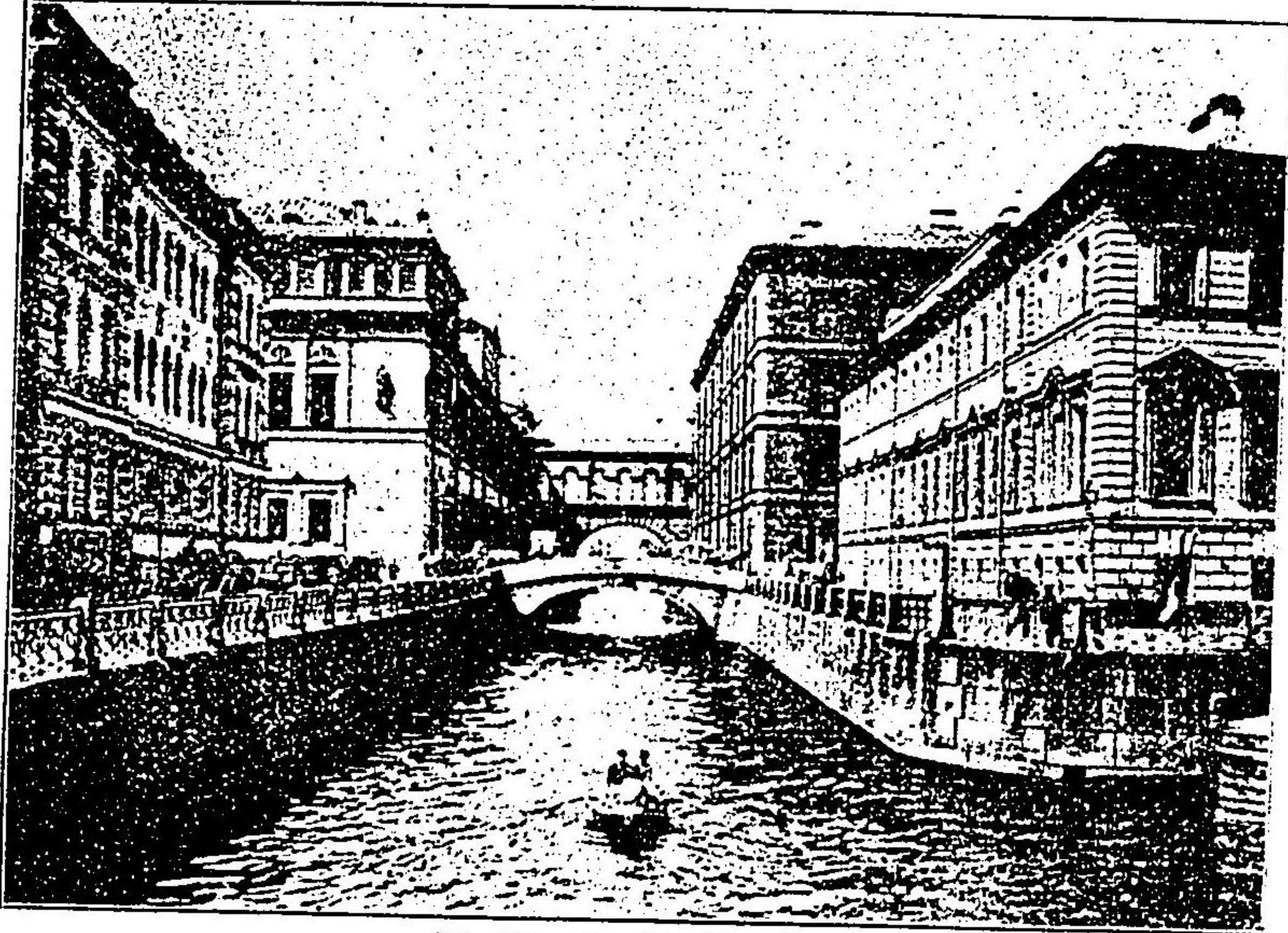
### ▲河岸の小椿事

此處を出で、テフ河岸に出でたる時、端なくも小椿事に遭遇したり。我等が河岸を歩み來れる時、衛兵の一人何やらん我等が案内の者に語りしに、案内の男これに對して何やらん之に答へし言葉が衛兵の積に觸りしものと覺しく、彼は突然

(二八一)



宮 冬



冬宮附近の運河

(二八二)

銃を構へて引金をバチ／＼と打上たり。夫れのみならず彼が與へたる信號によりて、衛兵四五伍長らしきに導かれて、颯と宮門を開きて我等の前へ押寄せたり。一同は譯は分らず唯青うなつて仕舞ひけるが、幸ひにして件の伍長と覺しきが具さに事情を聞きて事判明し、漸く事なきを得たり。尤も兵士が銃を構へしを見て、逸早く逃げ出さんとしたる者會員中に三四あり、稀代の醜體を極めたるものかなとて、此の日一日一同の笑草となりぬ。

### ▲露都出發

午後七時ホテルを出で、八時ニコライ

停車場より夜行列車に乗じて、莫斯科に向ふ。

### ▲莫斯科見物

- クレムリン宮
- 巨鐘
- スバロ
- ヒル

クレムリン附近の莫斯科市中を見



(二八三)

○六月六日 午前八時莫斯科に着し、直にスラビヤンスキー、バザール、ホテルに入る。此の日午前中は、有名なクレムリンに至り、宮殿寶庫寺院及び例の莫斯科の巨鐘を見る。クレムリンは莫斯科河に沿へる三角形の大宮殿にして、帝室の珍器奇什此處に藏せられ、歴代の帝王此處に戴冠の式を擧ぐ。大小の宮殿敷

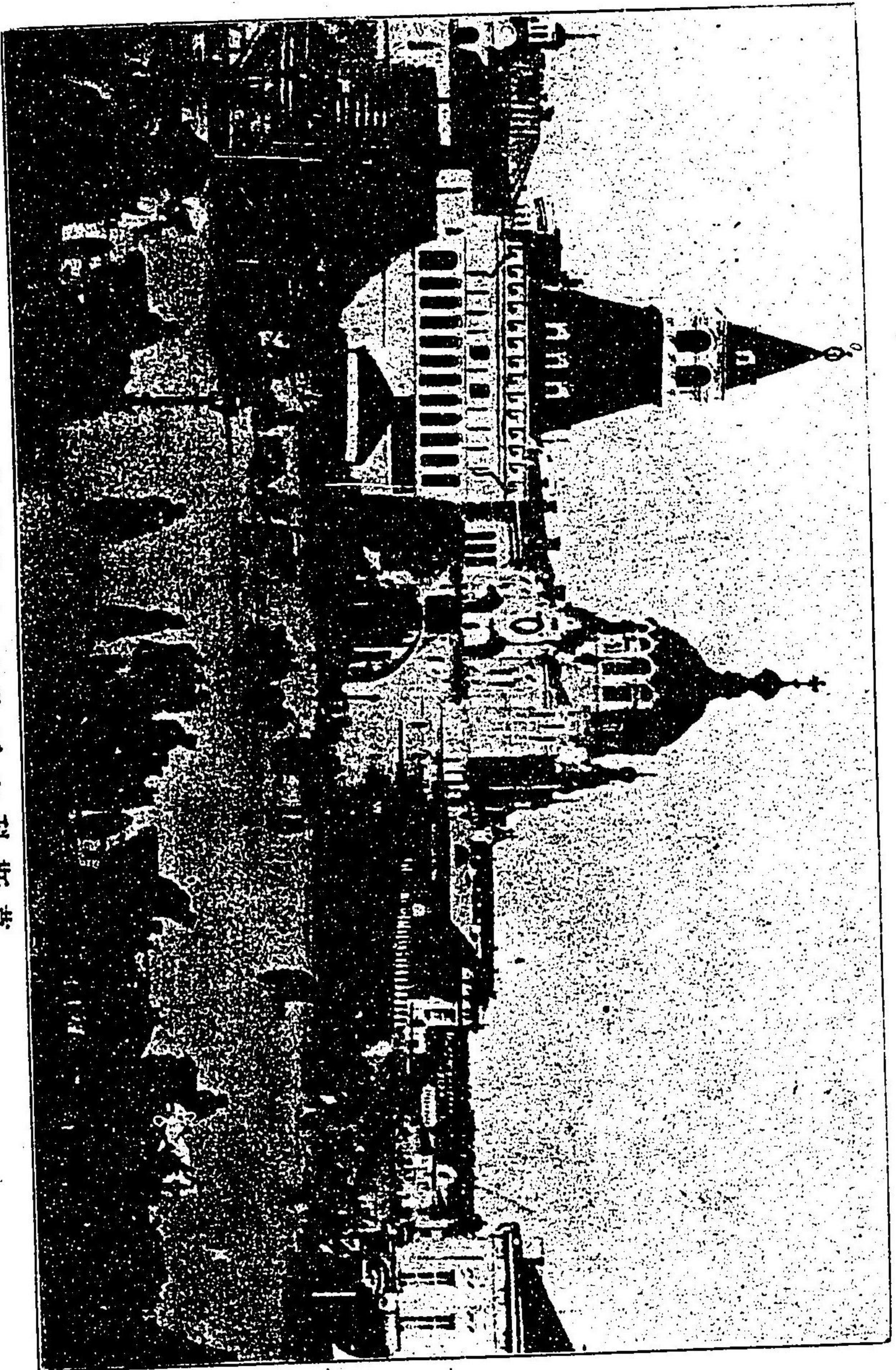


モスクワの聖ソフィヤ大聖堂

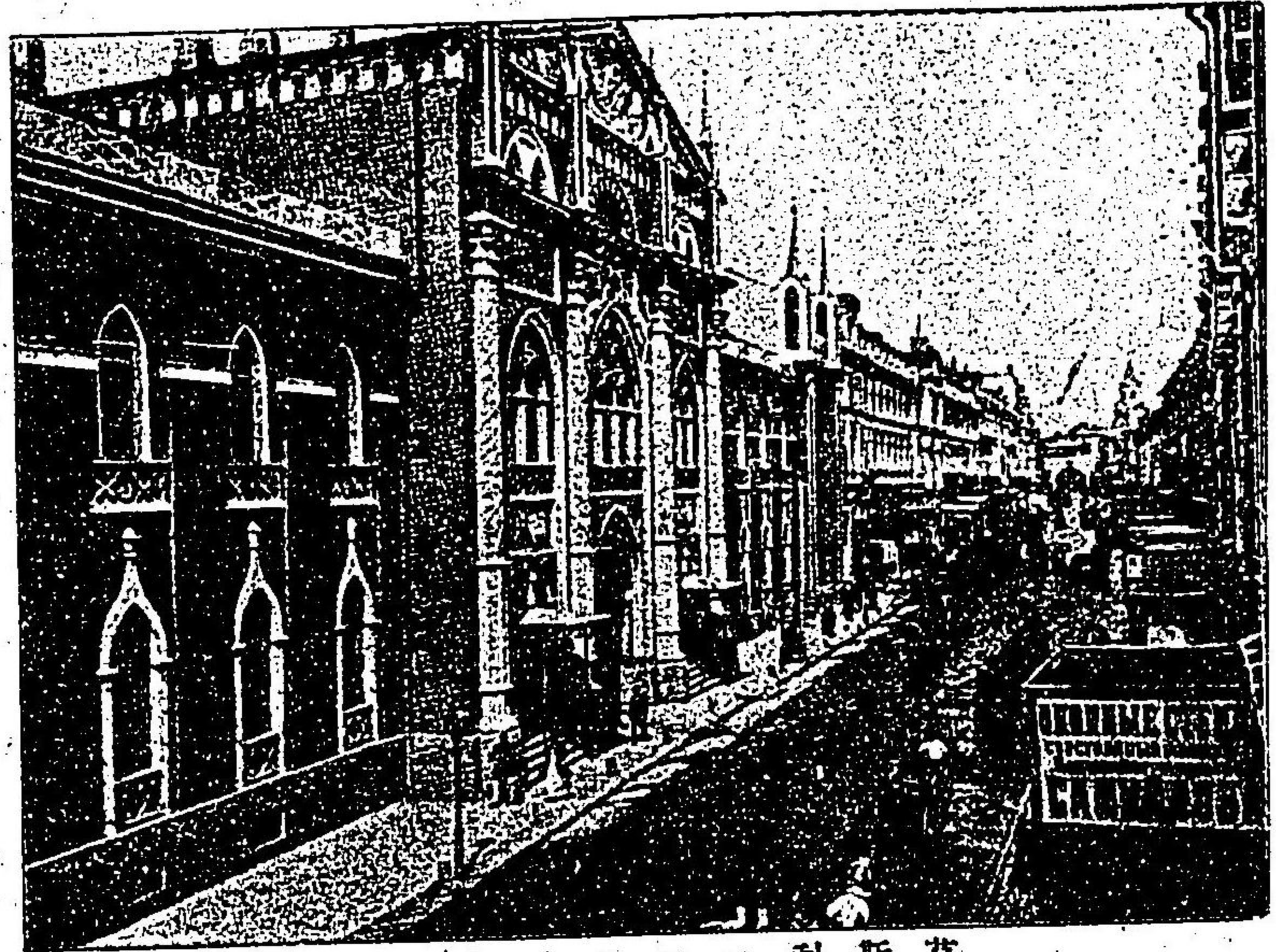
(二八四)

數の寺院其中に在り。有名なる世界一の  
 巨鐘はイワンベリキ塔の前に在り、重量  
 凡そ五萬三千貫、高さ二丈四尺、周圍最  
 も廣き所は十丈、内に二百人を坐せしむ  
 べしといふ。千七百三十五年アン女王の  
 時に鑄造せられ、翌々年火災の爲に毀た  
 れて今の破片を生ぜり。此の破片のみに  
 ても三百貫の重さありとぞ。午後テトリ  
 アコフ美術館サン、サビアル寺院及び韃  
 靼市場等を見物せり。

○六月七日 會員中の有志は馬車を驅  
 つて莫斯科市外なるスバローヒルに至  
 る。該ヒルはナポレオンが露國討入りの  
 際、初めて莫斯科を下瞰したる處とて、



莫斯科の角街



街ヤカスルコニ科新莫

一目に全市を見下しつべく風景甚だ佳なり。之を世界一周會の見物の最後として、晝頃一同ホテルに歸りぬ。

### ▲シベリア鐵道乗込

世界一周會の見物盡く終りたれば、愈之れより歸國の途に就かんとて、午後六時ホテルを發し、クルツク停車場より西伯利亞橫斷鐵道の日曜日發露國列車に乗り列車中の三客車に分乗す。數ふれば三月十八日横濱を發してより此に八十有餘日、其間英、佛、伊、露の諸國にては、會員中其の好む所に任せて或は合し或は離るゝ者なきに非ざりしが、今愈莫斯科

を發するに臨みては、米國にて分れし野村徳七、高倉藤平、南熊夫の三氏及び本國の急電に接して巴里より先發したる杉原榮三郎氏の外會員五十二名、無事に盡く打揃ひたること目出度

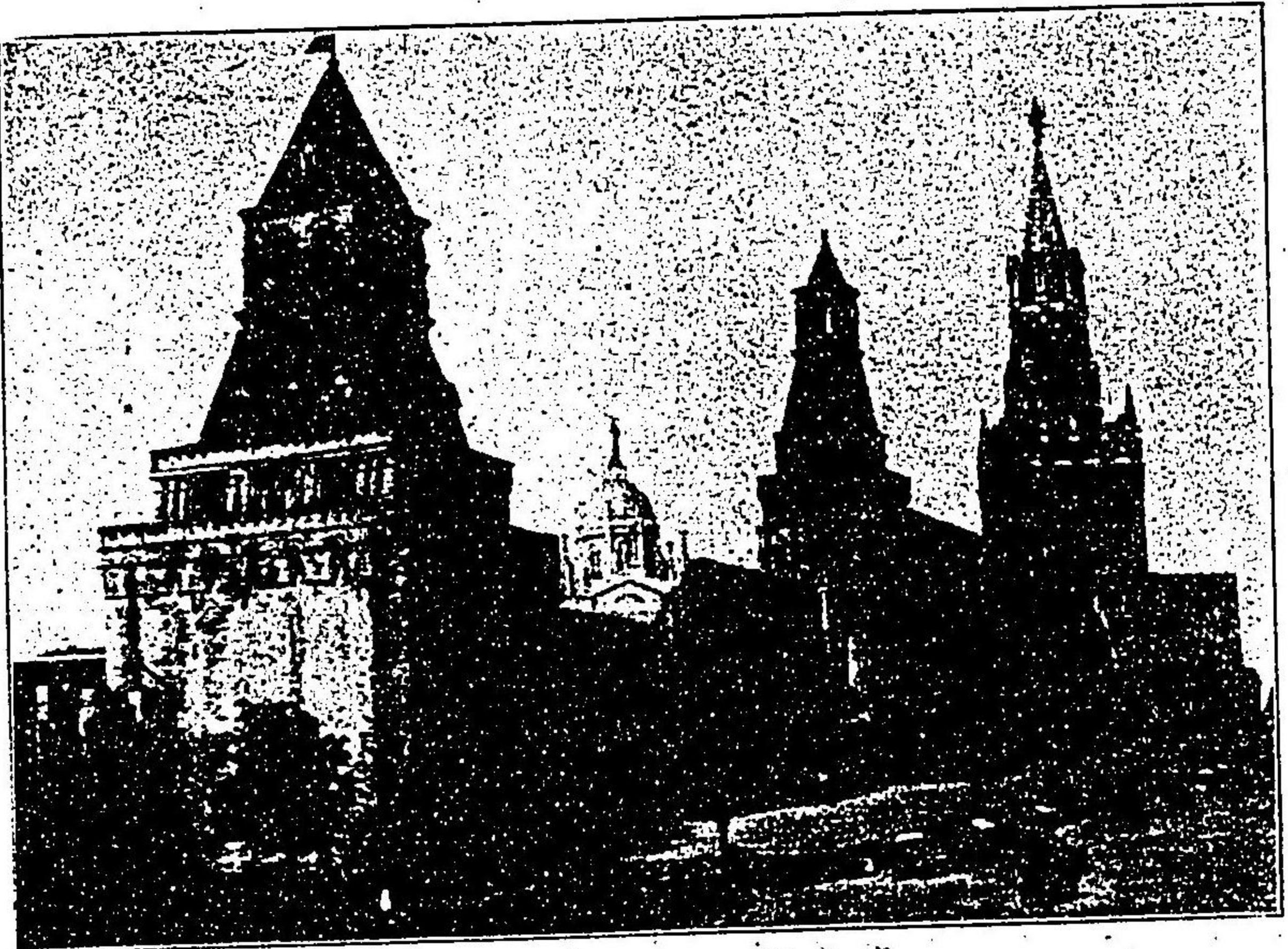
(二八六)



英 斯 科 的 巨 鐘

しとも目出度し。クツク社よりは、日本迄同行すべきクツク社のマシタリ氏之に乗り組みて一同の世話を焼くこととなる。  
午後八時列車愈莫斯科を發し、之より十二日の長道中始まる。さしも露都にては寒かりし氣候が、此處にては

俄に蒸暑くて西伯利亞の盛夏たること思ひやらる。



ウラルガの宮

### ▲ウラルガを過ぐ

○六月八日 終日甚だ暑く、一同大に閉口す。午後二時ペンザを過ぎ、午後八時三十分シスランを過ぐ。シスランより列車ウラルガの岸を沿うて走り、午後九時例の十八町に餘れる大鐵橋を渡る。時恰も月明に會し、清光氾濫に浮びて、滔滔乎として其の遊く所を知らず。衆皆手を拍つて快を唱ふ。

### ▲病人と怪我人

○六月九日 昨夜會員中の某學士二階のベッドより轉げ落ち、したゝかに頭と

胸とを撲つ、太した怪我はなかりけれど、終日心地あしとて臥床に在り。之より先、會員中ホテルにてベッドより轉げ落ちたる者十數を數ふ。皆其の笑はれんことを恐れて今日迄人に語らでありしが、今某學士の此の事あるに會し、我もくと自白する者五六名に及ぶ。爲に車中の大笑となる。

出發以來大元氣なりし塚本喜市君、疲勞の爲昨日午後少しく發熱の氣味あり。列車附のドクトルの診察を受けしが、今日は大いに回復して、殆ど全快の體なり。先づ祝すべし。

▲ウラルを越ゆ

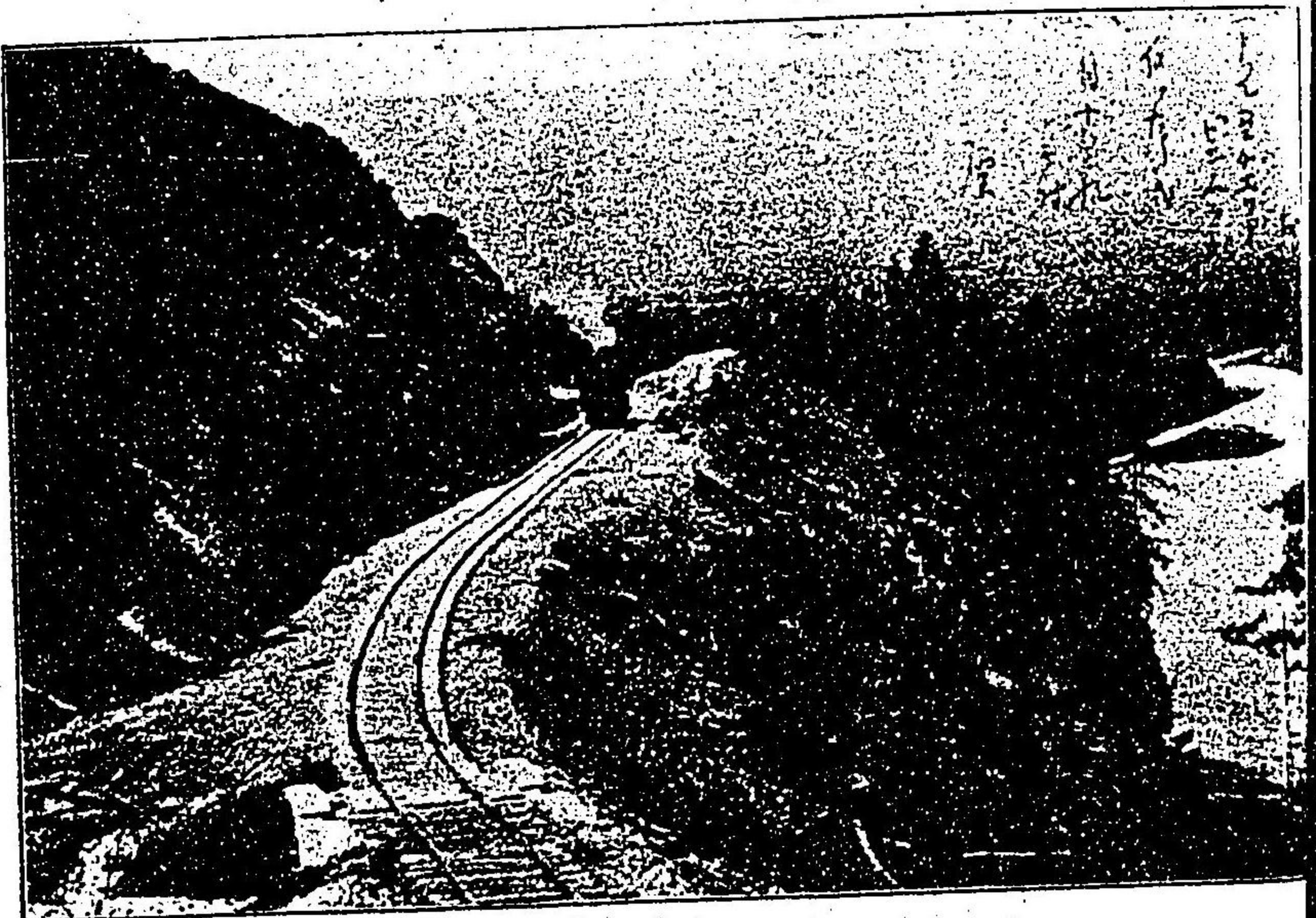
午後三時ウラルの西麓ウラル驛を過ぎ、汽車漸く上り坂にかゝる。今朝より暑さ甚だしかりしが、ウラルにさしかりしより俄に冷氣を覺え來る。

○六月十日 午前二時絶頂ツラトウストに着す。此の時天既に明けたり。ウラルの絶頂を見んとて起き出でたる會員中には、其の儘臥床に入らざりしもの多し。列車は湖畔を這ひ平野を走り壯快を極む。午前七時東麓チェリアピンスクに着す。此處にて五十分間の停車を利用して此の邊より出づる寶石置物の類を購ふもの少からず、思へば我が會員は記念とか何とか唱へて

能くいろいろな物を買ひたがる人々なり。此の日は終日風涼しく、汽車旅行最も愉快なり。三箇の客車に分れ乗組みたる會員は、互に相往來して、到る處談笑の聲を絶たず。午後十時ペトロパウロウスクを過ぐ。

▲オビ河を過ぐ

○六月十一日 爽涼身に適し、西伯利亞の青野原を走り行くの快言ふべからざるものあり。朝早くオムスクを過ぎ、午後カン河の畔なるカンスクを過ぎ、夕九時オビ河畔の新ニコライエフスクを過ぐ。オビ河には船舶輻湊し、オビ停車場



中山ルウ

には人柄よげなる男女ブラットフォームを彷彿す。遂に市街の方を見やれば、電燈の光煌々として人をして一目に其殷賑の地區たるを知らしむるものあり。荒蕪無人の境を走ること四日にして、其の荒蕪無人の平野の間に、斯ばかり盛なる市街を見んこと殆ど思も儲けぬ所なり。

### ▲山中の遊歩

○六月十二日 終日爽涼、復伊太利獨逸の暑さを覺えず。

午後九時クラスノイアルスク驛の手前の小停車場にて、行き違ふべき列車を待ち合せて停車場すること半時間ばかり。停車場とはいふものゝ、荒野原の中の一軒家なれば、會員は孰も汽車を下りて、或は野原に駆け廻り、或は坂を上り下りして遊ぶ。乗合の露人も亦之に立ち交りて、或はブラットフォームに語り、或は打連れ立ちて花を摘みなどす。暮足遅き西伯利亞の日は暮れんと欲して久しく暮れず、見上ぐれば月既に中天に在り。わが列車に隣して留まれる移民列車の中には、何事の可笑しきことありけん、頻に笑ひさめく聲聞えて、時には鄙びたる節にて若き女の合唱するが聞ゆ。

### ▲食堂の大宴會

此の夜十時を過ぎて後、期せずして食堂車に集まる者二十餘名。塚本喜市君病氣全快の祝ひとして三鞭を抜き、小西平兵衛君水菓子を驕り、岩本榮三郎君麥酒を驕りて、端なく此に大宴會は催されぬ。酔の廻るに従ひて井上徳三郎君追分を歌ひ、吉原勝田の二君勸進帳を吟り、はてはラツバ節やら四百餘州やら伊太利の歌なども出て、側に居合せたる列車長の爲に三鞭を擧げてウラーを三唱するなど、其賑ひ言ふべからず。十二時食堂の閉鎖を期として、一同「君が代」を合唱して此處を引き上げたり。斯る折に我等露國の國歌を知り居たらば、如何に乗合の露國人を喜ばせ得たりけん。之なかりしは千秋の遺憾なり。此の後西洋に旅せん者は、必ず各國の國歌を心得おくべき必要あるべし。

### ▲終日林中を走る

○六月十三日 爽涼依然たり。昨日以來列車深林の間を通過し、日を更ふれども盡きず、今日も亦終日林中を走る。氣候は我が三月末か四月初の暖かさにて、林間隨所に芍薬、薔薇、蒲



英公、維菊の類咲き亂れて、さながらの錦を織り成し、我等が目を悦ばしむると一方ならず、停車場には村の童等之を摘みて束となし、一束五文にて賣りに來る。西伯利亞と聞けばむくつ

けなれど、なかくくにみやびたる所もありけらし。

### ▲列車乗替

○六月十四日。正午イルクーツクに着し、此處にて東清鐵道の列車に乗り替ふ。今度の列車は、前のに比して寢臺小さく、車室狭くして、遙に彼れに劣れり。唯食堂の給仕中獨佛語を解する者あるを便とす。荷物の積替など滞りなく行はれて後、間もなく列車は時間表に示せる通十二時四十五分を以て發す。去年迄は此處にて二時間も三時間も停車したるに僅に一年の間に斯の如き改良を見たるは、露國もなかくえらしと云ふべし。

### ▲バイカル湖岸

イルクーツクを出で、後二時間にしてバイカル停車場に着し、此處より愈バイカル湖岸に



車列行急ヤリベシ

さしかゝる。今朝來寒甚しく人皆外套を用ふ。左ながら十一月末の氣候に似たり。湖岸を迂回して、隧道の中を抜け絶壁の裾を走り、幾曲折幾變化、乍らにして渺茫なき湖面を現し、乍らにして狭まつて左ながら河の如き灣口に入り、長驅して茂林の間に入るよと見れば、俄に展開して野花繚亂たる平野に出づ。バイカル湖岸の六月は儘に西伯利亞線中の絶景たるを失はず。去年迄は往路復路其之を夜中に通過せしが、今年は時間を繰上げて、日暮る迄に殆ど其の全部を過ぐるこゝなれり。之も改良の一なり。

### ▲月明

バイカル湖を過ぎて後日全く暮る。今夜満月シベリアの野を照して、岡陵森樹光を浴びるはなし。屢細流の野に溢れて宛たる小湖を現するを見る。衆手を拍つて皆其の美を言はずんば已まず。

### ▲湖東の勝景

○六月十五日 昨日の寒さに引きかへて、今日はやゝ暑し、列車は依然として丘陵森林の間を走る。其の甍を敷けるが如き青草、其の錦を織れるが如き紅黄白紫の花、其の之におし覆さりて巨人の如く立つ立てる白樺赤松の類、見渡せば自動車を驅る者こそなけれ、身は左ながら倫敦のリッチモンド、パーク邊を行くに似たり。午後四時チタ驛を過ぐ。終日甚だ暑し。

### ▲滿洲里を過ぐ

○六月十六日 午前六時半列車滿洲里驛に着す。税關吏來りて客車内の荷物を検査す。検査とはいふものゝ、一寸振り動かし見たる位にて中をも開かせず、貨車に預けおきたる大荷物は一時税關の中迄運び入れしが、通過貨物といふ點にて検査は行はれず、其のまゝ再び列車内に運び返されぬ。斯くて此處に停車すること一時間にして發車、道之より清國滿洲に入り、今迄は汽車時間に彼得堡時間を用ひ來りしが、此處より哈爾濱時間となる。正午十二時ハイラルを過ぐ。暑さ甚だし。唯急激の如き驟雨屢車窓を洗ふに由つて、辛く息を繼ぐを得たり。夕興安嶺を越え、夜十二時チ、ハルを過ぐ。

### ▲哈爾濱を過ぐ

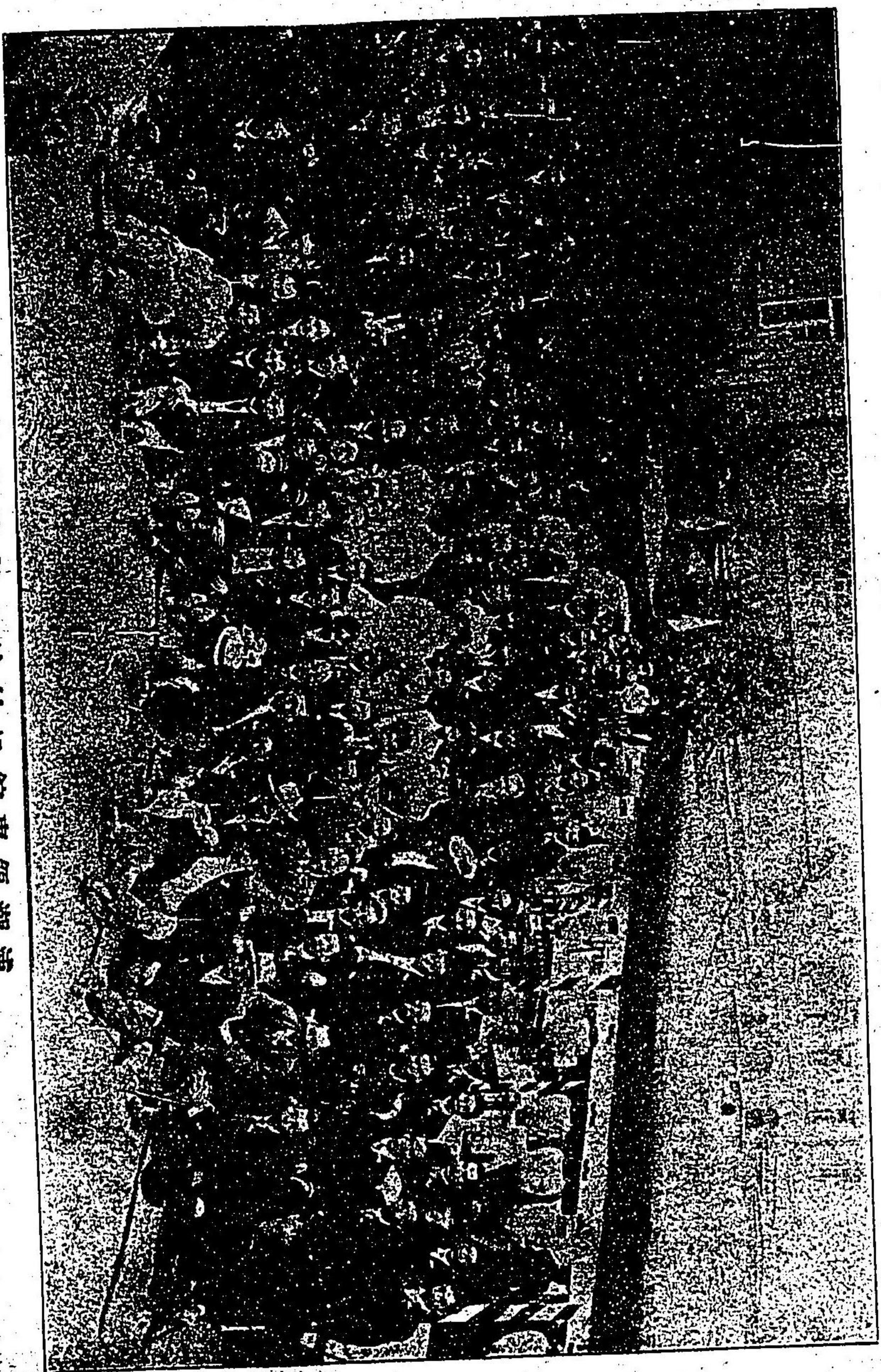
○六月十七日 朝六時哈爾濱に着し、此處にて一時間停車し七時發車す。此の夜午前一時(十八日)ボグラニチナヤ驛にて、邊國税關吏車中に來りて手荷物の検査を行ふ。検査は形式的に相すみたれど、兎に角一度は一同其の夢を驚かされたるなり。此處にて滿洲領終り再び西伯利亞に入る。

### ▲浦潮到着

○六月十八日 午前十時十分わが列車は浦潮に到着せり。西伯利亞線は本年五月一日より時間表を改正し、以前よりは一日早く着ることとなり居たる爲、斯く豫定よりは一日早く着したるなり。之にて莫斯科より足かけ十二日となり、時間は十日と十時間餘に當ることとなり。浦潮停車場には在留邦人百餘名の出迎を受け、一同直に昨日より待ち受け居たる一行の乗船鳳山丸に入れり。

### ▲領事館の園遊會

鳳山丸にて午餐を喫したる後、午後三時より一同領事館に至り、在留日本人の催しにかゝる歡迎園遊會に列す。領事館の庭に假小屋を仕つらへて會場に宛て、外に鮎蕎麥麥酒汁粉等數箇所の模擬店を造り、用意頗る至れり。會者はわが會員の外に在留邦人百餘名、席定まつて後、野村領事起つて、歡迎の辭を述べ、一行の爲に祝杯を擧ぐ。一周會よりは杉村之が謝辭を述べて在留邦人の萬歳を唱へたり。斯くて模擬店は開かれ、獻酬盛に行はれて、一同は五時過



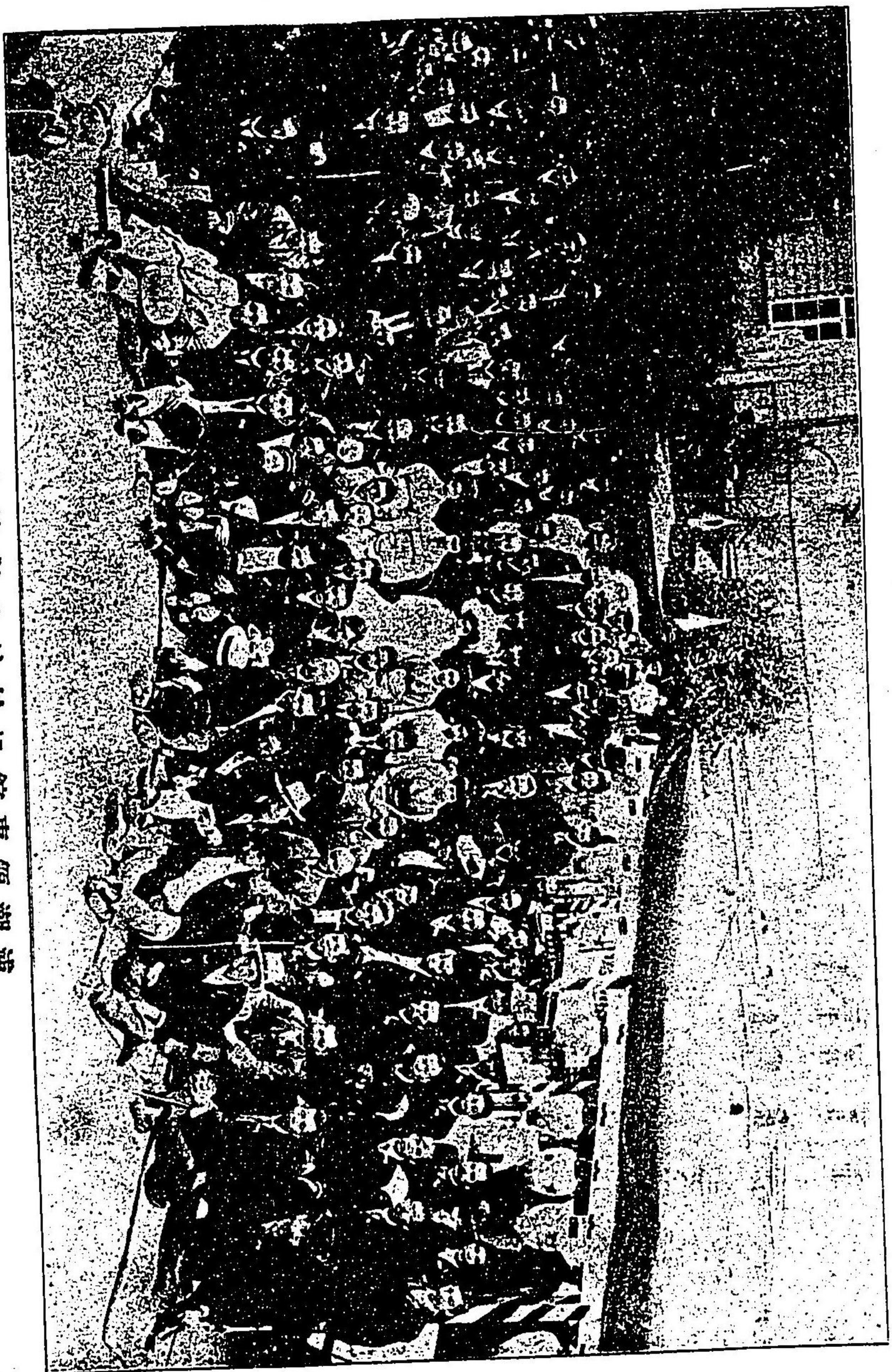
浦潮領事館に於ける歡迎會

### ▲浦潮到着

○六月十八日 午前十時十分わが列車は浦潮に到着せり。西伯利亞線は本年五月一日より時間表を改正し、以前よりは一日早く着ることとなり居たる爲、斯く豫定よりは一日早く着したるなり。之にて莫斯科より足かけ十二日となり、時間は十日と十時間餘に當ることとなり。浦潮停車場には在留邦人百餘名の出迎を受け、一同直に昨日より待ち受け居たる一行の乗船鳳山丸に入れり。

### ▲領事館の園遊會

鳳山丸にて午餐を喫したる後、午後三時より一同領事館に至り、在留日本人の催しにかゝる歡迎園遊會に列す。領事館の庭に假小屋を仕つらへて會場に宛て、外に餅蕎麥麥酒汁粉等數箇所の模擬店を造り、用意頗る至れり。會者はわが會員の外に在留邦人百餘名、席定まつて後、野村領事起つて、歡迎の辭を述べ、一行の爲に祝杯を擧ぐ。一周會よりは杉村之が謝辭を述べて在留邦人の萬歳を唱へたり。斯くて模擬店は開かれ、獻酬盛に行はれて、一同は五時過



浦潮領事館に於ける歡迎會

ぐる頃歎を盡して解散したり。一行中の最も濃厚なる逸見老人が此の日に限りて最後迄踏み止まりて、七時頃迄踊り狂へるは正に特筆すべき大珍事なるべし。

### ▲浦潮市中見物

園遊會散じて後會員は當地在留邦人に案内せられて市中を見歩き日暮る、ころ歸船したり。此頃邦人にて初めて西洋風のホテルを當地に開きし竹馬巖氏、特に其浴場を開きて會員入浴の便を與へられしは一同の深く感謝したる所なり。(シベリア汽車中及船中にて認む)

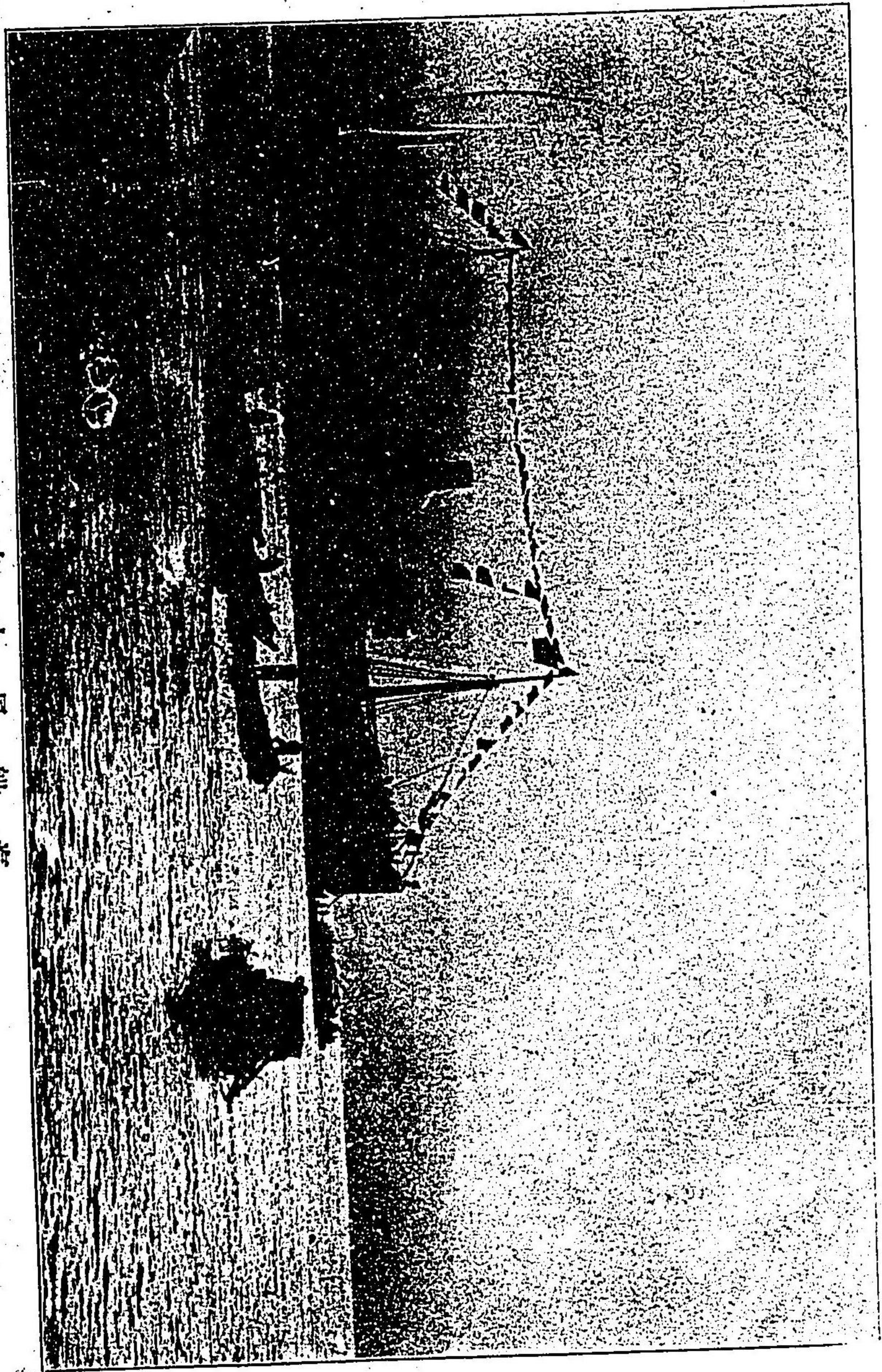
# ●日本海日記

(二九八)

## ▲汽船鳳山丸

大阪商船會社の好意

○六月十八日(續) 午前十時一周會員の浦潮に着するや、一同は直に其旅館に宛てたる汽船鳳山丸に赴けり。同船は大阪商船會社の所有に係り、總噸數二千五百〇九、最速力十五海里にして、昨年七月竣工以來、浦潮敦賀間の定期航海に用ひらる。乗客定員は一等二十八人、二等三十二人なるを以て、特に今回は二等の設備を改善して一等同様となし、以て我が會員五十餘名を容るゝことしたり。商船會社が此航海に於て我が一行の爲に表したる好意は、誠に豫想の外にして、先づ本船の入口には、國旗を吊し絲門を立て、歡迎の意を表し、船内三個所に仕つらへたる一等食堂及喫煙室には、神戸裝飾會社に命じて隙間もなき裝飾を加へしめられたば、新造後間もなき船の美しきが上に、更に一段の美觀を添へて、會員の満足一方ならず。之が浦潮埠頭にかゝりて、我が會員の出入り賑々しく往來するを見て、何事のお祭り騒ぎ



汽船鳳山丸

ぞと手を額にして道行く露人清韓人の訝かるも理りなり。商船會社の厚意は獨り以上に止らず、燃料は特に最良の石炭を用ひ、乗組員は火夫水夫ボーイ等の數を加へ、更に長途の旅行に西洋風の窮屈を慰せんとて、別に浴衣を製して三尺帶扇子と共に會員一同に贈與し、又日本食の準備として、海魚は明石に、川魚は江州に注文し、漬物は東京より、酒は灘より取り寄せ、尙其上航海中の無聊を慰めんとて、鮭汁粉蕎麥などを用意しありたるは、重ねて用意の行届きたる唯々驚歎の外あるべからず。此等の諸準備には、船員殆ど徹夜總係りにて、只管過なからんとを期したる事、船長が此の航海ほど氣骨の折れたることはなしといへる一語にても察するを得べし。クック社のマンテリ氏浦潮到着以來日本人の歡迎頗る盛なるを見て、斯く迄に同國の民互に相愛して好意を盡し合ふ國民は、彼が初めて見る所なる由を語り、斯ればこそ左しもの強敵なる露國を容易に打破るを得たるなれと人に語りといふ。

斯くて、此日は室の割當荷物の片付等を済ませたる上、一日を陸上の歡迎會又は見物に費し、夜に入りては、船に歸りて或は喫煙室或は食堂に夜深くるまで會員互に語り交しぬ。中には、故郷の近づきたるに力を得て、満酌氣焰を揚げたるものも少からざりき。

### 浦潮出發

(三〇〇)

○六月十九日 午前は買物又は見物に費され、正午十二時愈我が満船飾美はしき嵐山丸は纜を解きて浦潮を出でたり。發するに臨みて、商船會社が一行の行色を壯ならしめんとて特に雇聘したる浦潮三十六聯隊軍樂隊は埠頭に立ちて、唸唸たる樂を奏し、見送り呉れたる在留邦人が呼び交はす萬歳の聲左ながら雷の如く、打振る手巾は秋の木の葉と繁かりき。浦潮港務局長エーゲルマン氏出帆三十分前本船に來りて、告別の挨拶をなし、恰も某大公の御微行に來港せられたるに會したるが爲、萬事に不行届なりし由を謝せり。氏の來船は今朝杉村の一行を代表して之を訪問したるに答へたるものなり。氏は温厚篤實日本最良を以て聞え、氏の好意によりて邦人の便利を蒙ると一方ならずとぞ。

我社の浦潮特派員八十島金村氏同船敦賀まで出張することなる。

### 日本海荒る

午後三後船アスコルド島を過ぎたる頃より、波濤次第に高く、太平大西兩洋の航海に平氣な

りし會員まで、多く船暈を催したり。晚餐の卓に着く者極めて少く、夜に入りては一同早く臥床に入りぬ。

○六月二十日 昨夜來波高く、船の動搖甚だし。されど會員は日本が近づきたりとして孰れも浮かれ上り、甲板に食堂に喫煙室に、到る處笑語の聲を絶たず、敦賀到着は明早朝なれば寧ろ夫迄語り明さんとして、一夜夜遂に眠らざりしものも多かりき。波も亦夕方より次第に靜まりて、商船會社の手厚き待遇を一同遺憾なく受るを得たり。

### 日本歸着

○六月二十一日 此の日は一同午前三時頃より起き出で、立騒ぎ、漁船が見ゆる、能登が見ゆるとて、見る物聞く物につけて何かなしに嬉しがり、片時も早く敦賀に着いたしと焦りしが、汽船は拂曉頃越前の沖に着し、午前六時入港したり。之にて左しも天下の耳目を聳動せしめたる我が世界一周會の大旅行は首尾よく全世界の大喝采聲裡に終を告げぬ。横濱を出で、より日を経ること九十有六日。道を開ること實に二萬二千七百五十五哩。(敦賀にてしたしむ)

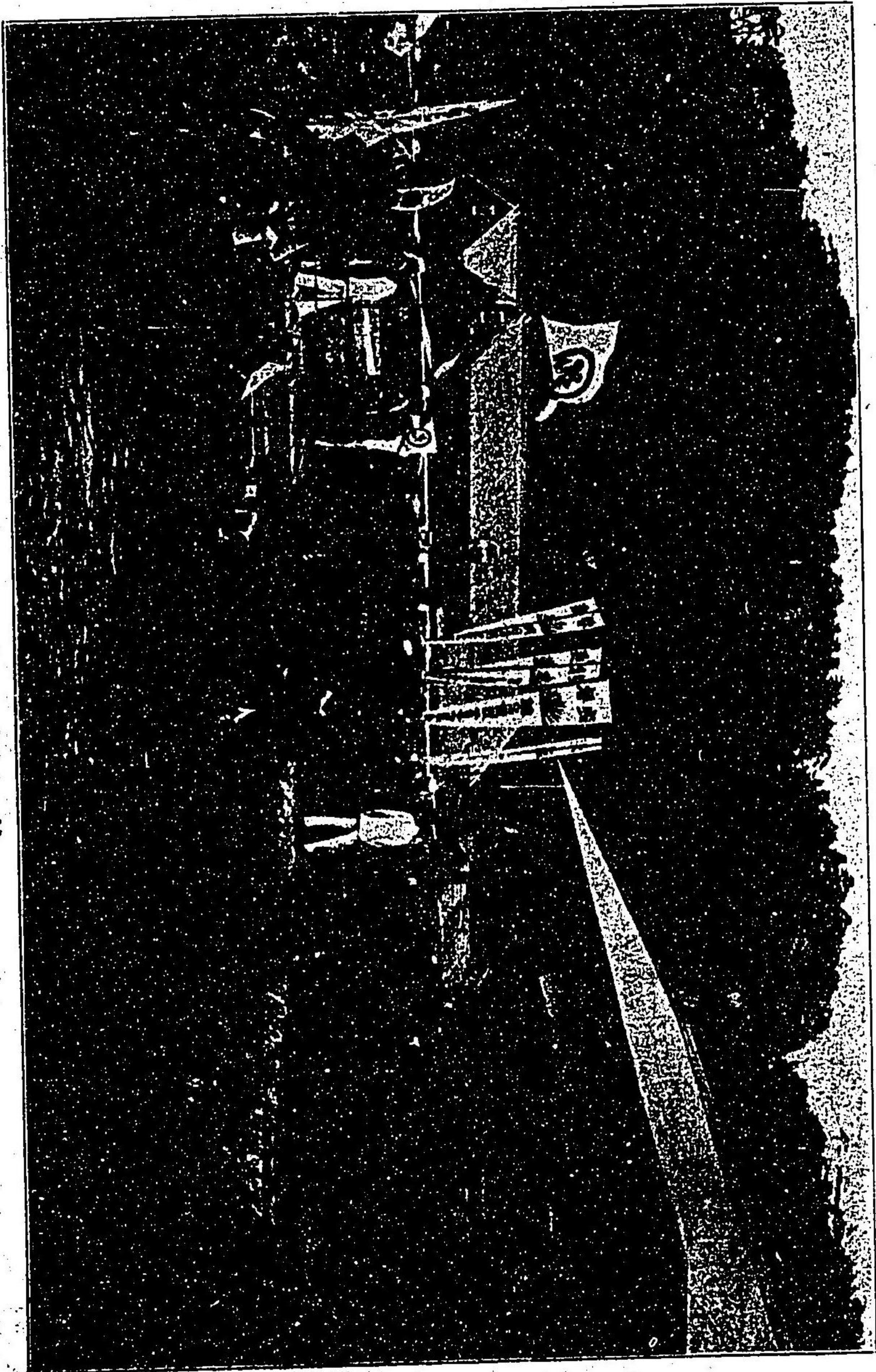


# ○敦賀安着

六月廿二日「朝日」所載

敦賀開港以來の賑ひ

世界一周會員五十四名(一名は先に歸り三名は別れて後に残る)を乗せたる鳳山丸は二十一日午前六時敦賀灣に入港せり。是より先き船影水島附近に現はるゝや、號砲一發鳴け聲に轟く。之を合圖に前日來待設けたる出迎人は一同税關波止場に整列して會員の上陸を待てり。我が社員十數名は水上警察ランヂ安寧丸にて數哩の沖まで本船を迎ふ。外に滿船飾を施せる三隻の端艇は町代表者及町歌迎員を載せ、盛に樂を奏して本船を一周し更に相歡呼せり。鳳山丸の波止場近く繫船するや、海岸にて數十發の煙花を打揚げ、景氣を添へぬ。總て會員は何れも喜色滿面に溢れ端艇に移乗して税關波止場の上陸す。之を見んとて波止場に集まれる者無慮六千數賀開港以來の賑ひにて非常の雜沓を極めたり。税關の荷物検査は特別の取扱を爲して簡易に通過し、會員は此一行の爲め特に工事を督して竣工せしめたる大和田廻漕部の休憩室に入り、此處にて鐵道廳より特に出張せしめたる驛員より乗車券を求むるの便宜を得たり。此日曇天



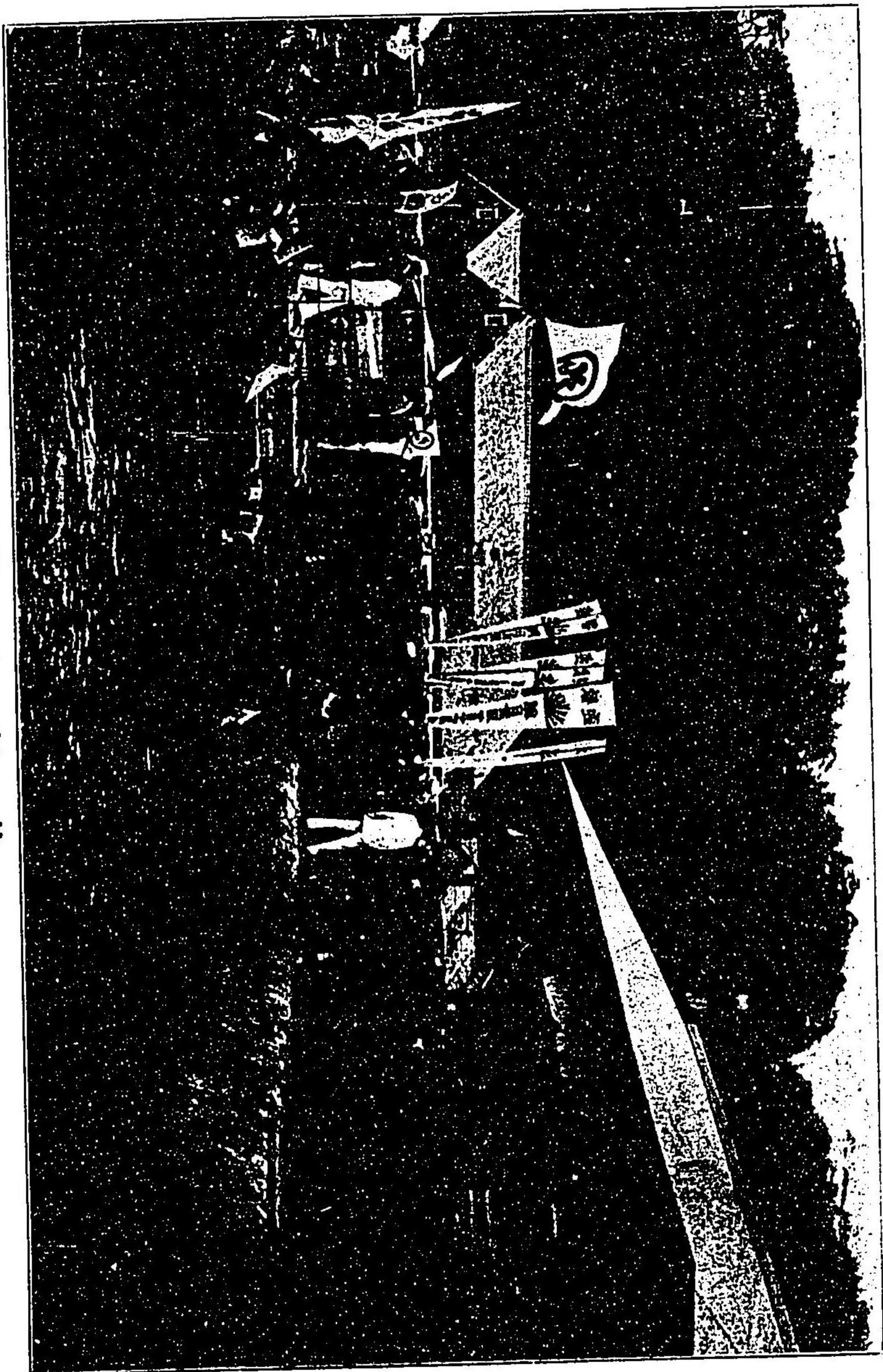
陸上賀敦

# ○敦賀安着

六月廿二日「朝日」所載

敦賀開港以來の賑ひ

世界一周會員五十四名(二名は先に歸り三名は別れて後に残る)を乗せたる鳳山丸は二十一日午前六時敦賀灣に入港せり。是より先き船影水島附近に現はるゝや、號砲一發鳴ケルに激く。之を合圖に前日來待設けたる出迎人は一同税關波止場に整列して會員の上陸を待てり。我が社員十數名は水上警察ランヂ安寧丸にて數哩の沖まで本船を迎ふ。外に滿船飾を施せる三隻の端艇は町代表者及町歡迎員を載せ、盛に樂を奏して本船を一周し更に相歡呼せり。鳳山丸の波止場近く繫船するや、海岸にて數十發の煙花を打揚げ、景氣を添へぬ。雖て會員は何れも喜色滿面に溢れ端艇に移乗して税關波止場の上陸す。之を見んとて波止場に集まれる者無慮六千敦賀開港以來の賑ひにて非常の雜沓を極めたり。税關の荷物検査は特別の取扱を爲して簡易に通過し、會員は此一行の爲め特に工事を督して竣工せしめたる大和田廻漕部の休憩室に入り、此處にて鐵道廳より特に出張せしめたる驛員より乗車券を求むるの便宜を得たり。此日曇天



陸上賀敦

會員 上陸の際一時小雨ありしも忽ちに霽れ、涼風肌に快し。我社村山上野兩社長は波止場に出で、會員を迎へたり。出迎人中には仙波少將をも見受けぬ。休憩後一同萬象閣に於ける敦賀町主催の歡迎會に列す。山本町長の挨拶あり、會員井手三郎氏答辭を述べ、會員の名を以て敦賀町に金百圓を寄附せり。是より大和田莊七氏の厚意を以て園内に設けられたる模擬店に就き、敦賀町藝妓三十名の給仕にて一同は初めて日本流の日本料理に接するを得たり。歡迎會終りて會員各自自由行動を取ることとなり、或は氣比の神宮に參拜する者あり、或は金ヶ崎宮に南朝の遺蹟を訪ふ者あり、或は鷗ヶ崎松原等の勝を探るもあり、九十餘日の海外旅行に異りたる風物を見馴れたる眼も、再び故國の山水に接して轉た感深きが如し。

### ●解散式

六月二十二日「朝日」所載

一旦散じたる會員は午前十時を期し敦賀ホテルに集れり。是れ我社の催しにて解散の式を行はん爲なり。蓋し關西關東の會員は各其行先を異にせるを以て、便宜上此處を最後の打止めとは爲したるなり。此の解散式を兼ねたる午餐會は非常の盛況にて、食堂を會場とし、椅子卓子總て洋風の裝飾を爲し、料理は日本式にて、社員石橋爲之助氏の紹介に依り村山社長起つ

敦賀安着

て開會の挨拶をなし、一周會が總て豫想外の大成功なりし事より、延いて此の舉が國家の爲め豫想外の利益を得たることを祝し、且つ會員將來の活動を希望し、之れに對し關東の田島達策氏關西の梅原龜七氏各答辭あり、何れも朝日新聞社の盡力を謝し、殊に米國大統領謁見其他豫想外の事多きは社長の言の如しと喜悅の情言外に溢れたり。次に上野社長の發聲にて會員と來賓の萬歳を三唱し、次に社員土屋氏がクック社の非常なる盡力なりし事を述ぶるや、列席のクック社員マンテリ氏は愛嬌ある辯舌もて、予は日本語を解せざるも土屋君の言葉に我社の名あるに依り聊か答へざるを得ずとて、會員久留島武彦氏に通譯を託し、先づ我社の扱ひたる團體中斯程の大團體なく、且つ斯程に能く我等の注意を容れられたる愼み深き團體は嘗て無し、我等が過ぎし歐米各國は全く諸君と風俗、人情、言語其他を異にし随つて頗る困難の旅行なりに拘らず、諸君の忍耐と勤勉は克く之を遂げたり。其間手も随分困難に出逢ひ疝癢を起し失禮せし事あるも、是れ予の短氣の故にて惡意あるにあらず。冀はくは此行の利益に依て諸君前途の幸福を期せられんことをと演説したり。夫れより午餐に移り朝日新聞社大阪商船會社等の萬歳を互に三唱し交はし、來賓として列席せし右の諸君より町嚀の答辭あり、和氣溢るる如く胸襟を開きて談笑し、會員の卓上演説等あり、同町嚀三十餘名にて杯盤の周旋をなし、

非常の盛會なりき。最後に會員外山氏の發聲にて 天皇陛下萬歳を三唱し、歡盡きざりしも發聲時間の都合もあればとて、正午過ぎ散會せり。

●會員の解散出發

六月二十二日朝日所載

解散式散じて後、午後零時三十分一同停車場前坂本屋に集合し、午後一時十四分發列車にて出發せり。教賀町民の歡迎は頗る懇切を極め會員一同に満足を與へたり。場教賀驛長の部下を率ゐ、税關附近に出張したる、北川教賀病院長の看護婦を率ゐ會員休憩所附近に出張したる、教賀商業會議所會頭大和田莊七氏の非常に熱心にあらゆる方面に一行の爲め便宜を計りたる、教賀ホテル營業主寺島定次郎氏は會員款待の爲め熱心に轉旋の勞を取りたる、教賀商業學校生徒の一同制服を着け端艇に乗て本船を出迎へたるなど皆特記するに足れり。各地よりの出迎人は非常の多數にて各旅宿何れも満員を告げ一時非常の雜沓なりしといふ。

●各地の歡迎

六月二十二日朝日所載

▲米原に袂を分つ

(三〇五)

一行を載せたる列車は新橋營業事務所旅客課の厚意により、特に關東關西兩會員の爲め各専用の一二等車を聯結され、係員を乗車せしめ其盤迄も用意し、萬端の便宜を與へられしに一行他人交せもせず打寛ろぎて足を伸ばす。敦賀より米原に至る間は、關東關西の兩會員尙同列車として車内を往復しつゝ、歡談時の移るを知らず、握手は屢交換せられ、再會は幾度か約せられて、芽出度く歸朝したる満悦の様、自ら談笑の裡に現はれたり。

斯くて列車の米原に着するや、同地青年音楽隊が篤志を以て吹奏せる送迎の樂勇ましく響き、我社京都通信員も亦數名出迎へたり。此間に列車は分割せられて、東西會員茲に袂を分つ。萬歳の聲盛んに兩列車より起りて、振る手巾に餘情盡きざるものゝ如し。

▲關東會員

△大垣と一ノ宮 一行中横濱の野村夫人は敦賀迄出迎へし野村洋三氏と共に郷里に立寄るべく大垣に、佐分君は一ノ宮驛に下車す。孰れも出迎人多かりし中に、佐分君は根據地の事として多數の歡迎者プラットフォームに並びて、お芽出度の聲汽車の響を應ずる許り。

△名古屋 汽車は六時十分名古屋に着す。本社支局員は大籠に夏蜜柑を盛て會員に呈し、京

華社支店長外數十名フォームに立ちて歡迎せり。

△濱松 大府豊橋を過ぎて濱松に達するや、停車場構内に歡迎の彩旗球燈を掲げ、濱松遠江兩新聞は勿論静岡民友、静岡新報、静岡公報、參陽新報の各支局員、東海通信社長其他の諸君車内に入りて歡迎し、果物の寄贈あり、且會員諸君の萬歳を三唱して懇に送迎し充分なる厚意を寄せられたり。

△静岡 夜は既に開けて、静岡に着きしは十二時近き頃なりしが、熱心なる静岡市諸君は何條時刻に拘はるべき、深夜を冒してプラットフォームに歡迎せし人、數十名の多きに及び、構内には歡迎の文字を現はせる大小の旗及び朝日新聞社徽章を記せる提灯數十張を列ね、音楽隊の奏樂ありて會員一齊に萬歳を唱和されしは、實に非常の盛況にして、夜半だけに夢の如き思ふりと一會員は叫びぬ。歡迎の重なる人々は静岡民友新聞、静岡新報の社員全部、新聞堂江河勝太郎氏等にて、民友新聞社よりは特に社員石井藤田二氏を藤枝より列車に乗込ませしめて歡迎の先驅となし、且關東會員全部に對し夏蜜柑枇杷杏等を盛たる美しき果物籠二十五個、同社速記部加藤光太郎氏は枇杷の大籠、静岡新報社よりビール一打等を寄贈せられ、新聞堂主人よりは紅色に白く「歡迎世界一周會員歸朝」と染抜きたるモスリン大旗一旒、夏蜜柑大籠、團扇數十

本等を贈られ尙人夫數十名に揃ひの袈裟を着せて出迎へしなど、一方ならぬ盡力あり。

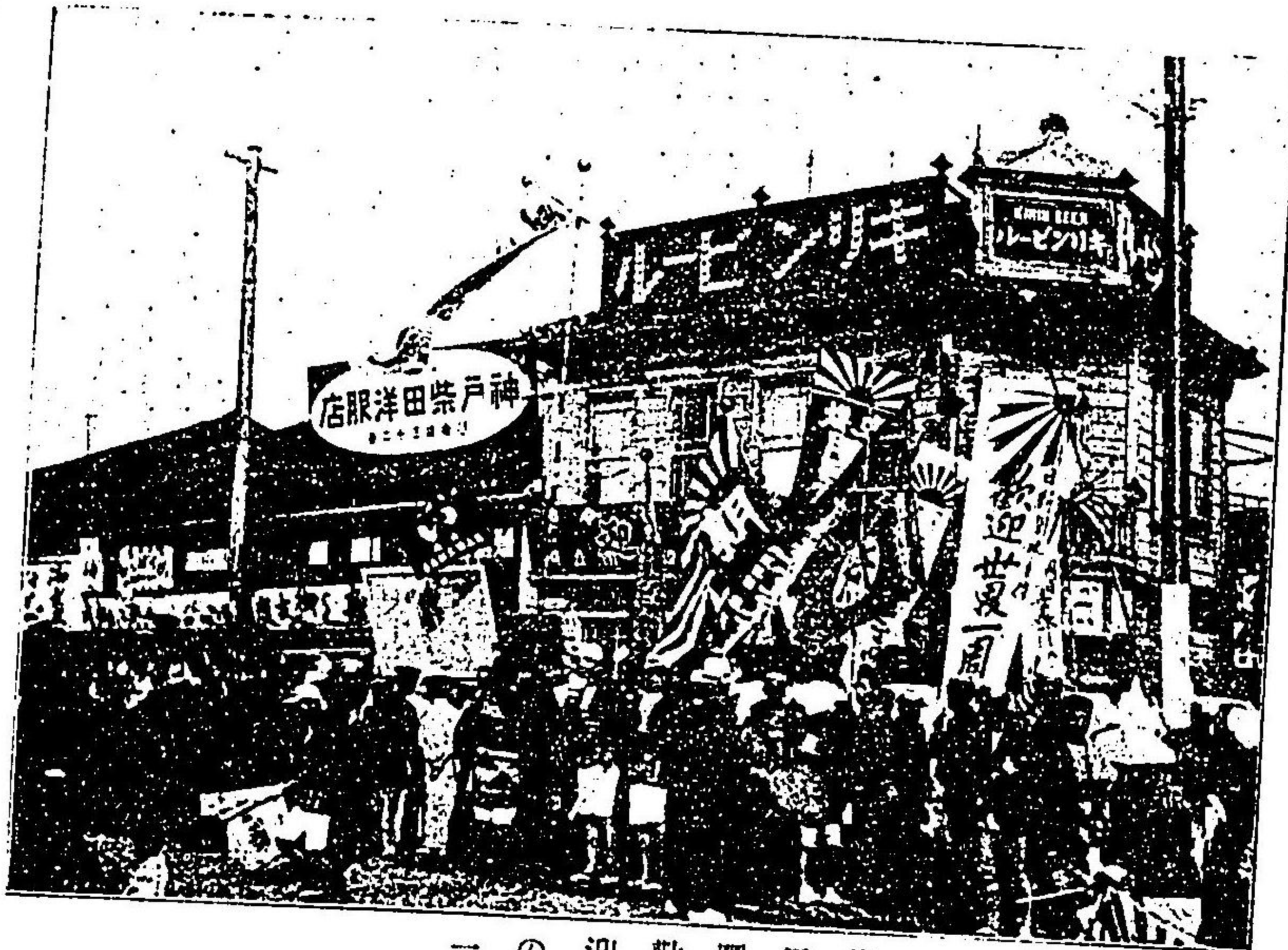
△横濱 横濱支局員一同は各自社旗を携へ、午前四時五十二分平沼通過の第一着會員諸氏を歓迎し、同停車場は時ならぬ賑ひを呈したるが、次で同八時廿六分着野村美智子夫人の歓迎は獨り支局員のみならず釋宗演禪師を始め、横濱の紳士夫人令嬢三百餘人出迎へ非常の光景なりき。

△東京 新橋停車場には市内重なる新聞賣捌店、本社員等數十名及び會員の知人等待受けて歓迎し、停車場前の廣場に歓迎旗を樹て音楽隊の吹奏あり。會員川田氏の爲めに大久保なる高千穂學校生徒數十名は制帽制服にて出迎へ、美麗なる花籠を氏に贈り一同整列の上撮影し、又煙花數十發を打揚げて祝意を表せしが、附近は見物翹集して一時頗る雑沓せり。此際會員久留島君の爲に報知新聞社の諸君出迎へあり、又會員小川君の爲に停車場前の旅館つる屋方に休憩所を設けられ、其他の會員歓迎者夥しかりしも、諸氏は都合上尙歸京せざりしより歸京會員の爲に萬歳を唱へて引揚げたり。

▲關西會員

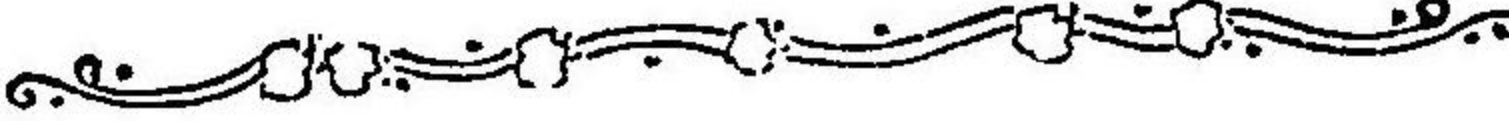
△京都 世界一周會員は廿一日午後五時卅五分京都驛に到着せり。我旅通信部にては、驛前菊岡屋に歓迎者休憩所を設け、紅白の幔幕を四方に繞らし、交又せる社旗は屋上高く風に翻れり。其他歓迎の大小旗無數なり。定刻前より歓迎者は絡繹として休憩所に詰かけ、さしもに廣き同所も立錫の地なきに至れり。同五時十分音楽隊を先頭に構内に入り、ブラットフォームに整列す、其數無慮千餘名、列車の鴨川を越ゆる際、京華社より奇贈の煙花は揚られ、夫と同時に歓迎の奏樂は起れり。列車の驛に着するや、各歓迎者、一齊に萬歳を三唱し、京都會員なる三谷、井山の兩會員及勝田大阪會員は下車せり。六分間停車の後煙花と奏樂と萬歳とに送られ午後五時五十一分大阪に向ひ出發す。斯て下車會員を護し音楽隊を先だて休憩所菊岡屋に入り各自退散せしは六時半頃なり。

△大阪 大阪着の豫定は午後六時三十六分なれば、五時前より停車場に詰かくる歓迎人見物人數を知らず、其賑ひは殆ど言語に絶せり。停車場昇降場は歓迎人を以て埋められたれば、着車前數回の列車に昇降する者此雜沓に妨げられて、唯ウロ／＼する許りなり。停車場係員の語る所に依れば前年ブース大將が來りし時と、西本願寺法主が洋行より歸りたる時と今回とが、非常なる賑ひにて特に今回を以て最とす、入場券の發賣數は二千を超えたりと。着車は豫定より



梅田驛の歓迎

(三二〇)  
 り遅れて午後七時十分前一發の號砲を聞き、昇降場に群がれる歡迎人一時に動搖めき渡り、夫れ着車よといふ間もなく、轟々たる響と共に汽車は蜿蜒として昇降場に入來りぬ。一時に起る唳唳たる樂隊の奏樂と共に萬歳の聲は天地を撼かしたり。會員何れも喜色滿面萬歳聲裡に下車するや、歡迎人は我先きにと客車の前に押寄せぬ。此混雜名状すべからず。應て一同は豫て準備せる腕車に乗りて本社に向へり。沿道の群集も停車場に劣らず、人垣と言はんより寧ろ人の隧道を爲し、一行の過ぐるを見送りつゝ、萬歳を唱へ居たるは、壯とや言はん快とや言はん、本社



梅田驛の歓迎

にては君が代の奏樂中に萬歳を唱へ、會員一同暫時休憩の後各旅舎に就きしは芽出たしとも芽出たし。我親愛なる世界一周會員萬歳。(大阪發電)  
 △神戸 一周會員を乗せたる列車は午後六時二十分神戸驛に着せり。是より先き楠公社内驛前各旅館を夫々出迎者の休憩所に宛て午後六時半頃より驛に出迎ふ者陸續相踵ぎ、應て定刻頃には驛の内外人を以て埋められ、歡迎の旗高張提灯等入り亂れて賑は言はん方なく、之が爲驛前は一時車馬の通行を絶ちたる程なりき。本社神戸販賣局の歡迎樂隊は唳唳としてマーチを奏し、萬歳聲裡に柴田、増

谷父子、瀧川、赤山諸氏は喜悅満面の態にて下車し、歡呼の聲と音楽とに包まれて驛前の各休  
憩所に入りしが、驛前は此時一層の混雑を極め殆ど立錐の餘地なき盛況を呈したり。斯くて會  
員は思ひくに出迎人に擁せられて芽出たく歸家したり。

### ●世界一周會員の歸るを迎ふ

(六月二十一日大阪朝日新聞社説)

地球は東に向つて廻轉し、一晝夜に一廻轉す。世界一周會員は其の東に廻る地球を東に踏ん  
で一廻轉し、三月十八日横濱を發してより正に九十六日を以て敦賀に歸着せり。其の出發に臨  
んでや、之を呪ふものあり。出發後の盛況を見てや、之を知らざる爲す。島國人の根性と、他  
の成功を妬むの心とは實に恥かしきものあり。其の恥かしきは内日本人に對してにあらす、外  
世界各國に對してなり。看よ日本人排斥の聲感にして、動もすれば疑懼の念を抱かしめんとす  
る北米合衆國に於て、我が世界一周會員を款待優遇したるの例は、幾んど空前なりき。其の特  
別列車を發したる、各紳士の二百哩餘も出迎へしたる、大統領の握手したる、實に履を倒まに  
して迎ふるの趣あり。大西洋を渡りて英國に入るや、其の歡迎米國に異ならず、殊にノースク

リップ卿の園遊會の如き、縁も由緒もなき極東の一旅行團體に、斯も好意を盡す、謝するにも  
辭なきなり。其の他巴里に伊太利に伯林に露都に、到處特別の待遇を受け、殊に日獨協會の  
請待の如き、交情の管ならざるを示すものあり。又各處の公館吏員及び在留同胞の之を迎へた  
る、實に言語に絶す。之を内地邦人の動もすれば冷眼視し、若くは傷げんとするものに比し、  
其の膽識何れぞ。吾人は斯る島國人根性の今日の時勢に容れられざるを知り、一には之を打破  
し、一には世界的知識を擴めんが爲に、此の世界一周會を企てたり。而して成功したりき。會  
員は皆中流以上の士なり、中婦人三名を加へ得たる如き、吾人の最も喜ぶ所なり。溝を越えて  
も心悸き、谿を窺いても膽落つるもの、今の世に少かるべけれど、世界旅行を以て大儀とし、  
今尚桃花源裡の春を夢みるもの無きにもあらず。其の癖・戦に勝ちたりとて、世界の一等國  
たるが如き鼻を爲し、自ら知らざるのみか、彼れをも知らず、一種驕矜の氣に滿ち、無智蒙昧  
の愚を守る。故に我が社の世界一周計畫は、此の風氣を一新せんが爲、高尚の目的を有したり。  
而して成功したりき。會員として此の行に加はりしもの、會員たらずして其の記事を讀みたる  
もの會員として今後社會に智徳を及ぼすもの、會員たらずして間接に其の感化を受くるもの、  
徳孤ならず必ず隣りあり、吾人は此の行の實に空しからざるを信じ、且其の成功を喜ぶ。何を



か會員の智徳を増せしといふ。百聞は一見に若かず、如何に上流の士と雖も、其の想像は思ひ半に過ぐるものありたるべし。米國を觀ては其の盛に驚き、英國を觀ては其の整に驚き、佛國を觀ては其の華に驚き、伊國を觀ては其の興亡を驚み、獨國を觀ては其の清新の氣を學び、露國を觀ては其の大と親しむべきとを知り、見るとして師ならざるはなく、接するとして益あらざるはなく、古今興廢の跡、文明富強の原、最新思想の潮流、現代技術の進歩、皆此の九十六日旅行の袋に藏められ、之を小口に應用し、大口に活用し、隨處其の用ふる所に適し、日本の日本たる眞價、日本の世界に對する位地、日本今後の天職、皆察りて世界一周會員の囊底にあらんとす。本社此の企てを爲したる、實に空しからざるを信す。而して世界的觀念と世界的膽識は、先づ第一に發露し、島國的根性のものを愧死せしむるに至らんことを冀望す。今や會員諸氏、恙なく萬里の鵬程を終り、暮はしき日本の土を踏み、其の山河と笑ひ、草木と語し、殊に其の國民の用ふる言語の俄に解り易くして詞玉の幸はふ國たるを知り、其の心地如何ばかり嬉しきぞ。敦賀に吐きし第一の呼吸と歩一歩家に近づくの空氣は一層の味ひあるべし。此の味一生忘らるべきや。吾人は此の行の成功と會員諸君の無事歸着を祝すると同時に、此の機會を以て會員の通過せる世界萬國の君主及び人民並に我が同胞諸君の厚遇款待を謝し、併せて

其の萬福を祈る。

### ●世界一周會員歸着

(六月二十二日東京朝日新聞社説)

世界一周會員は出發以來約三箇月、時日は甚だ短けれど、既に世界を一周し終りて、其中の關西會員は、昨夜を以て大阪に、關東會員は今朝を以て新橋に歸着の筈なり。旅行中の出來事に就ては、電報に、通信に日々接手したるが、其報告によれば會員諸君も十分に満足したるらしく、吾人も日々之れを讀みて限りなく満足せり。歐米到る處に於て、大使館、領事館、其在留の同胞の歡迎は申すに及ばず、見ず知らずの歐米人までが、誠意を盡くして歡迎し呉れたるが如し。或は商業會議所其他の團體を代表して數百哩の遠方まで出迎へ呉れたるあり、或は滅多に許さざる自由市民權を會員に許し呉れたるあり。何れも會員諸君の名譽として長へに其原意を謝せらるゝこと信するが、中につき諸君の最も名譽とせらるべきは、米國に於て大統領閣下が其夫人と共に貴重なる時間を割きて、特に會員に謁見を許され、一々會員と握手せられたると、及び倫敦に於て市長が特に會員をギルドホールに招待せられたると是なり。是等は獨り會員諸君の名譽たるのみならず、實に其主催者たる東西兩朝日新聞社の名譽なり。米國

大統領に對しては直に謝電を發し置きたるが、其他の歡迎に對しては、此に會員を代表して謝意を致し置く。

斯て會員諸君は、到る處に大持てに持て、非常に満足したるのみならず、又大に利益したるを疑はざるなり。ナイアガラの瀑布を見ては、其雄壯なるを感ずると同時に、水力電氣の如何に盛に應用せられつゝあるかを實見したるならん。倫敦の謂ゆるシチーに於て車馬絡繹たるを見るも同時に、社交上英人の如何に秩序を重んじ、禮讓を尊ぶかを目撃したるならん。而して西伯利亞を通過しては、露國式鐵道の如何に大仕掛なるかを知悉するを得たらん。斯くて六十名近くの會員が各自に目撃し、感動し、而して利益したる所のもの必ず多かるべく、吾人は其土産話を聞くを樂しむものなり。否、諸君の朋友、諸君の家族は日々其土産話を聞かんとを指折り數へて待ち居たるべし。斯くて諸君の土産話を聞く所の諸君の家族朋友等は、諸君の趣味ある土産話を聞くと同時に、知らず識らずの間に亦世界的知識を獲得するを得ん。諸君の利益は大にしては國家の利益となる。此に於て吾人は世界一周會の催しの無用にあらざりしを信ずるものなり。但し今回の世界一周會の舉が極めて満足に、極めて有益に終を告げたるに就ては、吾人の會員と共に遺亡すべからざるはクツク社の盡力なり。吾人は會員を歡迎すると同時に、併せて同社の勞を謝す。

●一周會嚮導者マンテリ氏の談

我が社主催世界一周會は非常の好成績を以て一段落を告げたるが、之れが嚮導者として會員と共に歐洲大陸を横斷したるトーマス、クック社のマンテリ氏は序を以て一行と共に我國に來遊し、氏は今回の旅行につき語つて曰く、白丸が一周會のコンダクターとなりしは遠くもあらぬ五月十日の事で、倫敦に於て就任しました。夫より以前に一周會の催があることは耳にして居りましたが、初めは随分心配しました。今日迄歐米各國に於ても如斯舉は到る處に行はれて居るが、大抵は廿名から三十名位で五十餘名といふ多數は從來餘りない。之れを嚮導するには中々骨が折れるだらうと思つて居ました。處が會員諸君に會つて見ると、流石は東洋牛國の紳士淑女だけあつて、自分の申す事は凡て能く用ひて貰つたから、萬事都合で、今歐米人ならばホテルの客室が悪いとか、食事が善くないとか色々小言や不平をいふが、今諸君は毫も其廢事がなかつた。さて五十名以上を泊めるホテルといへば歐洲でも尠いが、小狭苦しくつても我慢をして和氣霽々、時には自分の部屋を態々訪ねられて、斯な品物を購ふ

からと見せてくださった婦人もあれば、感謝の言葉を深山に述べて下さる方もあつた。暫らくの間でしたが、會員諸子と親しく御交際したので、自分も「お暑う御座います」とか「おやすみさい」なぞいふ日本語を大分覚ええました。兎に角今回の擧は歐米人に深き印象を興へまし。

●クツク社横濱支社長ケーザー氏來書

朝日新聞主催世界一周會は我トマス、クツク社が極東に於て依頼を受けたる眞最初の大畫なりしが、幸に進歩的にして當世的なる發起者の側より見るも又五十餘名の會員諸氏の側より見るも、意外の大成功を收め得たるは、其計畫の大なりしだけ我社の喜とする所も亦大也。海に陸に、非常に廣大なる面積に亘りて世界旅行を企てたる此大團體が途中聊かの怪我もなく一人の病人をも出さず、又其豫定行路の遅延並に止み難き變更等をも来すことなくして、恙なく其壯舉を完成したるを回想するは非常の快事ならずとせず。今や我クツク社の事務所は、常に世界主要の地點を連結するのみならず、又不時特別の旅客にも便せんため歐羅巴より濠洲及び南部亞弗利加に至る通路中、旅客の注意を引くに足るべき各地にも又此事務所の設けあらざるはなし。而して其旅客が案内者を有する大小團體に加入せ



氏一ザケ長社支濱横社クツク  
Mr. A. E. KAESER.

と、觀光又は事務用の爲め單獨旅行を企て居ることを問はず、我社は此等の旅客に對し、旅券の取扱は云ふに及ばず、銀行又は兩替事務所をも各地に設置して、金銭の遞送外國貨幣の引換並に世界各地への送金事務をも最も簡便に取扱ひ、又我社の荷物船積部及び運輸部は手荷物又は貨物の船積並に保險事務等をも取扱へり。

世に國外旅行ほど効果ある教育なしとは世人の屢筆にせる所なり。而して我社は今朝日新聞社が此大團體組織の計畫に於て、常に其會員諸氏のみならず、延いて又此等會員諸氏に接觸する多數人にも多大の利益及び影響を興へしを信じて疑はず。而して其等多數人の中には是が爲め外國の事情に大なる興味を有するとなり、終には又彼等會員諸氏の足跡を追うて、自ら世界一周に出掛ぐる者あるに至るやも知れざるなり。

此數年以來旅行に關する設備の著しく改良進歩したる爲め、旅行は實に便利簡便なるものとなり、今日にては富有者は勿論餘り富有ならざる者にも、外國旅行は差して困難ならざるに至れり。我社は世界各國の主要なる鐵道及汽船會社と特約を結べるを以て、何時にても此等諸會社の代理人なる資格を以て此等會社に關する諸事項の問合に應じて精確なる報道を供し、又此等が發行に係る切符を旅客に供給して、旅客の便宜を圖ることを得べし。

世界一周畫報終

明治四十一年九月二十日印刷  
明治四十一年九月廿五日發行

定價金壹圓

東京朝日新聞社藏版

著作者

石川周行

發行兼  
印刷者

東京市京橋區瀧山町四番地  
合名東京朝日新聞會社

右代表者

沼田寅次郎

印刷所

合名東京朝日新聞會社

發行所

合名東京朝日新聞會社

東京市日本橋區本町三丁目

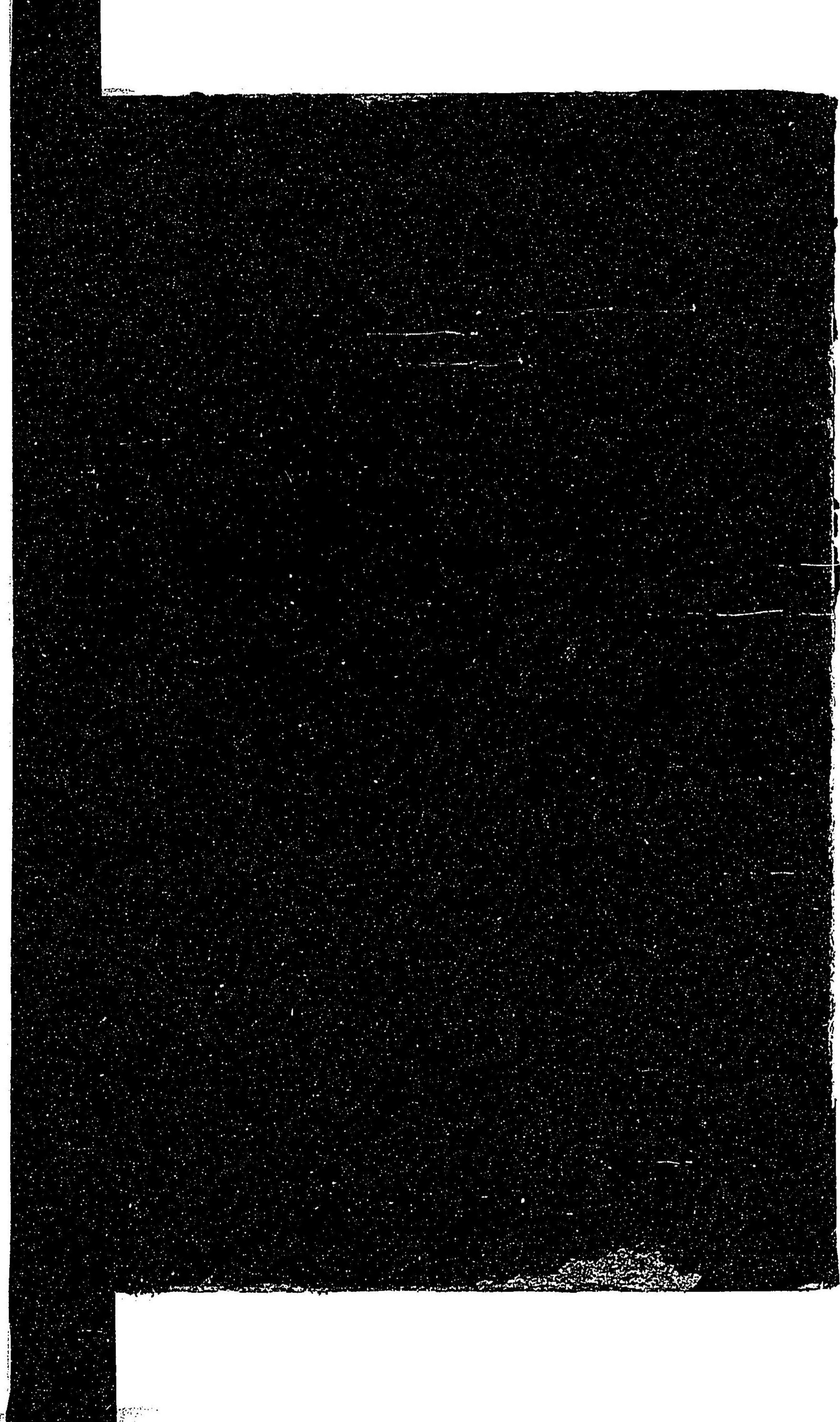
不許複製

發賣元

博文館

63  
208

[Illegible handwritten text]



63  
208

022040-000-6

63-208

世界一周画報

石川 周行/著

M41

ADA-0373

